PC98-NX

活用ガイド
ハードウェア編

本体の構成各部

周辺機器の接続と設定

システムの設定

PC98-NX SERIES

VersaPro

オールインワンノート
（Dシリーズ/Rシリーズ）

本機に添付されているマニュアルを、目的にあわせてご利用ください

ご購入いただいたモデルによっては、下記以外にもマニュアルが添付されている場合があります。『はじめにお読みください』「7.マニュアルの使用方法」でご確認ください。

◆ 添付品の確認、本機の接続、Windows XP、Windows 2000またはWindows Meのセットアップ
→『はじめにお読みください』

◆ 本機を安全に使うための情報
→『安全にお使いいただくために』

◆ Windowsの基礎知識、基本的な操作方法
Microsoft社製『ファーストステップガイド』または『クイックスタートガイド』

このマニュアルです

◆ 本機の各部の名称・機能、システム設定(BIOS設定)
→『活用ガイド　ハードウェア編』(電子マニュアル)

◆ 本機の機能を拡張する機器の取り付け方
→『活用ガイド　ハードウェア編』(電子マニュアル)

◆ 本機にインストール/添付されているアプリケーションの削除/追加、他のOSのセットアップ
→『活用ガイド　ソフトウェア編』(電子マニュアル)

◆ トラブル解決方法
→『活用ガイド　ソフトウェア編』(電子マニュアル)

◆ 再セットアップ方法
→『活用ガイド　再セットアップ編』

◆ 環境に関する情報
→『環境ガイド』(オールインワンノート(Dシリーズ)のみ)

◆ 選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)の利用方法
→ Office XP Personal、Office XP Professionalがあり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルによって異なります。

◆ パソコンに関する相談窓口、受講施設、故障時のサービス網、およびNECの企業向けパソコン関連総合サイト「NEC 8番街」のご案内
→『NEC PCあんしんサポートガイド』

Microsoft関連製品の情報について

次のwebサイト(Microsoft Press)では、一般ユーザー、ソフトウェア開発者、技術者、およびネットワーク管理者用に、Microsoft関連製品を活用するための書籍やトレーニングキットなどが紹介されています。
http://www.microsoft.com/japan/info/press/

このマニュアルは、フォルダやファイル、ウィンドウなど、Windowsの基本操作に必要な用語とその意味を理解していること、また、それらを操作するためのマウスの基本的な動作が一通りでき、Windowsもしくは添付のアプリケーションのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に書かれています。
　もし、あなたがパソコンに初めて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などで一通り経験してから、このマニュアルをご利用になることをおすすめします。

この活用ガイドは、以下の機種について書いてあります。
PC98-NXシリーズVersaPro
VA16F/DG、VA16F/DF、VA13F/DF、VA13F/DX、VA18X/DF、VA18X/DX
VA24S/RF、VA20S/RF、VA20S/RX、VA18X/RF、VA18X/RX

　選択アプリケーション、本機の仕様については、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様にあわせてお読みください。
　仕様についての詳細は、『VersaPro/VersaPro R 電子マニュアル』の「機能仕様一覧」をご覧ください。

2003年　　5月　初 版

853-810602-062-A

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。

	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
	パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。
	利用の参考となる補足的な情報をまとめています。
参照	マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

◆このマニュアルで使用している表記の意味

本機	次の機種を指します。 VA16F/DG、VA16F/DF、VA13F/DF、VA13F/DX、VA18X/DF、VA18X/DX VA24S/RF、VA20S/RF、VA20S/RX、VA18X/RF、VA18X/RX
本体	周辺機器を含まない次の機種を指します。 VA16F/DG、VA16F/DF、VA13F/DF、VA13F/DX、VA18X/DF、VA18X/DX VA24S/RF、VA20S/RF、VA20S/RX、VA18X/RF、VA18X/RX
CD-ROM	CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM、DVD-RAM、DVD-R、DVD-RWを指します。書き分ける必要がある場合は、その媒体の種類を記載します。
オールインワンノート（Dシリーズ）	VA16F/DG、VA16F/DF、VA13F/DF、VA13F/DX、VA18X/DF、VA18X/DX
オールインワンノート（Rシリーズ）	VA24S/RF、VA20S/RF、VA20S/RX、VA18X/RF、VA18X/RX
DVDマルチモデル	DVDマルチドライブを内蔵または添付しているモデルのことです。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを内蔵または添付しているモデルのことです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを内蔵または添付しているモデルのことです。
CD-ROMモデル	CD-ROMドライブを内蔵または添付しているモデルのことです。
CD/DVDモデル	DVDマルチドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-ROMドライブのいずれかを内蔵または添付しているモデルのことです。
フロッピーディスクモデル	フロッピーディスクドライブが添付または内蔵されているモデルのことです。

ワイヤレスLAN（無線LAN）モデル	デュアルバンドワイヤレスLAN機能、または2.4GHzワイヤレスLAN機能を内蔵しているモデルのことです。
デュアルバンドワイヤレスLAN（無線LAN）モデル	5GHzと2.4GHzの両方の周波数に対応したワイヤレスLAN機能を内蔵しているモデルのことです。
2.4GHzワイヤレスLAN（無線LAN）モデル	2.4GHzの周波数に対応したワイヤレスLAN機能を内蔵しているモデルのことです。
FAXモデムモデル	FAXモデム機能を内蔵しているモデルのことです。
内蔵指紋センサモデル	指紋センサを内蔵しているモデルのことです。
【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
【　】+【　】	キーを同時に押すことを表します。
BIOSセットアップユーティリティ	本文中に記載されているBIOSセットアップユーティリティは、画面上では「Phoenix BIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。
CD/DVDドライブ	本文中に記載されているCD/DVDドライブは、DVDマルチドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-ROMドライブのいずれかを指します。
デュアルバンドワイヤレスLAN機能	5GHzと2.4GHzの両方の周波数に対応したワイヤレスLAN機能のことです。
「スタート」ボタン→「（すべての）プログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」	「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「（すべての）プログラム」を選択し、横に現れるサブメニューから「アクセサリ」→「メモ帳」を順に選択する操作を指します。

◆このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows	次のいずれかを指します。 ・Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版 ・Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 ・Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版 ・Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows XP	・Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版 ・Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版

Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版

◆このマニュアルで使用しているイラスト、画面、記載内容について

・本機のイラストや記載の画面は、モデルによって異なることがあります。

・本書に記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。

◆デバイス マネージャの開き方

・Windows XPの場合

1 **「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」をクリックする**

2 **「システムタスク」の「システム情報を表示する」をクリックする**

3 **「ハードウェア」タブの中の「デバイスマネージャ」ボタンをクリックする**

「デバイスマネージャ」が表示されます。

・Windows 2000の場合

1 **「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックする**

2 **「システム」をダブルクリックする**

3 **「ハードウェア」タブの中の「デバイス マネージャ」ボタンをクリックする**

「デバイス マネージャ」が表示されます。

・Window Meの場合

1 **「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックする**

2 **「システム」をダブルクリックする**

3 **「デバイス マネージャ」タブをクリックする**

「デバイス マネージャ」が表示されます。

メモ

Windows Meをお使いで、「コントロール パネル」ウィンドウに「システム」アイコンが表示されていない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてアイコンを表示させてください。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。
対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

■技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づき技術基準認証済みの通信機器が搭載されています。認証番号は次のとおりです。

通信機器	認証番号
モデム	A02-0604JP
デュアルバンドワイヤレスLAN（無線LAN）	D02-1010JP
2.4GHzワイヤレスLAN（無線LAN）	D03-0001JPB

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国モードに設定してご使用になりますと電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。なお、ご購入時の使用国モード（初期値）は「日本モード」となっておりますので、設定を変更しないでそのままご使用ください。

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

■瞬時電圧低下について

［バッテリパックを取り付けていない場合］

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

［バッテリパックを取り付けている場合］

本装置にバッテリパック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

■レーザ安全基準について

DVDマルチモデル、CD-R/RW with DVD-ROMモデル、CD-R/RWモデル、CD-ROMモデルには、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のDVDマルチドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-ROMドライブのいずれかが内蔵または添付されています。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、NEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外における保守・修理対応は、海外保証サービス[NEC UltraCare SM International Service]対象機種に限り、当社の定める地域・サービス拠点にてハードウェアの保守サービスを行います。サービスの詳細や対象機種については、以下のホームページをご覧ください。
　http://www.ultracare.com
(7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindowsは本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
(9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。
(10)本書に記載しているWebサイトや連絡先は、2003年4月現在のものです。

■輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。(ただし、海外保証サービス[NEC UltraCare℠ International Service]対象機種については、海外でのハードウェア保守サービスを実施致します。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

■Notes on export

This product(including software)is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC※1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC※1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.(Only some products which are eligible for NEC UltraCare℠ International Service can be provided with hardware maintenance service outside Japan.)

Export of this product(including carrying it as personal baggage)may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

※1:NEC Corporation、NEC CustomTechnica, Ltd.

目 次

PART 1

PART 2

PART 3

PART 4

PART

1

本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから、内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明します。

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

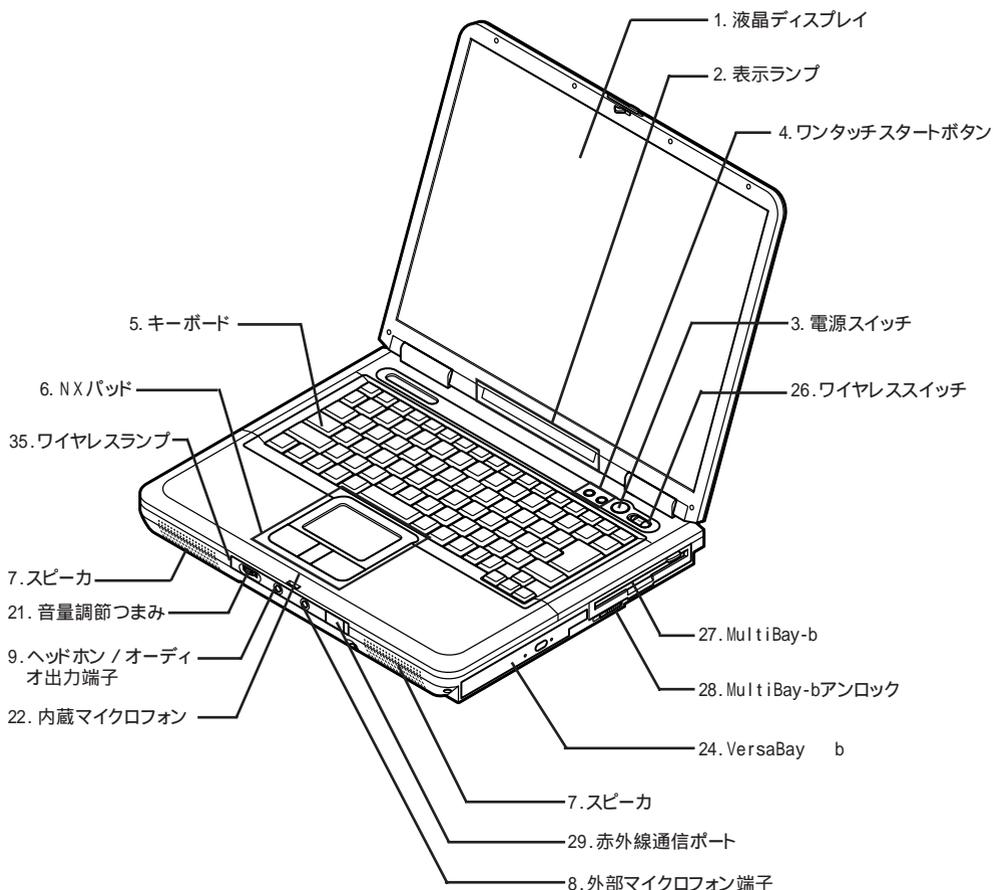
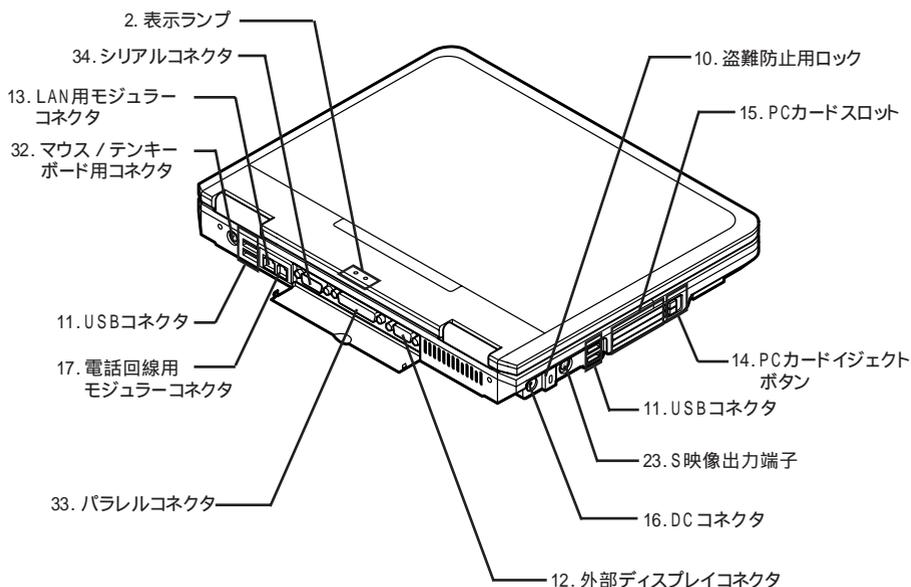
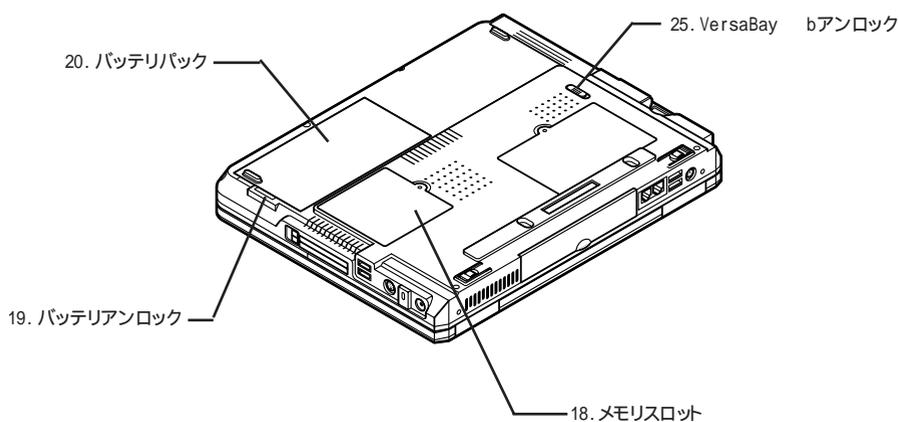
各部の名称

本体各部の名称と配置について説明しています。

オールインワンノート(Dシリーズ)

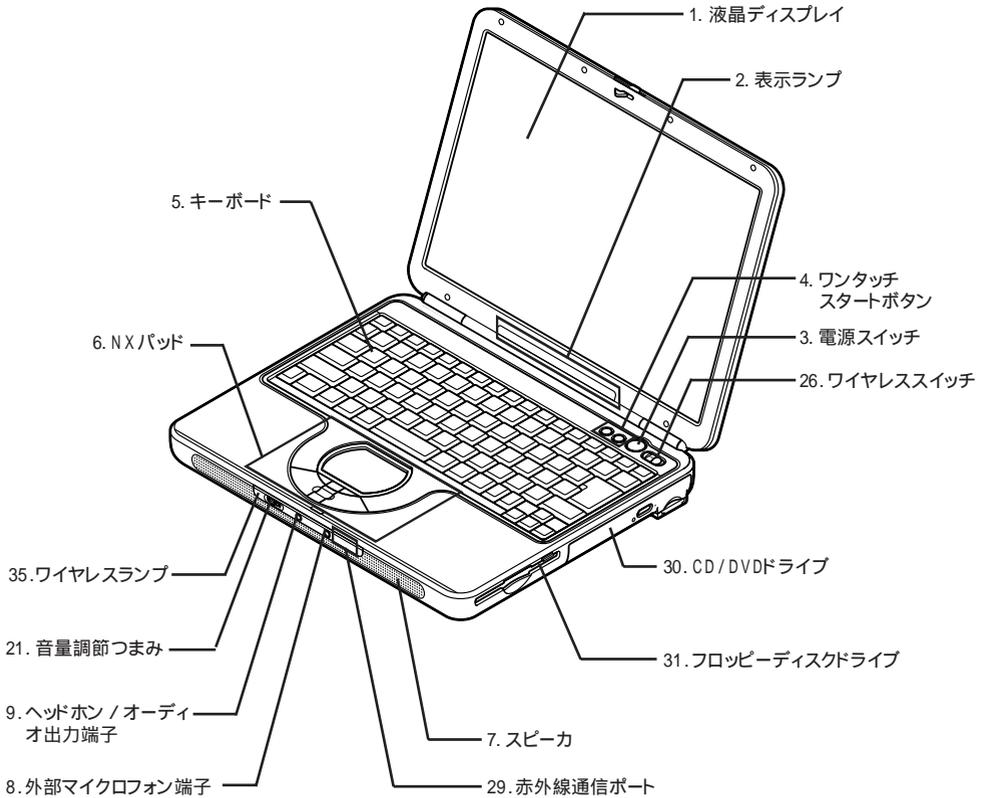
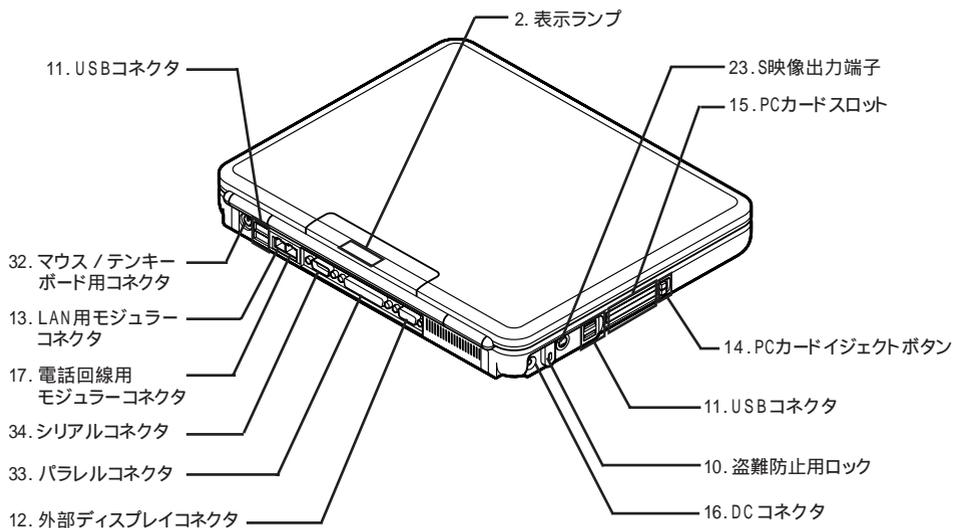
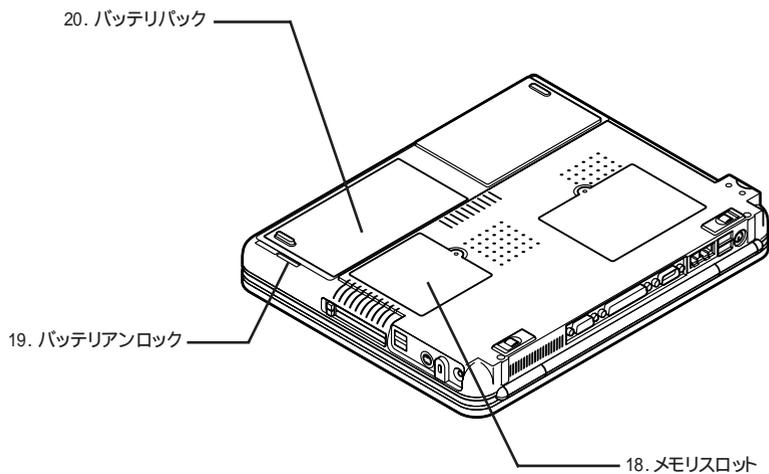
◎ 本体前面/右側面

◎本体背面／左側面

2. 表示ランプ
34. シリアルコネクタ
13. LAN用モジュラーコネクタ
32. マウス／テンキーボード用コネクタ
11. USBコネクタ
17. 電話回線用モジュラーコネクタ
33. パラレルコネクタ
10. 盗難防止用ロック
15. PCカードスロット
14. PCカードイジェクトボタン
11. USBコネクタ
23. S映像出力端子
16. DCコネクタ
12. 外部ディスプレイコネクタ

◎ 本体底面

※： メモリスロットはカバーを取り外した内側にあります。

オールインワンノート（Rシリーズ）

◎ 本体前面

◎ 本体背面

◎ 本体底面

※：メモリスロットはカバーを取り外した内側にあります。

各部の説明

1. 液晶ディスプレイ

本機のディスプレイです。
詳しくは「液晶ディスプレイ」(p.78)をご覧ください。

2. 表示ランプ

本機の動作状態を表します。
詳しくは「表示ランプ」(p.25)をご覧ください。

3. 電源スイッチ(⏻)

電源のオン／オフや省電力機能を使用するときのスイッチです。
詳しくは「省電力機能」(p.36)をご覧ください。

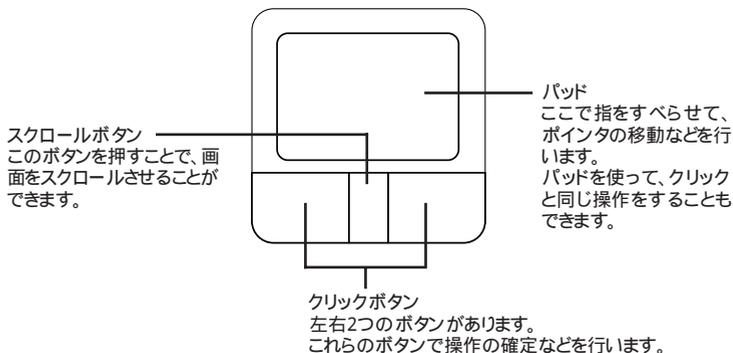
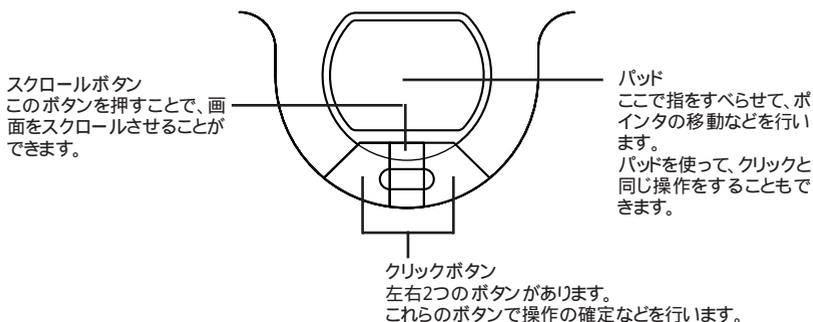
4. ワンタッチスタートボタン(Ⅰ／Ⅱ)

ワンタッチで機能を実行するためのボタンです。
詳しくは「ワンタッチスタートボタン」(p.52)をご覧ください。

5. キーボード

詳しくは「キーボード」(p.48)をご覧ください。

6. NXパッド

◆ オールインワンノート(Dシリーズ)の場合

◆ オールインワンノート（Rシリーズ）の場合

詳しくは「NXパッド」（p.56）をご覧ください。

7. スピーカ

内蔵のステレオスピーカです。

8. 外部マイクロフォン端子（🎤）

市販のマイクロフォンを接続し、音声を入力するための端子です。

9. ヘッドフォン／オーディオ出力端子（🎧）

市販のヘッドフォンやオーディオ機器を接続し、音声を出力するための端子です。

10. 盗難防止用ロック（K）

別売のセキュリティワイヤーを取り付けて本機の盗難を防止することができます。
詳しくは「セキュリティ機能」（p.120）をご覧ください。

11. USBコネクタ（USB）

USB機器を接続するための端子です。
詳しくは「PART2　周辺機器の接続と設定」の「USBコネクタ」（p.172）をご覧ください。

12. 外部ディスプレイコネクタ（▭）

市販のディスプレイやプロジェクタを接続し、本機の画面を出力するための端子です。
詳しくは「PART2　周辺機器の接続と設定」の「外部ディスプレイ」（p.157）をご覧ください。

13.LAN用モジュラーコネクタ（品）

LAN（ローカルエリアネットワーク）に接続するための端子です。
詳しくは「LAN（ローカルエリアネットワーク）」（p.109）をご覧ください。

14.PCカードイジェクトボタン

PCカードを取り出すときに使います。
詳しくは「PART2　周辺機器の接続と設定」の「PCカード」（p.164）をご覧ください。

15.PCカードスロット

市販のPCカードを挿入するためのスロットです。
SCSIインターフェイスカードを使ってMOドライブやハードディスクなどを利用することもできます。

16.DCコネクタ（⎓）

添付のACアダプタを接続するための端子です。

17.電話回線用モジュラーコネクタ（）（FAXモデムモデルのみ）

電話回線に接続し、データ通信やFAXの送受信などを行うための端子です。
詳しくは「モデム」（p.100）をご覧ください。

18.メモリスロット

別売の増設RAMボードを取り付けるためのスロットです。
詳しくは「PART2 周辺機器の接続と設定」の「メモリ」（p.141）をご覧ください。

19.バッテリアンロック（）

バッテリパックを取り外すときに使用します。
詳しくは「バッテリ」（p.27）をご覧ください。

20.バッテリパック

AC電源が無いところで電源を供給するための充電式電池です。
詳しくは「バッテリ」（p.27）をご覧ください。

21.音量調節つまみ（）

内蔵スピーカや、ヘッドフォン／オーディオ出力端子（）に接続した機器の音量を調節するためのつまみです。右側に回すと音量が大きくなり、左側に回すと音量が小さくなります。

22.内蔵マイクロフォン()(オールインワンノート(Dシリーズ)のみ)

内蔵のマイクロフォンです。

23.S映像出力端子(Ⓢ)

市販のSビデオケーブルを使ってテレビを接続し、本機の画面をテレビに出力するための端子です。
詳しくは「PART2 周辺機器の接続と設定」の「外部ディスプレイ」(p.157)をご覧ください。

24.VersaBay IVb(オールインワンノート(Dシリーズ)のみ)

DVDマルチモデルではDVDマルチドライブが内蔵されています。
CD-R/RW with DVD-ROMモデルではCD-R/RW with DVD-ROMドライブが内蔵されています。
CD-R/RWモデルではCD-R/RWドライブが内蔵されています。
CD-ROMモデルではCD-ROMドライブが内蔵されています。
詳しくは「PART2 周辺機器の接続と設定」の「VersaBay IVb」(p.167)をご覧ください。

25.VersaBay IVbアンロック()(オールインワンノート(Dシリーズ)のみ)

VersaBay IVbに内蔵されている機器を取り外すときに使用します。
矢印の方向にスライドさせたままの状態で機器を引き抜きます。
詳しくは「PART2 周辺機器の接続と設定」の「VersaBay IVb」(p.167)をご覧ください。

26.ワイヤレススイッチ()(ワイヤレスLAN(無線LAN)モデルのみ)

ワイヤレスLAN(無線LAN)機能のオン／オフをするためのスイッチと、ワイヤレスLAN(無線LAN)機能のオン／オフを確認できるランプです。ワイヤレスLAN(無線LAN)機能をオンにすると、ワイヤレススイッチ上のワイヤレスランプが点灯します。
詳しくは「VersaPro/VersaPro R電子マニュアル」の「デュアルバンドワイヤレスLAN(無線LAN)について」または「2.4GHzワイヤレスLAN(無線LAN)について」をご覧ください。ワイヤレスランプについては、「表示ランプ」(p.25)をご覧ください。

27.MultiBay-b(オールインワンノート(Dシリーズ)のみ)

フロッピーディスクモデルでは、購入時にはフロッピーディスクドライブが内蔵されています。
フロッピーディスクドライブを取り外すと、セカンドバッテリパックなどの機器を取り付けることができます。詳しくは「PART2　周辺機器の接続と設定」の「MultiBay-b」(p.170)をご覧ください。
フロッピーディスクドライブについて詳しくは「フロッピーディスクドライブ」(p.71)をご覧ください。

28.MultiBay-bアンロック( )(オールインワンノート(Dシリーズ)のみ)

MultiBay-bに内蔵されている機器を取り外すときに使用します。
本体手前側にスライドさせたままの状態で機器を引き抜きます。
詳しくは「PART2　周辺機器の接続と設定」の「MultiBay-b」(p.170)をご覧ください。

29.赤外線通信ポート

IrDA規格に準拠した赤外線通信を行うためのポートです。
詳しくは「赤外線通信機能」(p.91)をご覧ください。

30.CD/DVDドライブ(オールインワンノート(Rシリーズ)のみ)

CD-R/RW with DVD-ROMモデルでは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブが内蔵されています。
CD-R/RWモデルではCD-R/RWドライブが内蔵されています。
CD-ROMモデルではCD-ROMドライブが内蔵されています。
CD-ROMや音楽CDのデータを読み出す装置で、モデルによってはCD-RまたはCD-RWに大容量のデータを書き込むことができる機能があります。
詳しくは「CD/DVDドライブ」(p.74)をご覧ください。

31.フロッピーディスクドライブ(オールインワンノート(Rシリーズ)のみ)

3.5インチのフロッピーディスクを読み書きする装置です。
詳しくは「フロッピーディスクドライブ」(p.71)をご覧ください。

32.マウス/テンキーボード用コネクタ(/)

PS/2タイプのマウスやテンキーボードを接続するための端子です。

33.パラレルコネクタ( )

プリンタなどのパラレル対応機器を接続するための端子です。
このコネクタは、「プリンタポート」「LPT1」などと呼ばれることもあります。

34.シリアルコネクタ（|OIOI|）

モデムやISDN TAなどのシリアル対応機器を接続するための端子です。このコネクタは、「シリアルポート」「COM1」「COM2」などと呼ばれることもあります。

35.ワイヤレスランプ（•ﾐ）（ワイヤレスLAN（無線LAN）モデルのみ）

ワイヤレスLAN（無線LAN）機能のオン／オフを確認できるランプです。詳しくは「表示ランプ」をご覧ください。

表示ランプ

電源ランプ

ランプ		本機の状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態
黄色	点灯	バッテリ容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態でバッテリ容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリ容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態でバッテリ容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

バッテリ充電ランプ

ランプ		本機の状態
オレンジ	点灯	バッテリパック充電中
	点滅	バッテリのエラー
緑※	点灯	セカンドバッテリパック充電中
	点滅	セカンドバッテリのエラー
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

※オールインワンノート（Dシリーズ）のみ

アクセスランプ

ランプ	本機の状態
緑点灯	ハードディスクやCD/DVDドライブにアクセス中
消灯	ハードディスクやCD/DVDドライブにアクセスしていない

フロッピーディスクアクセスランプ

ランプ	本機の状態
緑点灯	アクセス中
消灯	アクセスしていない

キャップスロックキーランプ

ランプ	本機の状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります。
消灯	【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります。

スクロールロックキーランプ

ランプ	本機の状態
緑点灯	【Scr Lk】がロックされている
消灯	【Scr Lk】がロックされていない

ニューメリックロックキーランプ

ランプ	本機の状態
緑点灯	【Num Lk】がロックされている キーを押すとキー上の黄色い文字が入力されます。
消灯	【Num Lk】がロックされていない キーを押すとキー上の白い文字が入力されます。

ワイヤレスランプ（ワイヤレスLAN（無線LAN）モデルのみ）

ランプ	状態
緑点灯	ワイヤレスLAN(無線LAN)機能が使用可能
消灯	ワイヤレスLAN(無線LAN)機能が使用不可

バッテリ

本機は、ACアダプタを使用せずに、添付または別売のバッテリパックだけで駆動することができます。

バッテリパックについて

・本機には、ニッケル水素電池またはリチウムイオン電池を使用しています。
・ニッケル水素電池またはリチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
・交換後不要になった電池、及び使用済み製品から取り外した電池のリサイクルに際しては、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るかポリ袋に入れて、以下の拠点に設置した充電式電池回収BOXに入れてください。

　－ 個人ユーザ様:充電式電池リサイクル協力店くらぶ

　　※ 詳細は、電池工業会ホームページ(http://www.baj.or.jp/)をご覧ください。

　－ 法人ユーザ様:NEC法人向け二次電池持ち込み拠点

　　※ 詳細は、NEC環境ホームページ(http://www.nec.co.jp/japanese/profile/kan/index.html)をご覧ください。

・リサイクル協力店のお問い合わせは、下記へお願いします。

　－ 製品、ニッケル水素電池またはリチウムイオン電池をご購入いただいた販売店

　－ (社)電池工業会小形二次電池再資源化推進センター及び充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局

・リサイクル時のご注意

　－ 電池はショートしないようにしてください。火災・感電の原因となります。

　－ 外装カバー(被覆・チューブなど)をはがさないでください。

　－ 電池を分解しないでください。

Ni-MH
または
Li-ion

バッテリで本機を使うときの注意

チェック!!

- **バッテリが充分に充電されている場合は、特に必要でないかぎり、バッテリパックの取り付けや取り外しをしないでください。 故障の原因となります。**
- **充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリ残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリ残量に誤差が生じることがあります。**
- **ハードディスクやフロッピーディスクなどへの読み書き中にバッテリ残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、ハードディスクやフロッピーディスクなどのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。**

◎ バッテリの上手な使い方

・バッテリ残量の表示精度を良くするには定期的にバッテリリフレッシュを実行してください。

参照 **バッテリリフレッシュについて→「バッテリリフレッシュ」(p.31)**

・本機を長期間使用しない場合は、バッテリ残量を50%程度にしてバッテリパックを取り外し、涼しいところに保管しておくとバッテリの寿命を長くすることができます。

・バッテリだけで本機を長時間使用する場合は、本機の省電力機能を使用してください。

参照 **省電力機能について→「省電力機能」(p.36)**

・バッテリは、自然放電しています。 本機を長期間使用しない場合でも、2〜3カ月に一度は充電することをおすすめします。

◎ バッテリ駆動中にバッテリ残量が少なくなった場合は

バッテリの残量が少なくなると、電源ランプ( )が黄色に点灯します。この場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

◆ ACコンセントから電源を供給できる場合

ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。 ACコンセントから電源を供給すると、バッテリ充電ランプ( )が点灯し、バッテリの充電が始まります。また、バッテリを充電しながら本機を使用することもできます。

◆ ACコンセントが使えない場合

使用中のアプリケーションを終了して、本機の電源を切ってください。

ACコンセントから電源を供給せず、本機の電源を切らないままおいておくと、「コントロールパネル」の「電源オプション」または「電源の管理」で設定してある状態になります。

メモ

Windows XPをお使いの場合、「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックして開くことができます。Windows 2000／Windows Meをお使いの場合、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」→「電源の管理」または「電源オプション」をクリックして開くことができます。

◎ バッテリが少なくなった場合の動作の設定

バッテリ残量が少なくなったりバッテリ残量がなくなった場合に、本機をどのような動作や状態にするかを設定することができます。

チェック!!

次の設定を行う場合は、コンピュータの管理者権限(Administrator権限)を持つユーザーアカウントでログオンしてください。

◆ Windows XPの場合

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックすると表示されるウィンドウの「アラーム」タブで行うことができます。

◆ Windows 2000の場合

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「電源オプション」アイコンをダブルクリックすると表示されるウィンドウの「アラーム」タブで行うことができます。

◆Windows Meの場合

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール　パネル」をクリックし、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示されるウィンドウの「アラーム」タブで行うことができます。

充電のしかた

チェック!!

- **バッテリの充電中は、バッテリパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。**
- **購入直後や長時間放置したバッテリでは、バッテリ駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリ残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。**

◎ バッテリの充電のしかた

本機にバッテリパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリの充電が始まります。
本機の電源を入れて使用していても充電されます。

メモ

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。

参照 **バッテリの充電時間について→「VersaPro/VersaPro R電子マニュアル」の「機能仕様一覧」**

◎ 充電状態を表示ランプで確認する

バッテリの充電状態を、バッテリ充電ランプ（ ）で確認することができます。

参照 **バッテリ充電ランプについて→「各部の名称」の「表示ランプ」（p.25）**

バッテリ残量の確認

バッテリ残量は、次の方法で確認することができます。

◎ 画面右下の通知領域(タスクトレイ)で確認する

1 画面右下の通知領域(タスクトレイ)にあるの上にポインタを合わせる

バッテリ残量が表示されます。

メモ

をダブルクリックすると、バッテリ残量やバッテリに関する詳しい情報が表示されます。

◎ 詳細な情報を確認する

1 次の操作を行う

- **Windows XPの場合**
  「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックする
- **Windows 2000／Windows Meの場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「電源の管理」または「電源オプション」アイコンをダブルクリックする

「電源の管理のプロパティ」または「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「電源メーター」タブをクリックする

バッテリリフレッシュ

バッテリリフレッシュは、一時的に低下したバッテリの性能を回復させるときに行います。次のような場合には、バッテリリフレッシュを実行してください。

- **バッテリでの駆動時間が短くなった**
  バッテリを完全に使い切らない状態で充電を繰り返していると、バッテリの充電可能容量が目減りして、駆動時間が短くなる場合があります。これを「バッテリのメモリ効果」と呼びます。
- **購入直後や長期間、バッテリを使用しなかったため、バッテリの性能が一時的に低下した**
- **バッテリの残量表示に誤差が生じている**

◎ バッテリリフレッシュの実行

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **バッテリパックを取り付けていない場合は、バッテリパックを本体に取り付ける**

3 **本機にACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する**

4 **バッテリ充電ランプが点滅している場合は、一度バッテリパックを本体から外して、再度取り付ける**

5 **バッテリをフル充電(バッテリ充電ランプが消灯した状態)まで充電する**

6 **本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を押す**

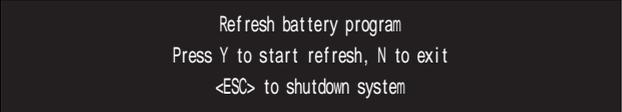
BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。

参照 BIOSセットアップユーティリティについて→「PART3　システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」(p.178)

7 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す**

8 **「終了(Exit)」メニューの「バッテリリフレッシュ(Battery Refresh)」を選択し、【Enter】を押す**

9 **「実行しますか?(Refresh your battery now?)」と表示されたら、「はい(Yes)」を選択し【Enter】を押す**

次のような画面が表示されます。

```
Refresh battery program
Press Y to start refresh, N to exit
<ESC> to shutdown system
```

10 **【Y】を押す**

バッテリリフレッシュがはじまります。

バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。

バッテリリフレッシュが完了しバッテリ内の電力がなくなると、自動的に本機の電源が切れますので、本機の電源が切れるまでお待ちください。

◎ バッテリリフレッシュを中断する

バッテリリフレッシュを中断する場合は、次の手順で行ってください。

1 【Ctrl】＋【Alt】＋【Del】を押す

本機が再起動します。

メモ

電源スイッチを4秒以上押し続けてもバッテリリフレッシュを中断することができます。この場合、本機の電源が切れます。

バッテリパックの交換

◎ 交換の目安

フル充電(バッテリを充電してバッテリ充電ランプが消灯した状態)にしても使用できる時間が短くなったら、バッテリリフレッシュを行ってください。それでも使用できる時間が回復しない場合は、新しいバッテリパックを購入して交換してください。

参照 **バッテリリフレッシュについて→「バッテリリフレッシュ」(p.31)**

本機のバッテリスロットに取り付けられる交換用バッテリパックは次のとおりです。

モデル	バッテリパック
オールインワンノート(Dシリーズ)用	PC-VP-WP50(ニッケル水素) PC-VP-WP51(リチウムイオン)
オールインワンノート(Rシリーズ)用	PC-VP-WP53(ニッケル水素) PC-VP-WP54(リチウムイオン)

チェック!!

バッテリは消耗品です。充放電を繰り返すと、充電能力が低下します。

◎ バッテリパックの交換のしかた

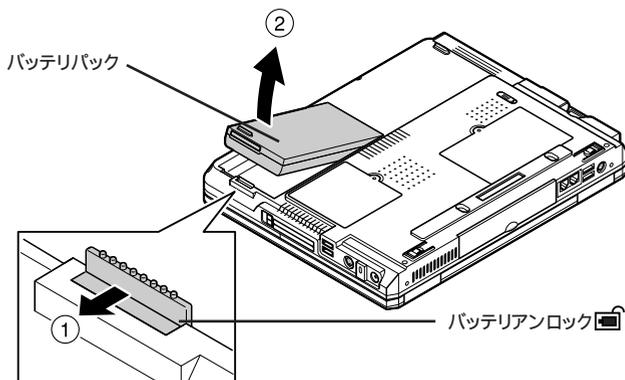
チェック!!

- バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。
- 電源が入っているときや、スタンバイ状態にバッテリパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ(⏻)が点滅しているときには、一度スタンバイ状態から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、本機の電源を切ってください。
- 特に必要でない限り、バッテリパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。

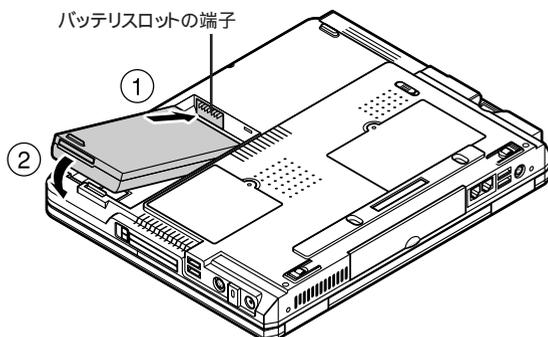
1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す

4 バッテリアンロック( )を矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリパックを取り外す

このイラストはオールインワンノート(Dシリーズ)のものです

5 新しいバッテリパックを取り付ける

バッテリパックの端子をバッテリスロットの端子に合わせ、カチッと音がするまでしっかり取り付けてください。

このイラストはオールインワンノート(Dシリーズ)のものです

バッテリ容量を増やす

セカンドバッテリパックが添付のモデルを購入された場合や、別売のセカンドバッテリパックを購入された場合は、本機にセカンドバッテリパックを取り付けて、バッテリ容量を増やすことができます。
本機で使用できるセカンドバッテリパックは次のとおりです。

モデル	バッテリパック	取り付け位置
オールインワンノート(Dシリーズ)	PC-VP-WP52	MultiBay-b

◎ オールインワンノート(Dシリーズ)の場合

MultiBay-bに取り付けられている機器を取り外してセカンドバッテリパックを取り付けます。

メモ

セカンドバッテリパックは、バッテリスロットのバッテリパックと併用することができます。

参照 **セカンドバッテリパックの取り付け方→「PART2　周辺機器の接続と設定」の「MultiBay-b」(p.170)**

チェック!!

セカンドバッテリパックのみで使用することはできません。標準のバッテリパックを取り付けた状態でセカンドバッテリパックを取り付けてください。

省電力機能

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、本機の主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したい場合や、中断した作業をすぐに再開したい場合にも便利な機能です。

本機の省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」「休止状態(ハイバネーション)」「Intel SpeedStep® テクノロジ」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。

参照

- **スタンバイ状態(サスペンド)について→「スタンバイ状態(サスペンド)にする」(p.39)**
- **休止状態(ハイバネーション)について→「休止状態(ハイバネーション)にする」(p.39)**
- **Intel SpeedStep® テクノロジについて→「Intel SpeedStep® テクノロジ」(p.46)**

省電力機能使用上の注意

◎ スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のような場合には、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。本機が正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- プリンタへ出力中
- Windows Meで赤外線通信をしている(赤外線通信アプリケーションを実行中)
- 通信用アプリケーションを実行中
- LANまたはワイヤレスLANを使用して、ファイルコピーなどの通信動作中
- 電話回線を使って通信中
- 音声または動画を再生中
- ハードディスク、CD-ROM、フロッピーディスクなどにアクセス中
- 「システムのプロパティ」ウィンドウを表示中

・Windowsの起動／終了処理中
・スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
・スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカード、コンパクトフラッシュカード、USB対応機器を使用中

◎ スタンバイ状態または休止状態を使用する場合の注意

スタンバイ状態または休止状態にする場合は、次のことに注意してください。

・スタンバイ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ファイルコピーなどの通信動作が終了してからスタンバイ状態または休止状態にしてください。また、使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、あらかじめお使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態または休止状態を使用してください。
・バッテリのみで使用する場合は、あらかじめバッテリの残量を確認しておいてください。また、バッテリ残量が少なくなってきた場合の本機の動作について設定しておくこともできます。

参照 「バッテリ」の「バッテリが少なくなった場合の動作の設定」(p.29)

・スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスク、PCカードやコンパクトフラッシュカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
・スタンバイ状態または休止状態中に、PCカードやコンパクトフラッシュカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。
・SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによっては、スタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。
・USB対応機器を接続した状態では、スタンバイ状態に移行できない場合があります。スタンバイ状態に移行する前にUSB対応機器を外してください。
・スリープ状態中やスリープ状態への移行中にはUSB対応機器の抜き差しをしないでください。
・Windows Meで、「MS-DOSプロンプト」使用時にもディスプレイの省電力機能を使用する場合には、スクリーンセーバー機能もあわせて使用してください。

・Windows Meの場合、ATAカードをセットした状態では、スタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかることがあります。
・Windows Meの場合、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「Web」タブで、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」が☑になっていると、自動的にスタンバイ状態または休止状態にできない場合があります。この場合は、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」の☑をクリックして□に設定してください。
・Windows XP／Windows 2000の場合、「電源オプションのプロパティ」で各設定を変更する場合は、コンピュータの管理者権限(Administrator権限)を持つユーザーアカウントでログオンしてください。「電源オプションのプロパティ」は、Windows XPの場合は「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックすると表示されます。Windows 2000の場合は、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「電源オプション」アイコンをダブルクリックすると表示されます。
・フロッピーディスクやCD-ROMをセットしたまま休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにフロッピーディスクやCD-ROMから起動してしまうことがあります。休止状態にする場合は、フロッピーディスクやCD-ROMを取り出してから休止状態にしてください。また、フロッピーディスクを使用している場合は、必要なファイルを保存してからフロッピーディスクを取り出してください。
・本機にフォトCDをセットしたままスタンバイ状態または休止状態にすると、復帰に時間がかかることがあります。

◎ スタンバイ状態または休止状態から復帰する場合の注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰する場合は、次のことに注意してください。
・スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰する場合は、本機に負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
・スタンバイ状態または休止状態中にPCカードやコンパクトフラッシュカードの入れ替えや周辺機器の取り付け／取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
・スリープ状態からの復帰中にはUSB対応機器の抜き差しをしないでください。

スタンバイ状態(サスペンド)にする

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。
購入時の状態では、バッテリ駆動時、一定時間以上キーボードやNXパッドからの入力がないときに自動的にスタンバイ状態になります。
スタンバイ状態になると、電源ランプ(⏻)が点滅します。
このほか、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。

◆ Windowsの終了メニューで「スタンバイ」を選択し、スタンバイ状態にする

・Windows XPの場合

「スタート」ボタン→「終了オプション」→「スタンバイ」ボタンをクリックする

・Windows 2000の場合

「スタート」ボタン→「シャットダウン」で「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンをクリックする

・Windows Meの場合

「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンをクリックする

◆ 液晶ディスプレイを閉じる

◆ 電源スイッチを押す

設定をすると、電源スイッチを押してスタンバイ状態にすることができるようになります。

参照 **「省電力機能の設定をする」の「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(p.42)**

休止状態(ハイバネーション)にする

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。
データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断する場合などに便利です。

◎ Windows XPの場合

購入時の状態では、バッテリ駆動時、一定時間以上キーボードやNXパッドからの入力が無いときに自動的にスタンバイ状態になり、更に時間が経過すると自動的に休止状態になります。休止状態になると、本機の電源が切れ、電源ランプ( )が消灯します。
このほか、次の方法で休止状態にすることができます。

◆「スタート」ボタンから休止状態にする

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックする

2 【Shift】を押しながら「休止状態」ボタンをクリックする

本体の電源が切れ、電源ランプ( )が消灯し、休止状態になります。

メモ

【Shift】を押すと「スタンバイ」ボタンが「休止状態」ボタンに切り替わります。

◎ Windows 2000の場合

購入時の状態では、自動的には休止状態になりません。
次の方法で休止状態にすることができます。

◆「スタート」ボタンから休止状態にする

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」をクリックする

2 「休止状態」を選択し「OK」ボタンをクリックする

「休止中...」と表示され、作業状況を示す棒グラフが表示されたのち、休止状態になります。休止状態になると、本体の電源が切れ、電源ランプ( )が消灯します。

◎ Windows Meの場合

購入時の状態では、バッテリ駆動時、一定時間以上キーボードやNXパッドからの入力が無いときに自動的にスタンバイ状態になり、更に時間が経過すると自動的に休止状態になります。休止状態になると、本機の電源が切れ、電源ランプ( )が消灯します。
このほか、次の方法で休止状態にすることができます。

◆「スタート」ボタンから休止状態にする

1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックする

2 「休止状態」を選択し「OK」ボタンをクリックする

本体の電源が切れ、電源ランプ(⏻)が消灯し、休止状態になります。

◎ その他の方法

設定を行うことにより、次の方法でも休止状態にすることができます。

◆ 液晶ディスプレイを閉じる

◆ 電源スイッチを押す

参照 「省電力機能の設定をする」の「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(p.42)

スタンバイ状態または休止状態から復帰(レジューム)する

スタンバイ状態や休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。

◎ スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

◆ 電源スイッチを押す

- **Windows XPの場合**

  スタンバイ状態から復帰します。ログオン画面が表示された場合は、「ユーザー名」をクリックしてログオンしてください。複数のユーザーで本機を使用している場合は、ログオンしたい「ユーザー名」をクリックしてください。ログオンするとスタンバイ状態から復帰します。
- **Windows 2000／Windows Meの場合**

  スタンバイ状態にする前の元の状態が表示されます。

メモ

- 液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合、液晶ディスプレイを開けることで復帰することができます。また、タスクスケジューラで時刻を指定してスタンバイ状態から復帰することもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。
- Windows 2000でログオンパスワードを入力する画面が表示された場合は、パスワードを入力してください。

◎ 休止状態から復帰する

休止状態からの復帰は次の方法で行います。

◆ 電源スイッチを押す

- **Windows XPの場合**
  本機の電源が入り、「Windowsを再開しています...」と表示された後、休止状態から復帰します。ログオン画面が表示された場合は、「ユーザー名」をクリックしてログオンしてください。複数のユーザーで本機を使用している場合は、ログオンしたい「ユーザー名」をクリックしてください。ログオンすると、休止状態から復帰します。
- **Windows 2000／Windows Meの場合**
  復帰(レジューム)中を表すメッセージと作業状況を示す棒グラフが表示されます。復帰が完了すると、元の状態(休止状態に入る前)の画面が表示されます。

メモ

Windows 2000でログオンパスワードを入力する画面が表示された場合は、パスワードを入力してください。

省電力機能の設定をする

「電源オプション」や「電源の管理」では、省電力機能を実行するときの操作方法や実行するまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にも省電力機能が働くように設定できます。また、あらかじめ設定されている電源設定モードから選択することもできます。

◎ 液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定

液晶ディスプレイを閉じたり電源スイッチを押したりしたときの本機の省電力機能の設定をする場合などは、以下の手順で操作してください。

1 次の操作を行う

- **Windows XPの場合**
  「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックする
- **Windows 2000の場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「電源オプション」アイコンをダブルクリックする

- **Windows Meの場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

2 利用する機能に合わせた設定を行う

- **休止状態を利用するための設定を行う場合**
  Windows XPの場合は、「休止状態」タブをクリックして、「休止状態を有効にする」が☑ になっていることを確認してください。
  Windows 2000／Windows Meの場合は、「休止状態」タブをクリックして、「休止状態をサポートする」が☑になっていることを確認してください。

- **スタンバイ状態を利用するための設定を行う場合**
  手順3に進んでください。

3 「詳細設定」タブまたは「詳細」タブをクリックする

4 「電源ボタン」欄で、設定したい動作と機能を選ぶ

- **電源スイッチを押して行う場合**
  「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「スタンバイ」または「休止状態」を選択する

- **液晶ディスプレイを閉じて行う場合**
  「ポータブル コンピュータを閉じたとき」で「スタンバイ」または「休止状態」を選択する

5 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

◎ 電源設定のモードを選択する

1 次の操作を行う

- **Windows XPの場合**
  「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックする

- **Windows 2000の場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「電源オプション」アイコンをダブルクリックする

・**Windows Meの場合**
「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「電源設定」欄でモードを選択するか、または画面の下段でそれぞれの時間を設定する

項目	説明
モニタの電源を切る	入力が何も行われないまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
ハード ディスクの電源を切る	指定した時間、ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。
システム スタンバイ	指定した時間何の入力もなく、ハードディスクへのアクセスがないと、本機がスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
システム休止状態	指定した時間何の入力もなく、またハードディスクへのアクセスがないと、本機が休止状態になり、電源が切れます。

メモ
画面の下段の「**の電源設定」または「**の電源の設定」の「**」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。また、「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

◎ 新しいモードを作成する(Windows XP/Windows 2000のみ)

本機の利用状態に合わせて、モードを新たに登録することができます。

1 「電源設定のモードを選択する」(p.43)の手順1〜2を行う

2 画面の下段でそれぞれの時間を設定する

3 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする

4 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする
これで、新しいモードが登録されました。

5 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

作成したモードは「電源設定」欄で選択できるようになります。

電源の自動操作

タイマ、LAN、回線からのアクセスによって自動的に電源の操作を行うことができます。

チェック!!

タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイ状態から復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、ポインティングデバイスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

◎ タイマ機能

設定した時間を経過しても、ポインティングデバイスやキーボードからの入力、またはハードディスクへのアクセスなどがない場合に、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態や休止状態にする機能です。

参照 **タイマ機能の時間の設定について→「省電力機能の設定をする」の「電源設定のモードを選択する」(p.43)**

◎ リモートパワーオン機能(内蔵LAN機能による電源操作)

LAN経由で、離れたところにあるリモートパワーオンに対応した本機の電源を操作する機能です。

参照 **リモートパワーオン機能について→「LAN(ローカルエリアネットワーク)」の「リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)」(p.113)**

◎ リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態から復帰することができます。ただし、この機能で本機の電源を入れることはできません。

Intel SpeedStep® テクノロジ

Pentium Mプロセッサ搭載のモデルまたはPentium 4プロセッサ搭載のモデルでは、電源の種類やCPUの動作負荷によって、動作性能を切り替えることができます。

チェック!!

Windows XPをお使いの場合は、Intel SpeedStep® テクノロジのセットアップは必要ありません。Windows XPでの設定は、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックして行います。

◎ Intel SpeedStep® テクノロジのセットアップ

Intel SpeedStep® テクノロジを使用するには、次の手順でセットアップを行う必要があります。

チェック!!

Windows 2000でIntel SpeedStep® テクノロジをセットアップする場合は、Administrator権限を持つユーザーアカウントで本機にログオンしてください。

1 デスクトップ上の(SpeedStep)をダブルクリックする

「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

2 「次へ」ボタンをクリックする

「製品ライセンス契約」ウィンドウが表示されます。

3 「製品ライセンス契約」の内容を読み、内容に同意できる場合には「はい」ボタンをクリックする

「セットアップの完了」ウィンドウが表示されます。

4 「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」がになっていることを確認して「完了」ボタンをクリックする

自動的にWindowsが再起動します。

◎ Intel SpeedStep® テクノロジの設定をする

1 次の操作を行う

- **Windows 2000の場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「電源オプション」アイコンをダブルクリックする

- **Windows Meの場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

2 「Intel(R) SpeedStep(TM) technology」タブまたは「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブをクリックする

メモ

画面右下の通知領域(タスクトレイ)のをダブルクリックして起動することもできます。

3 設定を行う

本機をバッテリのみで使用する場合と、AC電源で使用する場合のそれぞれの設定を行うことができます。をクリックして選択してください。

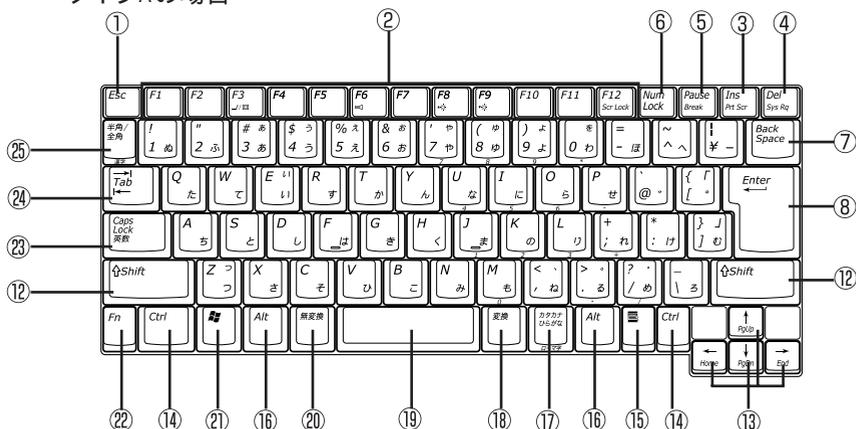
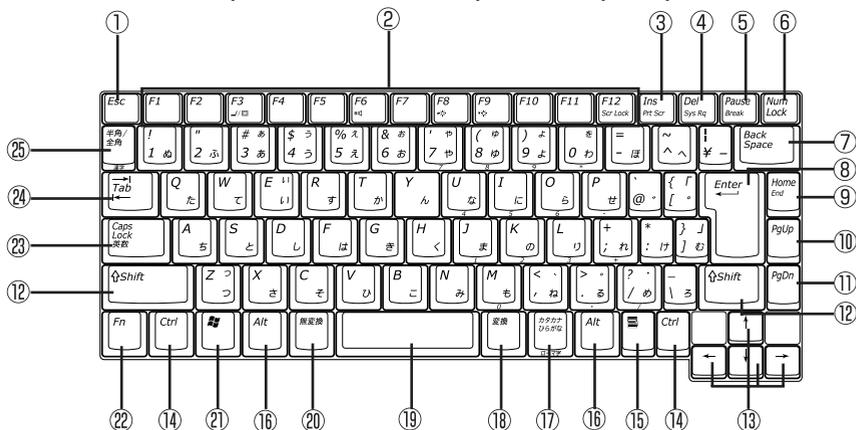
メモ

・「電源の変更時にパフォーマンスを自動的に変更する。」または「電源が変更されたときにパフォーマンスを自動的に変更。」がになっていると、バッテリ駆動からAC駆動に変更した場合に、自動的に「AC電源の場合」で設定した動作に変わります。
・「パフォーマンスを自動変更する前に確認する。」または「パフォーマンスを自動的に変更する前に確認。」がになっていると、バッテリ駆動からAC駆動に変更するかどうかの確認メッセージが表示されます。
・「Intel(R)SpeedStep(TM)technology」タブまたは「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブでの設定内容は、Windowsの終了時にBIOSセットアップユーティリティに反映されます。

キーボード

キーの名称

メモ
お使いのモデルによりキーボードの形状が異なります

●タイプAの場合

●タイプBの場合（オールインワンノート（Dシリーズ）のみ）

① 【Esc】：エスケープキー
② 【F1】～【F12】：ファンクションキー
③ 【Ins】：インサートキー
④ 【Del】：デリートキー
⑤ 【Pause】：ポーズキー
⑥ 【Num Lock】：ニューメリックロックキー
⑦ 【Back Space】：バックスペースキー
⑧ 【Enter】：エンターキー(リターンキー)
⑨ 【Home】：ホームキー
⑩ 【PgUp】：ページアップキー
⑪ 【PgDn】：ページダウンキー
⑫ 【Shift】：シフトキー
⑬ 【↑】【↓】【→】【←】：カーソル移動キー
⑭ 【Ctrl】：コントロールキー
⑮ 【 】：アプリケーションキー
⑯ 【Alt】：オルトキー
⑰ 【カタカナ ひらがな】：かなキー
⑱ 【変換】：変換キー
⑲ スペースキー
⑳ 【無変換】：無変換キー
㉑ 【 】：Windowsキー
㉒ 【Fn】：エフエヌキー
㉓ 【Caps Lock】：キャップスロックキー
㉔ 【Tab】：タブキー
㉕ 【半角／全角】：半角／全角キー

キーの使い方

◎ 特殊なキーの使い方

キー操作	説　明
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプが点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。 もう一度押すとキャップスロックキーランプが消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【半角／全角】 (MS-IME2000、MS-IME2002使用時のみ)	一度押すと日本語入力システムがオンになり、日本語が入力できるようになります。 もう一度押すと日本語入力システムがオフになり、日本語が入力できなくなります。
【Alt】+【カタカナ　ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字が入力されるようになります。
【カタカナ　ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します。

◎ ホットキー機能(【Fn】の使い方)

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、本機の設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。
組み合わせが可能なキーとその機能を表すアイコンは【Fn】と同じ色（黄）でキー上面に印字されているものもあります。

キー操作	機　　能	説　　明
【Fn】+【F3】※	ディスプレイの切り替え(▁/▢)	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「テレビ」→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります
【Fn】+【F5】	画面の伸縮	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する/しないを切り替えます。
【Fn】+【F6】	ビープ音の調節(B◁)	ビープ音のオン/オフを設定します。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる(▲☼)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる(▼☼)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
【Fn】+【F12】	スクロールロック	【Scr Lk】の役割
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+【↑】	Page Up	【PgUp】の役割
【Fn】+【↓】	Page Dn	【PgDn】の役割
【Fn】+【←】	Home	【Home】の役割
【Fn】+【→】	End	【End】の役割
【Fn】+【Alt】	右Alt	右【Alt】の役割
【Fn】+【⊞】	右Windows	右【⊞】の役割

※: 次の場合は動作しません。

- 外部ディスプレイを接続していない

- Windows XPでデュアルディスプレイ機能を使用中

メモ

【Fn】+【F3】、【Fn】+【F5】、【Fn】+【F6】、【Fn】+【F12】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます。

キーボードの設定をする

Windowsでキーボードをより使いやすく設定することができます。設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

ワンタッチスタートボタン

ワンタッチスタートボタンを使う

ワンタッチ スタートボタンを押すと、本機の電源のオン／オフにかかわらず、すぐにアプリケーションを起動するように設定できます。
インターネットの接続環境がある場合は、「インターネットエクスプローラ」や「Outlook Express」が起動します。

参照 **ワンタッチスタートボタンについて→「各部の名称」(p.16)**

起動するアプリケーションを変更したい場合は、「ワンタッチ スタートボタンの設定」で行います。

チェック!!

- **Windowsのキーボードドライバが動作しない状態の場合は、ワンタッチスタートボタンの機能は使えません。**
- **Windows XPおよびWindows Meの場合、セーフモードでワンタッチスタートボタンを押すと、OS標準のアプリケーションが起動します。**
  - **Ⅰボタン:OS標準のメーラー(Outlook Express)が起動する**
  - **Ⅱボタン:OS標準のブラウザ(インターネットエクスプローラ)が起動する**
- **Windows XPをお使いの場合、スタンバイ状態または休止状態からワンタッチスタートボタンを押して復帰したときに、設定したアプリケーションが起動しない場合があります。このような場合は以下のいずれかの手順を行ってください。**
  - **「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」をクリックし、「詳細設定」タブにある「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」の☑をクリックして□にする。**
  - **「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「ユーザーアカウント」→「ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する」にある「ユーザーの簡易切り替えを使用する」の☑をクリックして□にする。**

ワンタッチスタートボタンの設定を変更する

ワンタッチスタートボタンの機能は、「ワンタッチ スタートボタンの設定」を使って設定することができます。
「ワンタッチ スタートボタンの設定」では、それぞれのボタンを押したときに起動するアプリケーションを変更したり、ワンタッチスタートボタンの機能の有効／無効を切り替えることもできます。

メモ

ワンタッチスタートボタンでは、アプリケーションを「同時」または「順次」に起動することもできます。「同時」は、ひとつのボタンに複数のアプリケーションを割り当てて一度に起動する方法です。「順次」は、はじめに登録したアプリケーションを終了 すると次のアプリケーションが順次起動する方法です。

◎「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

1 「スタート」ボタン→「(すべての)プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定」をクリックする

「ワンタッチスタートボタンの設定」ウィンドウが表示されます。

メモ

画面右下の通知領域(タスクトレイ)にある をダブルクリックして起動することもできます。

参照 **ワンタッチスタートボタンの設定について→「スタート」ボタン→「(すべての)プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」**

◎ アプリケーションを割り当てる

ここでは例として左側のボタンに「メモ帳」を割り当てる方法を説明します。

チェック!!

- ショートカット(拡張子が.lnkのファイル)で、プロパティの「ショートカット」タブの「リンク先」に何も表示されていないファイルは、ワンタッチスタートボタンに登録してもショートカットが実行されません。
- 登録後正常に実行されない場合は、そのショートカットを右クリックし、プロパティの内容を確認してください。
- ワンタッチスタートボタンに「エクスプローラ」を登録しても、「マイコンピュータ」が起動します。
  このような場合は、「ワンタッチスタートボタンの設定」で、「エクスプローラ」をボタンに登録する際に「/e」引数を指定することで、「エクスプローラ」が正しく起動するようになります。
  引数の設定の方法は、「スタート」ボタン→「(すべて)のプログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定ヘルプ」を起動し、「目次」タブから、「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ユーティリティ」→「プログラム登録画面」→「登録プログラムボックス」の中にある「プログラムの引数設定」を参照してください。

1 **「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する**

2 **「ボタン設定」タブをクリックし、「ボタン1」の下の(単独)をクリックする**

「プログラム登録」ウィンドウが表示されます。

3 **「スタートメニュー」タブをクリックし、「プログラム」フォルダをダブルクリックする**

4 **「アクセサリ」フォルダをダブルクリックし、「メモ帳.lnk」を「プログラム1」ボックスにドラッグ&ドロップする**

5 **「OK」ボタンをクリックする**

6 **「OK」ボタンをクリックする**

「ユーザデータの更新」ウィンドウが表示されます。

7 **「はい」ボタンをクリックする**

◎ ワンタッチスタートボタンの有効／無効を切り替える

次の操作でワンタッチスタートボタンの有効／無効を切り替えることができます。

チェック!!

Windows XP／Windows 2000でワンタッチスタートボタンの有効／無効を切り替える場合は、コンピュータの管理者権限(Administrator権限)を持つユーザーアカウントでログオンしてください。

1 「スタート」ボタン→「(すべての)プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」で、「ワンタッチスタートボタンを無効にする」または「ワンタッチスタートボタンを有効にする」をクリックする

ワンタッチスタートボタンが無効の状態のときは「ワンタッチスタートボタンを有効にする」が表示され、有効の状態のときは「ワンタッチスタートボタンを無効にする」が表示されています。

2 ワンタッチスタートボタンを有効または無効にするメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする

3 再起動のメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。

再起動後、ワンタッチスタートボタンの有効／無効が切り替わります。

NXパッド

本機でスクロールボタンやNXパッドの拡張機能を使用する場合は、NXパッドドライバのインストールが必要です。「NXパッドドライバをインストールする」をご覧になり、NXパッドドライバのインストールを行ってください。

NXパッドの使い方

参照 NXパッドの各部の名称や役割について→「各部の名称」(p.16)

◎ クリック／ダブルクリック／ドラッグ

■ クリック

アイコンやフォルダの上にポインタをあわせてから左のクリックボタンを1回押します。右のクリックボタンを押した場合は、右クリックの操作になります。

■ ダブルクリック

アイコンやフォルダの上にポインタをあわせてから左のクリックボタンを2回続けてすばやく押します。

■ ドラッグ

ドラッグするときは、アイコンやフォルダの上にポインタをあわせ、左のクリックボタンを押したままパッド上で指を動かします。

メモ

・パッドを指先で軽くたたくとクリックと同じ操作になります。また、2回続けてすばやくパッドをたたくと、ダブルクリックと同じ操作になります。パッドを軽くたたいてクリックやダブルクリックの操作をすることを「タップ」「ダブルタップ」と呼びます。
・クリックボタンを使わずに、ポインタをあわせた状態でパッドを軽くたたき、もう一度パッドに触れた状態で指を動かしてもドラッグの操作になります。

◎ NXパッドを使ったスクロール

スクロールボタンを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、画面を拡大縮小させることができます。ここでは、NXパッドのスクロールボタンを使ったスクロールのしかたを説明します。

チェック!!

- **スクロールボタンを使うためには、NXパッドドライバのインストールが必要です。「NXパッドドライバをインストールする」をご覧になり、NXパッドドライバのインストールを行ってください。**
- **スクロールボタンの機能に対応していないアプリケーションでは使用できません。**

■ 画面を上下方向にスクロールさせる

上下スクロールバーが表示されているアプリケーションの画面をクリックし、スクロールボタンのパッド側または手前側のボタンを押します。パッド側のボタンを押すと画面が上にスクロールし、手前側のボタンを押すと下にスクロールします。

■ ズーム機能を使う

ズーム機能に対応していないアプリケーションでは使用できません。

拡大／縮小したい画面をクリックし、キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールボタンのパッド側または手前側のボタンを押します。パッド側のボタンを押すと画面の表示が拡大され、手前側のボタンを押すと縮小します。

◎ NXパッドの拡張機能を使う

タップやパッドのみでのドラッグなどのほかにも、次のような便利な拡張機能を使うことができます。

- パッド上で指をすべらせることで画面をスクロールさせる（パッド上にスクロール機能を持った領域を設定する）
- キーボードからの入力時に、間違えてタップしたりポインタが動くことがないようにNXパッドを無効にしておく
- NXパッドを一時的にオン／オフにする

拡張機能を使うためには設定が必要です。「NXパッドドライバをインストールする」をご覧になり、設定を行ってください。

NXパッドドライバをインストールする

NXパッドのスクロールボタンや拡張機能を使用するときには、NXパッドドライバをインストールしてください。

チェック!!

- **使用中のアプリケーションがある場合は、すべて終了しておいてください。**
- **Windows XP／Windows 2000でNXパッドドライバをインストールする場合は、コンピュータの管理者権限(Administrator権限)でログオンしてください。**

●Windows XPの場合

1 「デバイス マネージャ」を開き、「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の左の⊞をクリックする

2 現在使用しているマウスをダブルクリックする

3 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

4 「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

5 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

6 「ディスク使用」ボタンをクリックする

7 「C:¥DRV¥NXPAD」と入力し、「OK」ボタンをクリックする

8 「モデル」欄から「NX PAD」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

「NX PAD」が複数表示されている場合は、一番上の「NX PAD」を選択してください。

「デバイスのインストール確認」ウィンドウが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

必要なファイルがコピーされます。
この操作以降は、マウスポインタが動かない場合があります。その場合は、キーボードで操作してください。
コピーが完了すると、「ハードウェアの更新ウィザードの完了」と表示されます。

9 「完了」ボタンをクリックする

10 「閉じる」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

11 「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。

再起動後、NXパッドが有効になります。

再起動後、ポインタが動かない場合はWindowsキー( )を押して「スタート」メニューを表示させ、Windowsを再起動してください。項目の変更はカーソル移動キー(【↑】【↓】【→】【←】)、項目の選択は【Enter】で行うことができます。

●Windows 2000/Windows Meの場合

1 「デバイス マネージャ」を開き、次の項目の左の ⊞ をクリックする

- **Windows 2000の場合**
  「マウスとそのほかのポインティング デバイス」
- **Windows Meの場合**
  「マウス」

2 現在使用しているマウスをダブルクリックする

3 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「デバイス ドライバの更新ウィザード」または「デバイス ドライバのアップグレード ウィザード」が表示されます。

4 次の操作を行う

- **Windows 2000の場合**
  「次へ」ボタンをクリックする

- **Windows Meの場合**
  「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」の◯をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

5 次の項目の◯をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

- **Windows 2000の場合**
  「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」

- **Windows Meの場合**
  「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」

6 「ディスク使用」ボタンをクリックする

7 次のように入力し、「OK」ボタンをクリックする

- **Windows 2000の場合**
  「C:¥DRV¥NXPAD」

- **Windows Meの場合**
  「C:¥NXPAD」

8 「モデル」欄から「NX PAD」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

「NX PAD」が複数表示されている場合は、一番上の「NX PAD」を選択してください。

チェック!!

「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

9 「次へ」ボタンをクリックする

必要なファイルがコピーされます。
この操作以降は、マウスポインタが動かない場合があります。その場合は、キーボードで操作してください。

チェック!!

「デジタル署名が見つかりませんでした」ウィンドウが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

10 次の操作を行う

- **Windows 2000の場合**
  「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックし、手順11に進んでください。
- **Windows Meの場合**
  「ハードウェア デバイス用に選択したドライバがインストールされました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックし、手順13に進んでください。

11 「閉じる」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」が表示されます。

12 「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。
Windows 2000をお使いの場合は、これで設定は完了です。

13 再起動のメッセージが表示された場合は、「いいえ」ボタンをクリックする

14 「NX PADのプロパティ」または「NX PAD プロパティ」の「閉じる」ボタンをクリックする

15 「システムのプロパティ」の「閉じる」ボタンをクリックする

16 Windowsを再起動する

再起動後、NXパッドが有効になります。

再起動後、ポインタが動かない場合はWindowsキー（ ）を押して「スタート」メニューを表示させ、Windowsを再起動しなおしてください。項目の変更はカーソル移動キー（【↑】【↓】【→】【←】）、項目の選択は【Enter】で行うことができます。

NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。

●Windows XPの場合

1 「スタート」ボタン→「コントロール　パネル」→「プリンタとその他のハードウェア」→「マウス」をクリックする

「マウスのプロパティ」が表示されます。

●Windows 2000／Windows Meの場合

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール　パネル」をクリックし、「マウス」アイコンをダブルクリックする

「マウスのプロパティ」が表示されます。

「マウスのプロパティ」では、画面左上の各タブを選択すると、NXパッドの設定を行うことができます。
それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

ハードディスク

ハードディスクとはWindowsやアプリケーションなどのソフトウェアや、作成したデータを磁気的に記録して、読み出すための装置です。

ハードディスク使用上の注意

ハードディスクは、非常に精密に作られています。特に、データの読み書き中(アクセスランプの点灯中)には、少しの衝撃が故障の原因になる場合がありますので注意してください。
ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまうことがあります。特に、自分で作成したデータなどは、再セットアップしても元どおりにはできません。大切なデータは、フロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどの、ハードディスク以外の媒体に定期的にバックアップ(コピー)をとっておくことをおすすめします。

領域の確保とフォーマット

ハードディスクの領域を削除した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。

●Windows XP/Windows 2000の場合

ここでは、ハードディスクの拡張パーティションの作成と論理ドライブの作成について説明します。プライマリパーティションの作成方法などについては、「ディスクの管理」のヘルプをご覧ください。

1 次の手順を行う

- **Windows XPの場合**
  「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「管理ツール」をクリックする
- **Windows 2000の場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「管理ツール」アイコンをダブルクリックする

「管理ツール」が表示されます。

2 「コンピュータの管理」アイコンをダブルクリックする

「コンピュータの管理」が表示されます。

3 画面左側にあるコンソール ツリーの中の「ディスクの管理」をクリックする

表示された画面で、ハードディスクの容量や領域、ファイルシステムを確認してください。

4 画面右下に表示されている「未割り当て」を選んで右クリックする

メモ

ハードディスクに未割り当ての部分がない場合は表示されません。すでに使用しているドライブのパーティションの削除などについては、「コンピュータの管理」のヘルプをご覧ください。

5 表示されたメニューから次の項目をクリックする

- **Windows XPの場合**
  「新しいパーティション」
- **Windows 2000の場合**
  「パーティションの作成」

「新しいパーティション ウィザード」または「パーティションの作成ウィザード」が表示されます。

6 「次へ」ボタンをクリックする

7 「拡張パーティション」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

拡張パーティションとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

8 作成する拡張パーティションのサイズを入力して「次へ」ボタンをクリックする

9 「完了」ボタンをクリックする

指定されたサイズのパーティションが作成されます。
ハードディスクの未割り当て領域がなくなるまで手順4〜9をくりかえし、すべての領域を割り当ててください。割り当てられた領域は、「ディスクの管理」では「空き領域」と表示されます。続いてフォーマットを行います。

10 画面右下に表示されている「空き領域」を選んで右クリックする

すでに使用しているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存していたデータがすべて消えてしまいます。フォーマットする際は、十分注意してください。

11 表示されたメニューから次の項目をクリックする

- **Windows XPの場合**
  「新しい論理ドライブ」

- **Windows 2000の場合**
  「論理ドライブの作成」

「新しいパーティション　ウィザード」または「パーティションの作成ウィザード」が表示されます。

12 「次へ」ボタンをクリックする

13 「次へ」ボタンをクリックする

論理ドライブとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

14 作成する論理ドライブのサイズを入力し、「次へ」ボタンをクリックする

15 表示されたドライブ文字の割り当てを確認して「次へ」ボタンをクリックする

「パーティションのフォーマット」が表示されます。

16 フォーマットの設定を確認して「次へ」ボタンをクリックする

メモ

必要に応じてフォーマットの設定を変更してください。

フォーマットがはじまります。

17 「完了」ボタンをクリックする

複数のドライブをフォーマットしたい場合は、手順10〜17をくりかえしてください。

チェック!!

- Windows 2000の場合、新たにパーティションの作成を行った後、「コンピュータの管理」を閉じると「ワトソン博士」のエラーメッセージが表示される場合がありますが、新たなパーティションは使用できます。
- 「パーティションの作成ウィザード」の項目を入力し、「完了」ボタンをクリックすると、新しいパーティションの作成後、「ボリュームは開かれているか、または使用中です。要求を完了できません。」というようなメッセージが表示される場合があります。この場合は、以下の手順でパーティションの初期化を行ってください。

1 新たに作成したパーティションを右クリックし、「フォーマット」をクリックする

2 項目を設定し、「OK」ボタンをクリックする

3 「OK」ボタンをクリックする

●Windows Meの場合

■領域の確保

1 「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでFDISKと入力し【Enter】を押す

2 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されたら「Y」を選んで【Enter】を押す

「FDISKオプション」が表示されます。
FAT32ファイルシステムで領域を作成します。より効率よく大容量ハードディスクを利用することができます。

参照 FAT32について→「FAT32ファイルシステムの利用」

Nを入力した場合は、FAT16ファイルシステムで領域を作成します。最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱えます。

3 【1】を入力し、【Enter】を押す

領域を作成する画面が表示されます。

4 【2】を入力し、【Enter】を押す

「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください。拡張MS-DOS領域を作ります」と表示されます。

確保される領域は入力した領域サイズより大きくなる場合があります。たとえば、FAT16で2,047Mバイトを取得しようとすると、2,052Mバイトなどの値になり、FAT16で取得できない場合があります。このような場合は、2,045Mバイトなど、2,047Mバイトより小さい値で入力してください。

5 【Enter】を押す

「拡張MS-DOS領域を作成しました.」と表示されます。

6 【Esc】を押す

「論理ドライブのサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください」と表示されます。

7 サイズを入力して【Enter】を押す

「論理MS-DOSドライブを作成しました.ドライブ名は変更または追加されました」と表示されます。

8 拡張MS-DOS領域がなくなるまで手順7を繰り返し、すべての拡張MS-DOS領域を論理ドライブに割り当てる

「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています」と表示されます。

9 【Esc】を3回押す

「C:¥WINDOWS＞」の表示に戻ります。

10 「EXIT」と入力し、【Enter】を押す

Windowsの画面に戻ります。

11 Windowsを再起動する

■フォーマット

領域を確保したら、続いてハードディスクをフォーマットします。

チェック!!

すでに使用されているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存されていたデータがすべて消えてしまいます。フォーマットする際は、十分注意してください。

1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする

2 新たに領域を確保したドライブをクリックする

3 「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックする

「フォーマット」が表示されます。

4 「通常のフォーマット」をクリックする

5 「開始」ボタンをクリックする

確認の画面が表示されます。

6 「OK」ボタンをクリックする

フォーマットがはじまります。
しばらくすると、フォーマットが終了してフォーマットの結果の画面が表示されます。

7 「閉じる」ボタンをクリックする

スキャンディスクの実行のメッセージとヘルプが表示されます。

参照 **スキャンディスクについて→「VersaPro/VersaPro R電子マニュアル」『活用ガイド　ソフトウェア編』の「メンテナンスと管理」の「ハードディスクのメンテナンス」の「その他のメンテナンス」**

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「フォーマット」の画面をクリックする

10 「閉じる」ボタンをクリックする

11 ヘルプの内容にしたがって、スキャンディスクを実行する

複数のドライブをフォーマットする場合は、手順2〜11の操作を繰り返してください。

FAT32ファイルシステムの利用

FAT32を利用するには、「FDISK」コマンドを使用してFAT32ファイルシステムで領域を作成します。

◎「FDISK」コマンドでFAT32の領域を作成する

1 **「MS-DOSプロンプト」画面でFDISKと入力し【Enter】を押す**

2 **【Y】を押して【Enter】を押す**

3 **領域を作成する**
512Mバイト以上の領域を作成すると、その領域にはFAT32が適用されます。作成した領域が512Mバイトよりも小さい場合には自動的にFAT16が適用されます。

4 **「FDISK」を終了し、Windowsを再起動する**

5 **作成したドライブをフォーマットする**

セカンドハードディスクを使う(オールインワンノート(Dシリーズ)のみ)

オールインワンノート(Dシリーズ)では、添付または別売のセカンドハードディスクを取り付けると、ハードディスクの容量を増やすことができます。

◎ セカンドハードディスクの領域の確保とフォーマット

セカンドハードディスクを使用する場合は、領域の確保とフォーマットを行う必要があります。以下の手順で領域の確保とフォーマットを行ってください。

●Windows XP/Windows 2000の場合

「領域の確保とフォーマット」の「Windows XP/Windows 2000の場合」(p.63)の手順で領域の確保とフォーマットを行ってください。

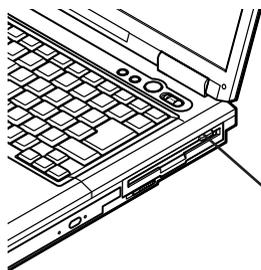
ハードディスクのメンテナンス

本機には、ハードディスクの障害を検出したり、アクセス速度を保つためのメンテナンスソフトが組み込まれています。
ハードディスクに障害や断片化があった場合、可能な範囲で修復することができます。

参照 **ハードディスクのメンテナンスについて→「VersaPro/VersaPro R電子マニュアル」『活用ガイド　ソフトウェア編』の「メンテナンスと管理」の「ハードディスクのメンテナンス」の「その他のメンテナンス」「メンテナンスと管理」の「ハードディスクのメンテナンス」**

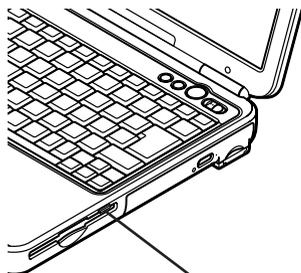
フロッピーディスクドライブ

各部の名称と役割

● オールインワンノート(Dシリーズ)の場合

フロッピーディスクイジェクトボタン
セットしたフロッピーディスクを取り出すためのボタンです。

チェック!!

オールインワンノート(D シリーズ)のフロッピーディスクモデルで、MultiBay-bにフロッピーディスクドライブ以外の機器を取り付けている場合、フロッピーディスクを使うにはMultiBay-bにフロッピーディスクドライブを取り付ける必要があります。「PART2　周辺機器の接続と設定」の「MultiBay-b」(p.170)をご覧になりフロッピーディスクドライブを取り付けてください。

● オールインワンノート(Rシリーズ)の場合

フロッピーディスクイジェクトボタン
セットしたフロッピーディスクを取り出すためのボタンです。

使用できるフロッピーディスクの種類

本機では、次の形式のフロッピーディスクを使うことができます。
フロッピーディスクのフォーマットについては、Windowsのヘルプをご覧ください。

ディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット	ディスクコピー
フロッピーディスク(2DD)	640KB	×	×	×
	720KB	○	○※1	○※1
フロッピーディスク(2HD)	1.2MB※3※4	○	○※2	○※2
	1.44MB	○	○	○

○ ：使用可能
× ：使用不可
※1：Windows 2000／Windows Meでのみ使用可能
※2：Windows 2000でのみ使用可能
※3：使用するには3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要になります。セットアップ方法については、「補足説明」に記載されています。以下の方法でご覧ください。
-Windows XPの場合
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「補足説明」
-Windows 2000／Windows Meの場合
「スタート」ボタン→「プログラム」→「補足説明」
※4：1.2MBには1.21MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1,024バイト/セクタ)の2種類があります。1.25MB(1,024バイト/セクタ)はPC-9800シリーズでサポートしているモードです。

使用上の注意

・本機では、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
・「ディスクのコピー」のコピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください(これはコマンド プロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です)。
・フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクドライブのアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするとフォーマット開始までの時間が長くかかる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
・フロッピーディスクを書き込み、または読み取り中は、アクセスランプが点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。
・Windows XPでは、1.44Mバイト以外の容量でフロッピーディスクをフォーマットすることはできません。

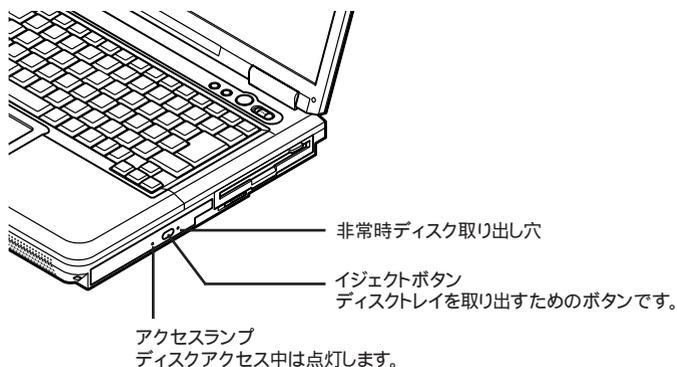
・Windows Meでは、MS-DOS Ver.6.2以前のFORMATコマンドでフォーマットしたフロッピーディスクを、MS-DOSプロンプトからDISKCOPYコマンドでディスクコピーすることはできません。「マイコンピュータ」の「3.5インチFD」アイコンを右クリックし、メニューから「ディスクのコピー」を実行してください。
・Windows Meで、2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットした場合は、いったんフロッピーディスクを取り出し、もう一度入れなおしてから使用してください。フォーマット後に、フロッピーディスクを入れなおさずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していても、エラーが発生する場合があります。クイックフォーマットされたフロッピーディスクの場合は、この手順は必要ありません。

CD/DVDドライブ

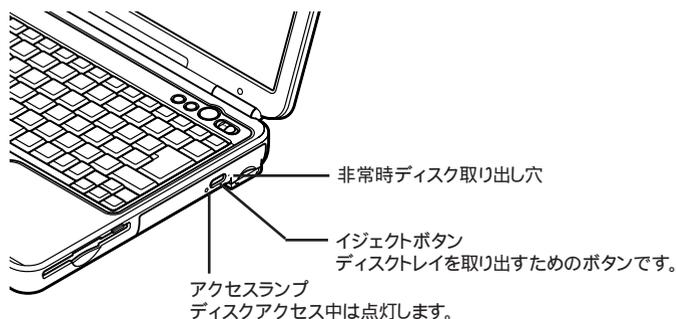
各部の名称と役割

メモ

イジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、モデルによってイラストと多少異なることがあります。

●オールインワンノート(Dシリーズ)の場合

チェック!!

オールインワンノート(Dシリーズ)でVersaBay IVbにCD/DVDドライブ以外の機器を取り付けている場合、CD-ROMを使うにはVersaBay IVbにCD/DVDドライブを取り付ける必要があります。「PART2 周辺機器の接続と設定」の「VersaBay IVb」(p.167)をご覧になりCD/DVDドライブを取り付けてください。

● オールインワンノート(Rシリーズ)の場合

使用できるディスク

・再生可能なディスク
音楽CD、ビデオCD、フォトCD、DVD VIDEOディスク※1

・読み込み可能なディスク
CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM※1、DVD-RAM※1、DVD-R※1、DVD-RW※1

・書き込み可能なディスク
CD-R※3、CD-RW※3、DVD-RAM※2、DVD-R※2、DVD-RW※2

・書き換え可能なディスク
CD-RW※3、DVD-RAM※2、DVD-RW※2

※1:CD-R/RW with DVD-ROMモデル、DVDマルチモデルのみ
※2:DVDマルチモデルのみ
※3:CD-R/RWモデル、CD-R/RW with DVD-ROMモデル、DVDマルチモデルのみ

メモ

CD-R/RW with DVD-ROMモデル、CD-R/RWモデルでは、550MB/650MB/700MBのCD-Rメディア、CD-RWメディアが使用できます。

チェック!!

- **DVD VIDEOディスクは、リージョンコード(国別地域番号。日本は2です)によって管理されているため、リージョンコードが2もしくはフリーに設定されているディスクのみ再生することができます。海外で購入したDVD VIDEOディスクについては、特にこの点に注意してください。**
- **本機で書き込み、書き換えをしたメディアを他の機器で使用する場合、フォーマット形式や装置の種類などにより使用できない場合があります。**
- **他の機器で書き込み、書き換えたメディアは、ディスク、ドライブ、記録方式などの状況により本機では記録再生性能を保証できない場合があります。**
- **コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。**
  規格外の音楽CDについては、音楽の再生や音楽CDの作成ができないことがあります。
- **本機で音楽CDを使用する場合、ディスクレーベル面にCompact Discの規格準拠を示すCOMPACT disc DIGITAL AUDIOマークの入ったディスクを使用してください。**
- **CD(Compact Disc)規格外ディスクを使用すると、正常に再生ができなかったり、音質が低下したりすることがあります。**

使用上の注意

・CD/DVDドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。

・アクセスランプの点灯中は、ディスクを絶対に取り出さないでください。本機の故障の原因となります。

・ラベルが貼ってあるなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、本機の操作中に手に振動を感じることがあります。これは故障の原因となるため、ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。

・Windows XPをお使いの場合、CD/DVDドライブにディスクをセットすると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります(表示される内容は、使用するメディアによって異なります)。このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをクリックしてください。どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上の×をクリックしてください。

・コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、 現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。 規格外の音楽CDについては、音楽の再生や音楽CDの作成ができないことがあります。
・本機で音楽CDを使用する場合、ディスクレーベル面にCompact Discの規格準拠を示すマークの入ったディスクを使用してください。
・CD(Compact Disc)規格外ディスクを使用すると、 正常に再生ができなかったり、 音質が低下したりすることがあります。

◎ 非常時のディスクの取り出し方

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合は、非常時ディスク取り出し穴に太さ1.3 mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。

チェック!!

CD/DVDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使って取り出さないようにしてください。

液晶ディスプレイ

本機の液晶ディスプレイの表示を調整する方法や、表示できる解像度と表示色について説明しています。

画面表示を調整する

◎ 表示を調整する

本機では、キーボードを使って輝度や画面の調整を行います。輝度は8段階で調整することができます。

機能	キー操作	説明
画面の伸縮※	【Fn】+【F5】	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する/しないを切り替えます。
輝度を上げる▲☼	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します。
輝度を下げる▼☼	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します。

※:購入時には拡大表示に設定されています。

表示できる解像度と表示色

チェック!!

設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

本機の液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

● オールインワンノート(Dシリーズ)の場合

解像度(ドット)	表示色	本機の液晶ディスプレイにのみ表示	別売のCRTディスプレイにのみ表示	本機の液晶ディスプレイと別売のCRTディスプレイの同時表示※1	TVのみ
640×480※2	26万色中256色	○	◎	○	◎
	65,536色	○	◎	○	◎
	1,677万色※3	○	◎	○	◎
800×600	26万色中256色※2	○	◎	○	◎
	65,536色	○	◎	○	◎
	1,677万色※3	○	◎	○	◎
1,024×768	26万色中256色※2	◎※7	◎	◎※7	◎
	65,536色※4	◎※7	◎	◎※7	◎
	1,677万色※3	◎※7	◎	◎※7	◎
1,280×1,024	26万色中256色※2	△※7	◎	△※7	△
	65,536色	△※7	◎	△※7	△
	1,677万色※3	△※7	◎	△※7	△
1,400×1,050	26万色中256色※2	◎※6	×	×	×
	65,536色※5	◎※6	×	×	×
	1,677万色※3	◎※6	×	×	×
1,600×1,200	26万色中256色※2	△	◎	△	△
	65,536色	△	◎	△	△
	1,677万色※3	△	◎	△	△

○ :【Fn】+【F5】を押して拡大／縮小切り替え可能
◎ :フルスクリーン表示可能
△ :バーチャルスクリーンで表示可能(Windows 2000以外)
× :表示不可
※1:別売のCRTディスプレイ未接続時は本機の液晶ディスプレイのみに表示される
※2:Windows XP以外で表示可能
※3:本機の液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現
※4:VA16F/DF、VA13F/DF、VA13F/DX、VA18X/DF、VA18X/DXの購入時の設定
※5:VA16F/DGの購入時の設定
※6:VA16F/DGのみ表示可能
※7:VA16F/DGでは、【Fn】+【F5】を押して拡大／縮小切り替え可能

●オールインワンノート(Rシリーズ)の場合

解像度(ドット)	表示色	本機の液晶ディスプレイにのみ表示	別売のCRTディスプレイにのみ表示	本機の液晶ディスプレイと別売のCRTディスプレイの同時表示※1	TVのみ
640×480※2	26万色中256色	○	◎	○	◎
	65,536色	○	◎	○	◎
	1,677万色※3	○	◎	○	◎
800×600	26万色中256色※2	○	◎	○	◎
	65,536色	○	◎	○	◎
	1,677万色※3	○	◎	○	◎
1,024×768	26万色中256色※2	◎	◎	◎	◎
	65,536色※4	◎	◎	◎	◎
	1,677万色※3	◎	◎	◎	◎
1,280×1,024	26万色中256色※2	△	◎	△	△
	65,536色	△	◎	△	△
	1,677万色※3	△	◎	△	△
1,600×1,200	26万色中256色※2	△	◎	△	△
	65,536色	△	◎	△	△
	1,677万色※3	△	◎	△	△

○　:【Fn】+【F5】で拡大／縮小切り替え可能
◎　:フルスクリーン表示可能
△　:バーチャルスクリーンで表示可能(Windows 2000以外)
※1:別売のCRTディスプレイ未接続時は本機の液晶ディスプレイのみに表示される
※2:Windows XP以外で表示可能
※3:本機の液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現
※4:本機の購入時の設定

解像度と表示色を変更する

ディスプレイの解像度と表示色は、「コントロール　パネル」で設定します。設定方法は次の通りです。

●Windows XPの場合

1 「スタート」ボタン→「コントロール　パネル」→「デスクトップの表示とテーマ」→「画面」をクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックする

3 解像度または表示色を変更する

- **解像度を変更する場合**

  「画面の解像度」欄でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向にドラッグすると低解像度になります。

チェック!!

設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

- **表示色を変更する場合**

  「画面の色」欄の をクリックし、選択一覧から変更します。

  この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。

メモ

「中(16ビット)」は65,536色、「最高(32ビット)」は1,677万色になります。

4 設定が終了したら、「OK」をクリックする

このあとは、画面の指示にしたがって操作してください。

●Windows 2000／Windows Meの場合

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックする

3 解像度または表示色を変更する

- **解像度を変更する場合**

  「画面の領域」欄でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向にドラッグすると低解像度になります。

チェック!!

設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

- **表示色を変更する場合**
  「色」または「画面の色」欄の▼をクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。

4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする

このあとは、画面の指示にしたがって操作してください。

バーチャルスクリーン(Windows XP／Windows Meのみ)

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。

メモ

バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。ディスプレイの画面上の見えていない部分を見るには、ポインタをディスプレイの画面の端に移動させます。ポインタの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

◎ バーチャルスクリーンモードの設定方法

チェック!!

- **バーチャルスクリーンによって表示される解像度は「表示できる解像度と表示色」をご覧ください。**
- **外部CRTディスプレイ接続時、これらの解像度が表示できない場合がありますが、下記の手順を行うことで選択可能になります。**

●Windows XPの場合

1 **「スタート」ボタン→「コントロール　パネル」→「デスクトップの表示とテーマ」→「画面」をクリックする**
「画面のプロパティ」が表示されます。

2 **「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンをクリックする**

3 **「モニタ」タブをクリックする**

4 **「このモニタでは表示できないモードを隠す」の☑をクリックして□にする**

5 **「OK」ボタンをクリックする**

6 **「OK」ボタンをクリックする**

これで設定が完了しました。

●Windows Meの場合

1 **「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール　パネル」をクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックする**
「画面のプロパティ」が表示されます。

2 **「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする**

3 **「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする**
「デバイス ドライバの更新ウィザード」が表示されます。

4 **「ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする**

5 **「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする**

6 **「すべてのハードウェアを表示」の○をクリックして◉にする**

7 **「製造元」欄で「(標準モニタの種類)」を選択し、「モデル」欄の「Super VGA 1600×1200」をクリックする**

8 **「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする**

9 **「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする**

10 **「OK」ボタンをクリックする**

これで設定が完了しました。

デュアルディスプレイ機能(Windows XP／Windows Meのみ)

デュアルディスプレイ(Dual Display)とは、CRT ディスプレイなどの外部ディスプレイを接続時に、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるので、表示できる範囲が広くなります。この機能は、Windows XP／Windows Meのいずれかで使用することができます。

メモ

デュアルディスプレイ機能は、同じ画面を2つのディスプレイに表示する機能とは異なります。

チェック!!

画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。

◎ デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン／オフ、プライマリ／セカンダリを次の手順にしたがって設定します。

●VA16F/DG、VA16F/DF、VA13F/DF、VA13F/DXの場合

1 **別売のディスプレイを接続し、電源を入れる**

参照 **別売のCRTディスプレイなどを接続するには→「PART2 周辺機器の接続と設定」の「外部ディスプレイ」(p.157)**

2 **本機の電源を入れる**

3 **「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「デスクトップの表示とテーマ」→「画面」をクリックする**

「画面のプロパティ」が表示されます。

4 **「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンをクリックする**

5 **「Intel(R) Extreme Graphics」タブをクリックし、「グラフィックのプロパティ」ボタンをクリックする**

6 **「拡張デスクトップ」をクリックする**

メモ

「拡張デスクトップ」が表示されていない場合は、▲または▼をクリックして「拡張デスクトップ」を表示してください。

7 **プライマリデバイスおよびセカンダリデバイスの▼をクリックし、一覧から使用するモニタを選択する**

一覧には「PCモニタ」「ノートブック」「TV」が表示されます。

8 **「OK」ボタンをクリックする**

設定の保存を確認するメッセージが表示されます。

9 **「OK」ボタンをクリックする**

10 **「OK」ボタンをクリックする**

11 **「OK」ボタンをクリックする**

設定が有効になり、デュアルディスプレイ機能を使う準備が終了しました。

●VA18X/DF、VA18X/DX、およびオールインワンノート(Rシリーズ)の場合

1 別売のディスプレイを接続し、電源を入れる

参照 別売のCRTディスプレイなどを接続するには→「PART2 周辺機器の接続と設定」の「外部ディスプレイ」(p.157)

2 本機の電源を入れる

3 次の操作を行う

- **Windows XPの場合**
  「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「デスクトップの表示とテーマ」→「画面」をクリックする
- **Windows Meの場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

4 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンまたは「詳細」ボタンをクリックする

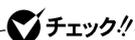
5 「ATI画面」タブをクリックする

「モニタ」「パネル」(「テレビ」)(「FPD」)の接続状態が表示されます。

6 「モニタ」のをクリックしてにする

表示をすべてオフにすることはできません。どれかひとつはオンの状態になっています。

7 「モニタ」「パネル」の下の(プライマリ)または(セカンダリ)をクリックする

チェック!!

すべてをセカンダリに設定することはできません。

接続が認識されると、解像度とリフレッシュレート(水平同期周波数)が表示されます。

8 **「OK」ボタンをクリックする**
設定を保存するかを確認するメッセージが表示されます。

9 **「はい」ボタンをクリックする**

10 **「OK」ボタンをクリックする**

◎ デュアルディスプレイ機能を使う

デュアルディスプレイ機能を使うには、あらかじめ本機に別売のCRTディスプレイを接続しておいてください。

●Windows XPの場合

1 **「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「デスクトップの表示とテーマ」→「画面」をクリックする**
「画面のプロパティ」が表示されます。

2 **「設定」タブをクリックする**

3 **「2」と表示されたディスプレイのイラストを右クリックする**

4 **表示されたメニューから「接続」をクリックする**

5 **「適用」ボタンをクリックする**

6 **「OK」ボタンをクリックする**
これでデュアルディスプレイ機能を使うことができます。

●Windows Meの場合

1 **「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックする**
「画面のプロパティ」が表示されます。

2 **「設定」タブをクリックする**

3 **「2」と表示されたディスプレイのイラストをクリックする**
モニタの使用を確認するメッセージが表示されます。

4 「はい」ボタンをクリックする

5 「適用」ボタンをクリックする

これでデュアルディスプレイ機能を使うことができます。

◎ デュアルディスプレイ機能を解除する

●Windows XPの場合

「デュアルディスプレイ機能を使う」(p.87)と同様の手順を行って解除してください。

●Windows Meの場合

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックする

3 「2」と表示されたディスプレイのイラストを右クリックする

4 表示されたメニューから「使用可能」をクリックする

5 「適用」ボタンをクリックする

これでデュアルディスプレイ機能が解除されました。

ディスプレイストレッチ機能

ディスプレイストレッチ機能とは、液晶ディスプレイの解像度よりもWindowsの解像度設定が低い場合に、液晶ディスプレイに画面イメージを拡大して表示する機能です。
次の操作を行うことで、ディスプレイストレッチ機能を使用することができます。

●VA16F/DG、VA16F/DF、VA13F/DF、VA13F/DXの場合

1 次の操作を行う

- **Windows XPの場合**
  「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「デスクトップの表示とテーマ」→「画面」をクリックする
- **Windows 2000の場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンまたは「詳細」ボタンをクリックする

3 「Intel(R) Extreme Graphics」タブをクリックし、「グラフィックのプロパティ」ボタンをクリックする

4 「ノートブック」をクリックする

メモ

「ノートブック」が表示されていない場合は、、[▲] または [▼] をクリックして「ノートブック」を表示してください。

5 「フル画面(ボーダーなし)」の□をクリックして☑にする

6 「OK」ボタンをクリックする

7 「OK」ボタンをクリックする

8 「OK」ボタンをクリックする

●VA18X/DF、VA18X/DX、およびオールインワンノート(Rシリーズ)の場合

1 次の操作を行う

- **Windows XPの場合**
  「スタート」ボタン→「コントロール　パネル」→「デスクトップの表示とテーマ」→「画面」をクリックする
- **Windows 2000／Windows Meの場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール　パネル」をクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンまたは「詳細」ボタンをクリックする

3 「ATI画面」タブをクリックする

「モニタ」「パネル」(「テレビ」)(「FPD」)の接続状態が表示されます。

4 パネル(P) をクリックする

「パネルのプロパティ」が表示されます。

5 「イメージをパネル　サイズにする」の をクリックして にする

6 「OK」ボタンをクリックする

7 「OK」ボタンをクリックする

8 「OK」ボタンをクリックする

赤外線通信機能

赤外線通信とは、パソコンとパソコンの間をケーブルで接続せずに赤外線でデータの交換を行う通信方法です。本機では、IrDA規格に準拠した、通信速度4Mbpsまでの赤外線通信ができます。

赤外線通信を行うための準備

本機は購入時の状態では赤外線通信機能を利用できる状態になっていません。本機で赤外線通信機能を利用するには準備が必要です。以下の手順にしたがって設定を行ってください。

1 本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。

参照 **BIOSセットアップユーティリティについて→「PART3　システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」(p.178)**

2 「詳細(Advanced)」メニューで「周辺機器設定(I/O Device Configuration)」の「赤外線ポート(Infrared port)」を選択する

3 「自動(Auto)」を選択する

「赤外線ポート(Infrared port)」を「自動(Auto)」に設定すると、「モード(Mode)」が表示されます。「モード(Mode)」の設定値が「FIR」になっていることを確認してください。

4 【F10】を押す

「セットアップ確認」ウィンドウが表示されます。

5 「はい(Yes)」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

チェック!!

バージョンの競合を確認する画面や「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。Windowsが再起動し、赤外線通信をするための準備が完了します。

機器の配置について

◎ 機器の配置のしかた

赤外線通信を行うときは、本機の赤外線通信ポートと通信相手機器の赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにし、約1m以内の距離に配置してください。

◎ 機器を配置するときの注意

・赤外線通信ポートは、汚したり傷つけたりしないでください。
・通信する互いの機器の間に赤外光を遮るような物を置かないでください。
・互いの機器を接触させないでください。
・通信相手の赤外線が本機の赤外線通信ポートまで届かない場合や、通信相手機器の通信可能距離が本機よりも短い(本機の場合は約1m以内)場合は、通信相手の機器が本機の通信可能範囲にあっても通信できないことがあります。このような場合は、互いの赤外線通信ポートを真正面で向き合わせて、できる限り近くに置いてください。このとき、互いの機器が接触しないようにしてください。

■ 次のような場合は通信可能距離が短くなってしまうことがあります

・直射日光や蛍光灯の直下
・互いの機器が正しく向き合っていない
・他の赤外線通信機器やノイズを発生する機器の近くにある
・本機の赤外線通信ポートの指向性(約15度程度)の範囲を越えている

■ 次のような場合はうまく通信できないことがあります

・通信相手機器がIrDA規格に準拠していない場合
・異なる機器と接続した場合(相手の機器の性能に依存するため)

メモ

異なる機器との通信には、互いの機器間の通信に対応したソフトが必要です。

赤外線通信を行う

赤外線通信を行うには、次の方法があります。

・ワイヤレスリンク

・ケーブル接続(Windows Meのみ)

◎ ワイヤレスリンク

「ワイヤレスリンク」とは、赤外線通信が可能な2台のパソコン間でファイルの転送を行う機能です。
ワイヤレスリンクを使ったファイルの転送には次の方法があります。

■「ワイヤレスリンク」ウィンドウを使う

1 画面右下の通知領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする

「ワイヤレスリンク」ウィンドウが表示されます。

メモ

デスクトップに表示される「ファイルを別のコンピュータに送信」アイコン、または「ワイヤレスリンク」アイコンをダブルクリックしてウィンドウを開くこともできます。

2 送信するファイルを選択し、「送信」ボタンをクリックする

■「送る」コマンドを使う

1 デスクトップやエクスプローラ、マイコンピュータなどで、送信するファイルを表示させる

2 送信するファイルを右クリックする

3 表示されたメニューから「送る」をクリックし、サブメニューから送り先をクリックする

・**Windows XPの場合**
「近くのコンピュータ」

・**Windows 2000の場合**
「赤外線受信者」

・**Windows Meの場合**
「赤外線の受信者側」

■**ドラッグ&ドロップを使う**

1 **デスクトップやエクスプローラ、マイコンピュータなどで送信するファイルを表示させる**

2 **送信するファイルをデスクトップの「ファイルを別のコンピュータに送信」アイコン、または「ワイヤレスリンク」アイコンへドラッグ&ドロップする**

チェック!!

画面右下の通知領域(タスクトレイ)やデスクトップにアイコンが表示されていない場合は、赤外線通信を行う相手の機器が通信範囲内に正しく配置されているか確認してください。

ワイヤレスリンクの使い方について詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」または「ヘルプ」をクリックすると表示されるWindowsのヘルプをご覧ください。

◎ ケーブル接続(Windows Meのみ)

「ケーブル接続」とは、赤外線や通信ケーブルで他のコンピュータのネットワークや共有フォルダにアクセスする機能です。
ケーブル接続について詳しくは、「スタート」ボタン→「ヘルプ」をクリックして、ヘルプをご覧ください。

チェック!!

「ケーブル接続」で赤外線通信を行う場合は、「使用するポート」として仮想赤外線COMポートを指定してください。仮想赤外線COMポートは、「赤外線モニタ」の「オプション」タブで「アプリケーションでサポートしているポート」の部分に表示されています。

サウンド機能

音量を調節する

◎ 音量調節つまみを使う

音量調節つまみ(🔈)を使って音量を調節することができます。

参照 音量調節つまみについて→「各部の名称」(p.16)

◎ ボリュームコントロールを使う

Windowsの「ボリュームコントロール」で音量を調節することができます。
ボリュームコントロールは次のようにして開くことができます。

●Windows XPの場合

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」「ボリューム コントロール」をクリックしてください。

●Windows 2000／Windows Meの場合

インジケータ領域(タスクトレイ)の🔈をダブルクリックしてください。

参照 ボリュームコントロールについて→Windowsのヘルプ

チェック!!

ディスプレイの解像度を低解像度に設定している場合にボリュームコントロールを表示させると、ボリュームコントロールのすべての音源コントロールが表示されない場合や、右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。
このような場合には、ディスプレイの解像度を変更するか、または「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。
なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、いったんボリュームコントロールを終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

◎ ビープ音のオン／オフを切り替える

キーボードの【Fn】を押しながら【F6】を押すと、システムブザー、PCカードブザー、モデム音などのビープ音のオン／オフを切り替えることができます。

音楽CDを再生するには

本機のCD/DVDドライブは、音楽CDからのデジタル出力のみ使用可能です。CD/DVDドライブを使用して音楽CDを再生／録音する場合は、アナログではなく、デジタルで音楽CDを再生するように設定しておく必要があります。
次の手順で、音楽CDからデジタル出力をする設定になっていることを確認してください。

1 「デバイス マネージャ」を開き、「DVD/CD-ROMドライブ」または「CD-ROM」の左の⊞ をクリックする

2 表示されるCD-ROMデバイスをダブルクリックする

3 「プロパティ」タブをクリックする

4 「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」が☑ になっていることを確認する

5 「OK」ボタンをクリックする

6 「デバイス マネージャ」を閉じる

7 「OK」ボタンをクリックする

Windows XP／Windows Meをお使いで、再生しているプレーヤーが「Windows Media Player」の場合は、以下の手順を行ってください。
Windows 2000をお使いの場合は、これで設定は完了です。

8 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「Windows Media Player」をクリックする

Windows Media Playerが起動します。

9 メニューバーの「ツール」-「オプション」をクリックし、「デバイス」タブをクリックする

メニューバーが表示されていない場合は、をクリックしてください。

10 「デバイス」欄に表示されているCD-ROMデバイスを選択して「プロパティ」ボタンをクリックし、「オーディオ」タブをクリックする

11 「再生」欄の「デジタル」がになっていることを確認する

12 「OK」ボタンをクリックする

13 「OK」ボタンをクリックする

14 「Windows Media Player」を閉じる

マイクの設定をする

「SoundMAX　コントロールパネル」でマイクの設定を行うことができます。マイクの設定では、お使いのマイクの指定や、マイクでの録音時にノイズを除去する「ノイズ除去」の設定、録音ボリュームの設定などが行えます。マイクの設定を行う場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 画面右下の通知領域にあるをダブルクリックする

「SoundMAX　コントロールパネル」が表示されます。

2 「マイク」タブをクリックする

3 次の操作を行う

- **スタンドマイクをお使いの場合**
  「標準マイク」をクリックしてにする
- **ヘッドセット マイクまたは、モノラルヘッドフォンマイクをお使いの場合**
  「ヘッドセット」をクリックしてにする
- **マイクノイズを除去する場合**
  「ノイズ除去」をクリックしてにする
- **自動的に最適な音にする場合**
  「マイクの設定ウィザード」ボタンをクリックして表示された画面で声にあわせてマイクを設定する

「SoundMAX Superbeam™ マイク」の設定について詳しくは、「SoundMAX FAQs」をご覧ください。「SoundMAX FAQs」は、通知領域の▶を右クリックして表示されるメニューから「SoundMAX FAQs」をクリックして表示してください。

4 設定が完了したら「OK」ボタンをクリックする

MIDIの設定をする

「SoundMAX コントロールパネル」でMIDIの演奏モードを次のいずれかに設定することができます。

・Microsoft GS Wavetable SW Synth
・SoundMAX XGLite
・SoundMAX General MIDI

MIDIの演奏モードの設定を行う場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 次の操作を行う

- **Windows XPの場合**
  「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」→「サウンドとオーディオデバイス」をクリックする
  「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」が表示されます。

- **Windows 2000／Windows Meの場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「サウンドとマルチメディア」アイコンをダブルクリックする
  「サウンドとマルチメディアのプロパティ」が表示されます。

2 「オーディオ」タブをクリックする

3 デバイスを選択する

- **「Microsoft GS Wavetable SW Synth」に設定する場合**
  ▼をクリックして「Microsoft GS Wavetable SW Synth」を選択する

- **「SoundMAX XGLite」、「SoundMAX General MIDI」に設定する場合**
  ▼をクリックして「SoundMAX Wavetable Synth」を選択する

4 「OK」ボタンをクリックする

「Microsoft GS Wavetable SW Synth」の設定はこれで終わりです。
「SoundMAX XGLite」、「SoundMAX General MIDI」に設定する場合は、次の手順に進んでください。

5 画面右下の通知領域の▶をダブルクリックする

「SoundMAX コントロールパネル」が表示されます。

6 サウンドセットを設定する

- **「SoundMAX XGLite」に設定する場合**
  ▼をクリックして「SoundMAX XGLite」を選択する
- **「SoundMAX General MIDI」に設定する場合**
  ▼をクリックして「SoundMAX General MIDI」を選択する

7 「OK」ボタンをクリックする

モデム

FAXモデムモデルでは、内蔵のモデムを介して電話回線に接続すると、インターネットや電子メールなどのやり取りができます。

電話回線との接続

◎ 接続可能な電話回線のコンセントについて

- 本機に接続可能な電話回線は2線式のみです。電話回線に接続する前に、使用する電話回線の種類を確認してください。
- モデルによっては、モジュラージャックと接続するためのモジュラーケーブルが添付されています。電話回線のコンセントがモジュラージャック式以外の場合は、変換アダプタを使用するか加入電話回線の提供会社にモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

チェック!!

内蔵のFAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。

◎ 電話回線に接続する

チェック!!

LANコネクタにモジュラーケーブルを接続すると故障の原因になります。接続するコネクタを確認して接続を行ってください。

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **電話機のモジュラーケーブルをモジュラージャックなどから取り外す**

3 **モジュラーケーブルの一方を本機の電話回線用モジュラーコネクタ(□)に奥までしっかり差し込む**

参照 電話回線用モジュラーコネクタについて→「各部の名称」(p.16)

4 モジュラーケーブルのもう一方を、壁などのモジュラージャック に奥までしっかり差し込む

メモ

1つの電話回線のモジュラージャックを本機以外の機器(電話機など)と共用で使用する場合は、使用するごとにケーブルの接続や取り外しが必要になります。

ダイヤル設定のしかた

●Windows XP/Windows 2000の場合

1 次の操作を行う

- **Windows XPの場合**
  「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「プリンタとその他のハードウェア」→「電話とモデムのオプション」をクリックする

- **Windows 2000の場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックする

「電話とモデムのオプション」が表示されます。

チェック!!

はじめてダイヤル設定を行うときは、「所在地情報」が表示されます。「市外局番」欄または「市外局番/エリア コード」欄に、使用する場所の0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックすると、「電話とモデムのオプション」が表示されます。

2 「ダイヤル情報」タブで、設定したい所在地名を選んでから「編集」ボタンをクリックする

メモ

新規にダイヤル設定を行いたい場合は、「新規」ボタンをクリックしてください。

3 「所在地の編集」で設定を行う

4 設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックする

Windows XPをお使いの方で、会社など外線発信番号「0」を使用する電話回線を利用する場合は、続けて以下の手順5〜9を行ってください。

5 「モデム」タブをクリックし、使用しているモデムを選択してから「プロパティ」ボタンをクリックする

プロパティの画面が表示されます。

6 「モデム」タブをクリックし、「発信音を待ってからダイヤルする」の☑をクリックして□にする

7 「詳細設定」タブをクリックし、「国または地域の選択」欄で「日本」を選択して「OK」ボタンをクリックする

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「プリンタとその他のハードウェア」の☒をクリックする

■ダイヤルアップの接続の設定

1 「スタート」ボタン→「接続」で、接続先を右クリックする

メニューが表示されます。

2 「プロパティ」をクリックする

プロパティの画面が表示されます。

3 「ダイヤル情報を使う」の□をクリックして☑にする

●Windows Meの場合

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする

「ダイヤルのプロパティ」が表示されます。

チェック!!

はじめてダイヤル設定を行うときは、「所在地情報」が表示されます。「市外局番」欄に、使用する場所の0を除いた市外局番を入力し、「閉じる」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」が表示されます。

2 必要な項目を確認して設定する

メモ
新規にダイヤル設定を行いたい場合は、「新規」ボタンをクリックしてください。

通信機能使用上の注意

・内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。一般電話回線以外に接続すると、本体の故障、発熱の原因になることがありますので注意してください。
・ダイヤル方法を選択するときは、プッシュ回線を使用する場合は「トーン」、ダイヤル回線を使用する場合は「パルス」に設定します。加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。
・「電話とモデムのオプション」または「ダイヤルのプロパティ」では、「市外局番」欄に使用する場所の0を除いた市外局番を入力し、携帯電話など、市外局番からダイヤルする必要がある場合は「000」を入力します。また、外線発信番号が必要な場合は、外線発信番号も入力してください。
・回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。
・キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
・ダイヤルアップネットワーク接続の場合、インターネットエクスプローラを終了しても回線が接続されたままになっている場合があります。回線を切断する場合は、画面右下の通知領域(タスクトレイ)にあるなどの「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをクリックまたはダブルクリックし、表示された画面から「切断」をクリックしてください。
・コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線を使用している場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
・回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
・電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
・データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
・通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担任者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

・本機に内蔵されているモデムは、海外では使用できません。
・海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。
・ITU-T V.90の最大受信速度56,000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。
・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、『ATコマンド』(ここをクリック) のファイルをご覧ください。
・回線を使って通信中はスタンバイ状態、休止状態にしないでください。
・分岐アダプタを使って本機と電話機などの両方を電話回線に接続している場合、本機で回線を使っているときは、電話機などの受話器をはずさないでください。本機の通信が妨害され、切断されることがあります。
・接続する電話機などの種類によっては、動作しない機種があります。
・接続する電話機などの種類によっては、内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合があります。内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合は、以下のいずれかの方法で、正常に通信できるようになります。
  -接続する電話機などにアース接続用の端子がある場合は、アース線をつなぐ
  -内蔵FAXモデムで通信を行う場合は、電話機などを取り外す
・構内交換機(PBX)の種類によっては内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。
・内蔵FAXモデムで通信を行う場合は、使用していないアプリケーションを終了してください。
・ダイヤルアップ接続中に【Fn】+【F3】、【F5】、【F6】、【F8】、【F9】の操作を行わないでください。接続できない場合があります。また、通信中に上記の操作を行うと通信が切れる場合があります。

インターネットへの通信環境を切り替える

本機では、インターネットへの通信環境を簡単に切り替えるアプリケーションとして次のツールが利用できます。

・Windows XPをお使いの場合
「MobileOptimizer」
・Windows 2000の場合
「MobileOptimizer」および「インターネット設定切替ツール」
・Windows Meの場合
「インターネット設定切替ツール」

MobileOptimizerやインターネット設定切替ツールを使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。本機を携帯して、外出先でインターネットを利用する場合などに便利な機能です。
使い方について詳しくは、MobileOptimizerまたはインターネット設定切替ツールのヘルプをご覧ください。

チェック!!

- **MobileOptimizerまたはインターネット設定切替ツールは、購入時にはインストールされていません。使用する場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」を使ってインストールします。インストール方法は、『活用ガイド　ソフトウェア編』の「アプリケーションの概要と削除/追加」をご覧ください。**
- **LANを使った接続を行うには、あらかじめネットワークの設定をしておく必要があります。**
- **MobileOptimizerは、コンピュータの管理者権限(Administrator権限)を持つユーザーアカウントでログオンした状態で使用してください。複数のユーザーがログオンしている状態では、機能の一部が使用できない場合があります。**
- **インターネット設定切替ツールはMicrosoft Outlookには対応していません。**

携帯電話／PHS接続機能

携帯電話またはPHSを接続することで、屋外でも手軽にインターネットや電子メールを利用できます。

携帯電話またはPHSとの接続

本機に携帯電話やPHSを接続して、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。
本機と携帯電話やPHSを接続するためには、別売のケーブルが必要になります。以下の中からいずれかのケーブルを購入してください。

・携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)
・cdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)
・PHS(NTTドコモ/アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK07)
・PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)

お使いの携帯電話やPHSによって必要なケーブルが異なりますので、ケーブルを購入する際には、お使いの携帯電話やPHSに合ったケーブルを確認してください。

メモ

接続できる携帯電話またはPHSについては、NECの企業向けパソコン総合関連サイト「NEC8番街」の「携帯電話接続一覧表」をご覧ください。
http://nec8.com/products/versapro/connection.html

◎ 携帯電話またはPHSを接続する

1 接続ケーブルのラベルが貼ってあるほうのプラグを、携帯電話またはPHS本体に接続する

プラグの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。

2 本機のUSBコネクタ(•⊂⊹)に、接続ケーブルのプラグを接続する

複数のUSBコネクタがある場合は、どのUSBコネクタに接続してもかまいません。プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

参照 USBコネクタについて→「PART2　周辺機器の接続と設定」の「USBコネクタ」（p.172）

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、携帯電話またはPHSを使用した接続設定にする場合は、「新しい接続」を作成するときに、「モデムの選択」で「SunComm MultiMobile3 USB」を選択してください。

チェック!!

お使いの携帯電話またはPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、携帯電話またはPHSのマニュアルをご覧ください。また専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

ダイヤル設定のしかた

ダイヤルの設定を確認または変更したい場合は、「電話とモデムのオプション」ウィンドウまたは「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウで行います。

参照 ダイヤル設定のしかたについて→「モデム」の「ダイヤル設定のしかた」（p.101）

チェック!!

携帯電話またはPHSなど、必ず市外局番からダイヤルする必要のある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

携帯電話／PHS接続機能使用上の注意

ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、『ATコマンド』（ここをクリック）をご覧ください。

いろいろなデータ通信を行う

本機の携帯電話／PHS接続機能では、通常のデータ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。

チェック!!

- **データ通信を利用する場合は、それぞれのデータ通信に対応した接続ケーブルと、「ダイヤルアップの接続」ウィンドウでの設定が必要になることがあります。**
- **データ通信を利用する場合は、アクセスポイントが利用するデータ通信に対応していることを確認してください。対応していないデータ通信方式で接続すると、接続できなかったり、正常に通信できないことがあります。**

<table>
<tr><th colspan="2">データ通信の種類</th><th>必要な接続ケーブル</th><th>ダイヤルアップ接続の設定</th></tr>
<tr><td colspan="2">cdmaOne※1</td><td>cdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)</td><td>特別な設定は必要ありません。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">NTTドコモ</td><td>DoPaサービス(パケット通信サービス)</td><td>携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)</td><td>電話番号の最後に「##02」を追加する※2</td></tr>
<tr><td>PHS(64K対応機種)</td><td>携帯電話(NTTドコモ/アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK07)</td><td rowspan="2">電話番号の最後に「##4」を追加する</td></tr>
<tr><td>ドッチーモ(PIAFS64K機種)※3</td><td rowspan="2">携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)</td></tr>
<tr><td>ドッチーモ(PIAFS32K機種)※3</td><td rowspan="2">電話番号の最後に「##3」を追加する※4</td></tr>
<tr><td rowspan="2">DDIポケット</td><td>PIAFS32K対応電話機</td><td rowspan="2">PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)</td></tr>
<tr><td>H"(エッジ)</td><td>電話番号の最後に「##4」を追加する※5</td></tr>
</table>

※1：データ通信を行うには、データ通信モードを「Async」に設定する必要があります。Packet通信モードを利用する場合は、データ通信モードを「Packet」に変更してください。データ通信モードの切り替えについては、cdmaOneの取り扱い説明書をご覧ください。

※2：DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合、この設定は必要ありません。

※3：ドッチーモでPIAFS通信を行う場合は、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切りかえる必要があります。

※4：NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSをお使いの場合は、この設定は必要ありません。

※5：一部の地域では64Kbpsでのデータ通信ができないことがありますが、32Kbpsで接続されます。また、次のような場合にも、64Kbpsでなく、32Kbpsで接続されることがあります。

- **電話番号の最後に「##4」を追加しなかった場合**
- **回線が混雑している場合**

LAN(ローカルエリアネットワーク)

LANへの接続

本機では、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。VA16F/DG、VA16F/DF、VA13F/DF、VA13F/DXは、1000BASE-Tのネットワークシステムに接続することもできます。

メモ
1000BASE-T、または100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境にも接続できます。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のハブやリンクケーブルを変更するだけで、高速化がはかれます。本機は、どちらの環境にも接続することができます。

◎ LANの設置

はじめてネットワークシステムを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、本機に接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

◎ 接続方法

既存のネットワークに、端末として本機を接続する場合について説明します。本機をネットワークへ接続するには、リンクケーブルが必要です。本機に内蔵されているLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX(100Mbps)で使用する場合は、必ずカテゴリ5のリンクケーブルを使用してください。10BASE-T(10Mbps)で使用する場合は、カテゴリ3または5のリンクケーブルを使用してください。また、VA16F/DG、VA16F/DF、VA13F/DF、VA13F/DXでは、1000Mbpsで動作する1000BAST-T基準を満たしています。1000BASE-Tで使用する場合は、必ずエンハンスドカテゴリ5以上のリンクケーブルを使用してください。

チェック!!

本機を稼働中のネットワークに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示にしたがって、ネットワークの設定とリンクケーブルの接続を行ってください。

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **リンクケーブルの一端を、本機のLAN用モジュラーコネクタ( )に奥までしっかり差し込む**

参照 LAN用モジュラーコネクタについて→「各部の名称」(p.16)

3 **リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク(ハブやルータなど)に接続する**

ネットワーク側の接続や設定については、接続するネットワーク側の機器のマニュアルをご覧ください。

運用上の注意

LANに接続して本機を使用するときは、次の点に注意してください。

・システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れたときは、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、Windows を再起動してください。

・LAN回線を接続してネットワーク通信をする場合は、本機にACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。

・スタンバイ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ファイルコピー等の通信動作が終了してからスタンバイ状態または休止状態にしてください。
また、使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、あらかじめお使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態または休止状態を使用してください。

・ネットワークでの通信中にはスタンバイ状態または休止状態にしないでください。

・1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

◎ ユニバーサル管理アドレスについて

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE(米国電気電子技術者協会)で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。
次のコマンドを入力することで、内蔵LANまたはワイヤレスLANのユニバーサル管理アドレスを確認することができます。
コマンド プロンプトで次のコマンドを入力し、【Enter】を押してください。

●Windows XP／Windows 2000の場合

```
net config workstation
```

(アダプタがアクティブな場合、「アクティブなネットワーク(ワークステーション)」という項目の(　)内に表示されます。)

```
ipconfig/all
```

(「physical address」として表示されます。)

●Windows Meの場合

「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリックし、次のコマンドを入力して「OK」ボタンをクリックしてください。

```
winipcfg.exe
```

(ただし、TCP/IPプロトコルが必要です。使用しているアダプタを表示させると、アダプタアドレスが表示されます。)

本機の運用管理

本機は、システム管理者が効率よく本機をマネジメントするための運用管理、セキュリティ、資源管理および遠隔操作や保守を行うための機能があります。
システム管理者が効率よくパソコンをマネジメントするために、次のような手段や機能を利用することが効率的であるといわれています。

・一般のユーザが、Windowsのシステムに影響のあるファイルを変更／削除したり、アプリケーションをインストールできないようにする
・機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウイルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブを使用できないようにする(ロックする)

・アプリケーションのバージョンアップのために、必要なパソコンのハードウェア構成情報(メモリ容量、ハードディスクの空き容量など)やソフトウェア構成情報を管理する
・ハードウェアに異常が発生したことを一般ユーザやシステム管理者に通知する
・システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源やシステムを遠隔操作できる

このような手段や機能を利用するために、次のようなマネジメント(運用管理)機能を備えています。
・クライアントモニタリング
・ネットワークブート
・リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)

クライアントモニタリング

「LANDesk(R) Client Manager 6 (with NEC Extensions)」により、離れたところにあるマシンから本機の状態を知ることができます。

参照 **LANDesk(R)Client Manager 6(with NEC Extensions)について→『活用ガイド　ソフトウェア編』の「アプリケーションの概要と削除/追加」**

ネットワークブート

管理者パソコンと接続し、次の操作を行うことができます。
・OSインストール
・BIOSフラッシュ(BIOS ROMの書き換え)
・BIOS設定変更

ネットワークブートを使用する場合は、BIOSセットアップユーティリティで設定を行ってください。

1 本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。

参照 **BIOSセットアップユーティリティについて→「PART3　システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」(p.178)**

2 「起動(Boot)」メニューの「Networkブート(Network Boot)」を「使用する(Enabled)」に設定する

チェック!!

ネットワークブートを使用するには、別途PXEに準拠した運用管理ソフトが必要です。

メモ

上記の作業を行う際に、ネットワークからの起動が必要になった場合は、本機起動時に「NEC」のロゴ画面で【F12】を数回押すことでネットワークブートが可能になります。

チェック!!

【F12】を押しても、ネットワークブートができないことがあります。この場合は、【F12】を押す間隔を変えてください。

リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能は次のとおりです。

・電源の切れている状態から電源を入れる(パワーオン)

・スタンバイ状態(サスペンド)や休止状態(ハイバネーション)からの復帰

本体およびLANボードがリモートパワーオンに対応しているパソコンで、リモートパワーオン機能を使うように設定している場合は、本体の電源が切れているときも、LANボードの一部は通電されています。
管理者パソコンはLANDesk(R)Client Manager 6(with NEC Extensions)などからのリモートパワーオンのコマンド指示により、パワーオンを指示する特殊なパケットを離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケットを離れたところにあるパソコン(本機)の専用コントローラが受信すると、専用コントローラはパワーオン動作を開始します。これにより離れたところにある管理者パソコンから、LAN接続された本機の電源を入れることができます。リモートパワーオン機能を利用するためには、次のソフトウェア、設定、または「NEC 8番街」からモジュールのダウンロードが必要になります。

■ 管理者パソコン:

別売の「DMITOOL Ver8.2(pcAnywhere(TM) 9.2 EX コンプリート版付)」など

■ **本機:**

BIOSの設定(リモート電源制御)

チェック!!

「DMITOOL Ver8.2(pcAnywhere(TM)9.2 EX コンプリート版付)」を使用する場合、次のモジュールが必要になります。
次のアドレスから「サポート情報」→「ダウンロード(ビジネスPC)」→「カテゴリ検索」の順にクリックし、「カテゴリ」に「運用管理関連」を指定して、ダウンロードしてください。
http://nec8.com/

「DMITOOL Ver8.x(コンプリート版付)[Mate,VersaPro管理]用アップデートモジュール(2002秋〜)」

電源が切れている状態や、スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)からリモートパワーオン機能を利用するためには、次の設定を行ってください。

チェック!!

- **Windows Meの場合、リモートパワーオンには、従来からサポートされているMagicPacket検出に加えて、電源回復フレーム検出(例えば、ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどの検出)が追加されています。ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどは、コンピュータをネットワークに接続して使用していると、他のコンピュータから不定期に送られてくるため、本機をスタンバイ状態または休止状態にしておくと、これらが検出されたときに、不定期にスタンバイ状態または休止状態から復帰することがあります。**
- **リモートパワーオン機能の設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合にくらべて、本機のバッテリの消費量が大きくなります。バッテリ駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、リモートパワーオン機能の設定は行わずに購入時の設定で使用してください。**
- **リモートパワーオン機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続した状態で本機を休止状態または電源が切れている状態にしてください。**

◎ 電源の切れている状態からリモートパワーオン機能を利用するための設定

1 本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。

参照 BIOSセットアップユーティリティについて→「PART3　システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」(p.178)

2 「詳細(Advanced)」メニューの「リモート電源制御(Remote Power On)」を「使用する(Enabled)」に設定する

◎ スタンバイ状態または休止状態からリモートパワーオン機能を利用するための設定

チェック!!

- 前回のシステム終了が正常に行われなかった場合、リモートパワーオン機能を使用して電源を入れることはできません。一度電源スイッチを押して本機を起動し、もう一度正しい方法で電源を切ってください。
- Windows XPまたはWindows 2000をお使いで、以下の設定を行う場合は、コンピュータの管理者権限(Administrator権限)を持つユーザーアカウントで本機にログオンしてください。

1 「デバイス マネージャ」を開き、「ネットワークアダプタ」の左のをクリックする

2 表示されたLANアダプタをダブルクリックする

3 「電源の管理」タブをクリックする

4 以下の設定を行う

•Windows XPの場合

- 「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」が☑になっていることを確認します。
- 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」の☐をクリックして☑にします。

-「管理ステーションでのみ、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」の☐をクリックして☑にします。

• **Windows 2000の場合**

-「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」の☐をクリックして☑にします。

-「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」が☑になっていることを確認します。

VA16F/DG、VA16F/DF、VA13F/DF、VA13F/DXで1000BASE-Tをお使いの場合は、以下の設定を行ってください。

-「詳細設定」タブをクリックし、「wake on設定」を「OSが制御する」から「Magic Packet」にします。

• **Windows Meの場合**

-「節電のためにコンピュータの電源を自動的に切る」の☐をクリックして☑にします。

-「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」の☐をクリックして☑にします。

ワイヤレスLAN(無線LAN)機能

ワイヤレスLAN(無線LAN)モデルでは、ワイヤレス(無線)LANによって、離れているコンピュータ同士で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信することができます。ここでは、ワイヤレスLAN(無線LAN)への接続を簡単に説明します。

ワイヤレスLAN(無線LAN)使用上の注意

- 通信速度・通信距離は、ワイヤレスLAN対応機器や電波環境・障害物・設置環境などの周囲条件によって異なります。
- 電波の性質上、通信距離が離れるにしたがって通信速度が低下する傾向があります。より快適にお使いいただくために、ワイヤレスLAN対応機器同士は近い距離で使用することをおすすめします。
- 5GHzまたは2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用したネットワークへの接続には、別売の5GHzまたは2.4GHz無線LANアクセスポイントなどが必要です。
- 医療機関側が本製品の使用を禁止した区域では、本製品の電源を切るかワイヤレスLAN機能をオフにしてください。また、医療機関側が本製品の使用を認めた区域でも、近くで医療機器が使用されている場合には、本製品の電源を切るかワイヤレス通信機能をオフにしてください。

ワイヤレスLAN通信での危険性

ワイヤレスLANはケーブルを使用するLANと違い、電波の届く範囲であればどこからでも、第三者からのデータの盗聴(傍受)または「なりすまし」によるネットワークへの不正アクセスを受ける危険性を持っており、重要なデータの漏洩につながる可能性があります。こういったワイヤレスLANの使用上の危険を回避するために、以下のセキュリティ機能を組み合わせて使用することをお勧めします。

チェック!!

- **以下の機能を利用するには、機能に対応したアクセスポイントなどが必要です。**
- **これらの設定は危険性をより低くするための手段であり、安全性を100%保証するものではありません。**

◎ 盗聴（傍受）を防ぐには

WEP機能を使用して暗号キーを設定すると、同じ暗号キーを使用している通信機器間のワイヤレス通信のデータを暗号化できます。
ただし、暗号キーを設定していても、暗号キー自体を第三者に知られたり、暗号解読技術によって暗号を解読されたりする可能性があるため、設定した暗号キーは定期的に変更することをお勧めします。

◎ 不正アクセスを防ぐには

- アクセスポイントと通信機器の両方に任意のネットワーク名（SSID）を設定することで、同じSSIDを設定していない通信機器からの接続を回避できます。ただし、SSIDを自動的に検出する機能を持った機器を使用されると、SSIDを知られてしまいます。これを回避するには、アクセスポイント側でSSIDを通知しないように設定する必要があります。
- 接続するパソコンなどのMACアドレス（ネットワークカードが持っている固有の番号）をアクセスポイントに登録することで、登録した機器以外はアクセスポイントに接続できなくなります。

ワイヤレスLAN製品との接続

本製品と接続できる製品は、以下の通りです（2003年4月現在）。

■ワイヤレスLAN対応製品

本製品と接続できるワイヤレスLAN製品には、ワイヤレスLAN内蔵PC、レジデンシャルゲートウェイ、無線LANアクセスポイント、ワイヤレスLAN周辺機器などがあります。

接続できる製品について、NECの企業向けパソコン関連総合サイト「NEC8番街」をご覧ください。

http://nec8.com/
→「サポート情報」→「PC検索」→「商品の適合検索」

ワイヤレスLAN(無線LAN)の設定

●2.4GHzワイヤレスLAN(無線LAN)モデルの場合

「VersaPro/VersaPro R電子マニュアル」の「2.4GHzワイヤレスLAN(無線LAN)について」をご覧になり、設定を行ってください。

●デュアルバンドワイヤレスLAN(無線LAN)モデルの場合

「VersaPro/VersaPro R電子マニュアル」の「デュアルバンドワイヤレスLAN(無線LAN)について」をご覧になり、設定を行ってください。

セキュリティ機能

本機には、本機の不正使用やデータなどの盗難を予防するためのセキュリティ機能が搭載されています。

本機のセキュリティ機能

本機のセキュリティ機能には、次のようなものがあります。

- **パスワード**
- **ハードディスクのパスワード(オールインワンノート(Dシリーズのみ))**
- **指紋認証機能(内蔵センサモデルのみ)**
- **暗証番号ボタン(暗証番号機能モデルのみ)**

チェック!!

セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理、取り扱いには十分注意してください。

パスワード

パスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。本機のパスワードはBIOSセットアップユーティリティで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

・BIOSセットアップユーティリティの起動と設定変更
・本機の起動

チェック!!

ご購入元、NEC フィールディングなどに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。

◎ パスワードの種類

本機で設定可能なパスワードには、「スーパバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

◆ スーパバイザパスワード

スーパバイザパスワードは、おもに本機の管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、本機の使用者を制限するために設定します。
パスワードを設定しておくと、BIOSセットアップユーティリティ起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップユーティリティを起動できなくなります。また、スーパバイザパスワード入力のタイミングを、本機の起動時に設定することもできます。

◆ ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに本機の使用者のためのパスワードで、スーパバイザパスワードで本機を管理している管理者が、本機の使用者の使用できる機能を制限するためのものです。

◎ パスワードを使った管理

たとえば、管理者がスーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知するようにします。このように設定しておくと、通常の利用者はBIOSセットアップユーティリティで設定可能な項目が制限されます。

◎ パスワードを設定／変更する

スーパバイザパスワード、またはユーザパスワードの設定／変更は、BIOSセットアップユーティリティで行います。

1 本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。

参照 **BIOSセットアップユーティリティについて→「PART3　システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」(p.178)**

2 「セキュリティ(Security)」メニューを選択する

3 「スーパバイザパスワード設定(Set Superviser Password)」または「ユーザパスワード設定(Set User Password)」を選んで、【Enter】を押す

パスワード設定画面が表示されます。

チェック!!

スーパバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

4 パスワードを入力して【Enter】を押す

チェック!!

- **ニューメリックロックキーランプ（[1]）が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を8文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z（大文字／小文字の区別はありません）と半角数字の0～9だけです。**
- **何も入力しないで【Enter】を押すと、パスワードが解除されます。**

5 手順4で入力したパスワードをもう一度入力して【Enter】を押す

6 「セットアップ通知（Setup Notice）」の画面が表示されるので、いずれかのキーを押す

7 設定を保存して、BIOSセットアップユーティリティを終了する

チェック!!

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

◎ パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておくと、BIOSセットアップユーティリティ起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップユーティリティ起動時以外にも、本機の起動時に設定することもできます。

◆ 本機の起動時

本機の起動時にパスワードを入力するように設定するには、次の手順を行います。

1 本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。

参照 BIOSセットアップユーティリティについて→「PART3　システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」(p.178)

2 「セキュリティ(Security)」メニューの「起動時のパスワード(Password on boot)」を選択する

3 「使用する(Enabled)」を選択する

4 設定内容を保存して、BIOSセットアップユーティリティを終了する

◎ パスワードを入力する

◆ パスワードを設定しているときの電源の入れかた

BIOSセットアップユーティリティの「セキュリティ(Security)」メニューの「起動時のパスワード(Password on boot)」が「使用する(Enabled)」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 本機の電源を入れる

次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

パスワードを入力して下さい。　[_　　]

2 設定されているパスワードを入力して【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。

チェック!!

誤ったパスワードを入力すると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチを押して電源を切ったあと、もう一度手順1からやり直してください。

◎ パスワードを忘れてしまった場合は

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。

参照 **解除処置について→『活用ガイド　ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」の「電源を入れたとき」**

ハードディスクのパスワード(オールインワンノート(Dシリーズ)のみ)

◎ ハードディスクのパスワードとは

オールインワンノート(Dシリーズ)ではハードディスクにパスワードを設定することで、本機以外のパソコンでのハードディスクの不正使用を防止することができます。
パワーオンパスワードを併用することにより、ハードディスク内のデータへの不正アクセスを防ぐことが可能です。
ハードディスクのパスワードは、BIOSセットアップユーティリティで設定します。

チェック!!

- **ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、NECフィールディングの各支店、営業所などに持ち込んでもロックは解除できません。お客様ご自身で作成されたデータは二度と使用できなくなり、またハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないよう、十分注意してください。**
- **ハードディスクのパスワードは、他のセキュリティ機能と併用してください。ハードディスクのパスワードだけでは、十分に本機の不正使用を防止することができません。**

◎ パスワードの種類

本機で設定可能なハードディスクのパスワードには、「マスタパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

◆ マスタパスワード

マスタパスワードはロック解除専用のパスワードです。ハードディスクのパスワードを最初に設定するときに入力します。

◆ユーザパスワード

ユーザパスワードは、ハードディスク認証を行うために設定します。ユーザパスワードを設定することで、本機以外でのハードディスクの不正使用を防止できます。

チェック!!

マスタパスワードを設定しないとユーザパスワードを設定することはできません。

◎ パスワードを設定／変更する

マスタパスワードの設定、ユーザパスワードの設定／変更は、BIOSセットアップユーティリティで行います。

チェック!!

マスタパスワードは、忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまうと、パスワードの変更およびハードディスクのロックの解除ができなくなります。

1 本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。

参照 **BIOSセットアップユーティリティについて→「PART3　システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」(p.178)**

2 「セキュリティ(Security)」メニューを選ぶ

3 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで、【Enter】を押す

- **はじめて設定する場合**
  マスタパスワード画面が表示されるので手順5へ進んでください。

- **マスタパスワードがすでに設定済みで、ユーザパスワードが設定されていない場合**
  新しいユーザパスワードの入力画面が表示されるので手順7へ進んでください。

- **上記以外の場合**
  パスワード入力画面が表示されるので手順4へ進んでください。

4 マスタパスワードまたはユーザパスワードを入力し【Enter】を押す

- **ユーザパスワードを入力した場合**
  新しいユーザパスワード入力画面が表示されるので手順7へ進んでください。

- **マスタパスワードを入力した場合**
  新しいマスタパスワード入力画面が表示されるので手順5へ進んでください。

5 新しいマスタパスワードを入力し【Enter】を押す

チェック!!

ニューメリックロックキーランプ(1)が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を8文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z(大文字/小文字の区別はありません)と半角数字の0～9だけです。

6 手順5で入力したマスタパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す

ユーザパスワード入力画面が表示されます。

7 新しいユーザパスワードを入力し【Enter】を押す

8 手順7で入力したユーザパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す

9 「セットアップ通知(Setup Notice)」の画面が表示されるので、いずれかのキーを押す

10 設定を保存して、BIOSセットアップユーティリティを終了する

パスワードを設定しただけではセキュリティは有効になりません。セキュリティを有効にするためには、次の「ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にする」をご覧ください。

チェック!!

設定したユーザパスワードは忘れないようにしてください。ユーザパスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードを忘れないように控えておくことをおすすめします。

◎ ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にする

マスタパスワードとユーザパスワードを設定してもハードディスクのセキュリティは有効になりません。ハードディスクのセキュリティを有効にするには、以下のとおり設定してください。

◆ 内蔵ハードディスクのセキュリティを有効にするには

「内蔵HDDパスワードの設定(Primary HDD Password)」を「使用する(Enabled)」に設定する

◆ セカンドハードディスクのセキュリティを有効にするには

「2nd HDDパスワードの設定(VersaBay HDD Password)」を「使用する(Enabled)」に設定する

チェック!!

- **ハードディスクのセキュリティを有効にしても、設定したマスタパスワードやユーザパスワードを本機の起動時に入力する必要はありません。**
- **本機でセキュリティを有効にしたハードディスクは、他機では使用できません。他機で使用する場合は、上記で「使用する(Enabled)」にした項目を「使用しない(Disabled)」に設定してください。**

◎ ハードディスクのロックを無効にする

本機の起動時にハードディスクがロックされたという内容のメッセージが表示された場合は、次の手順でハードディスクのロックを無効にしてください。

1 本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。

参照 **BIOSセットアップユーティリティについて→「PART3　システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」(p.178)**

2 「セキュリティ(Security)」メニューを選ぶ

3 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで、【Enter】を押す

ロック解除の画面が表示されます。

4 マスタパスワードを入力する

5 【Enter】を押す

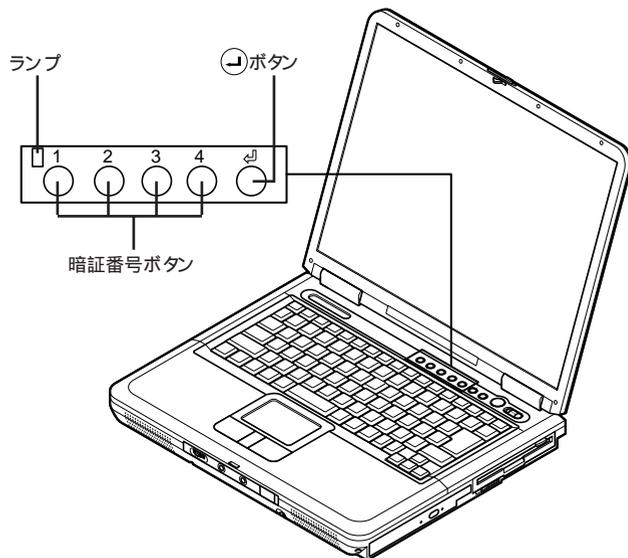
以上でハードディスクのロックが無効になります。手順5の後にパスワード設定画面が表示されます。パスワードの設定／変更の手順にしたがって設定を行うか、【Esc】を押してキャンセルしてください。

指紋認証機能

ここでは、内蔵指紋センサモデルの指紋認証機能について説明しています。指紋認証機能とはパスワードの入力のかわりに、内蔵指紋センサを使って指紋による認証を行うシステムです。
本機では付属のユーティリティで、指紋認証によるWindowsへのログオン、スクリーンセーバーのロック解除、各種アプリケーションのパスワード代替などを設定することができます。

参照 **指紋認証機能の詳細について→『内蔵指紋センサ　ユーザーズ・ガイド』**

暗証番号ボタン

この機能は、暗証番号機能モデルのみの機能です。
暗証番号ボタンとは、本体の暗証番号ボタンを押すことによってパスワード認証を行うもので、セキュリティを強化する機能の一つです。暗証番号ボタンを使ってパスワードを設定しておくと、正しいパスワードを入力しないかぎり本機を起動できなくなります。800,000通り以上のパスワードが考えられますので、より強力なセキュリティを実現できます。

◎ パスワードを設定する

暗証番号ボタンのパスワード設定や変更は、暗証番号設定ユーティリティで行います。

> **チェック!!**
> **暗証番号ボタンの機能や暗証番号設定ユーティリティの使い方については、「暗証番号設定ユーティリティ インストールディスク」をご覧ください。**

◆ セキュリティモード

暗証番号ボタンのパスワードを設定したあとは、電源スイッチを押すと、本機がセキュリティモードに移行してランプが点灯するようになります。セキュリティモードになると、登録したパスワードを入力しないかぎり本機を起動することはできなくなります。

チェック!!

暗証番号ボタンのパスワードを設定してあると、電源スイッチを使ってスタンバイ状態から復帰する場合にもセキュリティモードになりますので、設定したパスワードを入力してセキュリティモードを解除してください。

◎ パスワードを忘れてしまった場合は

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。

参照 **解除処置について→『活用ガイド　ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」の「電源を入れたとき」**

◎ セキュリティモードを解除する

1 電源スイッチを押す

①ボタンの左上のランプが点灯します。

2 登録したパスワードを暗証番号ボタンを使って押し、最後にキーボード右上にある⏎ボタンを押す

正しいパスワードが入力されると①ボタンの左上のランプが消灯し、Windowsが起動します。

チェック!!

- **⏎ボタンは、キーボード右上にある暗証番号ボタンの隣にあるボタンのことです。キーボードの【Enter】とは異なります。**
- **間違ったパスワードを入力するとビープ音が鳴ります。間違ったパスワードを3回入力すると、ビープ音が鳴り続けます。**
- **パスワードは①ボタンの左上のランプが点灯してから1分以内に入力してください。1分を過ぎるとパスワードを受け付けなくなります。パスワードを受け付けなくなったら、もう一度電源スイッチを押してください。**

その他のセキュリティ機能を使う

◎ ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止

ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止に設定できます。起動セクタ部分が削除されたり、書き換えられたりすると、正常に本機を起動することができなくなってしまいます。書き込み禁止に設定すると、起動セクタをコンピュータウイルスなどから保護できます。
ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止の設定は、BIOSセットアップユーティリティで行います。
なんらかのプログラムが起動セクタへ書き込もうとした場合

```
BootSector Write!!
VIRUS:Continue(Y/N)?
```

と表示されますので、書き込みを防止するために【N】を入力してください。

参照 **ハードディスクの起動セクタを保護する→「PART3 システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」の「設定項目一覧」(p.180)**

◎ 盗難防止用ロック

本機の盗難防止用ロックに別売のセキュリティケーブル(PK-SC/CA02)を取り付け、盗難を防止することができます。

参照 **盗難防止用ロックについて→「各部の名称」(p.16)**

チェック!!

- **当社製セキュリティケーブル(PK-SC/CA01)は本機では使用できませんので注意してください。**
- **セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。**

PART

2

周辺機器の接続と設定

別売の周辺機器の取り付け/取り外し方法や注意事項などを説明しています。

この章の読み方

次ページの「接続できる周辺機器」、「周辺機器の利用」(p.138)を読んだ後に、目的にあわせて次に該当するページを読んでください。

この章の内容

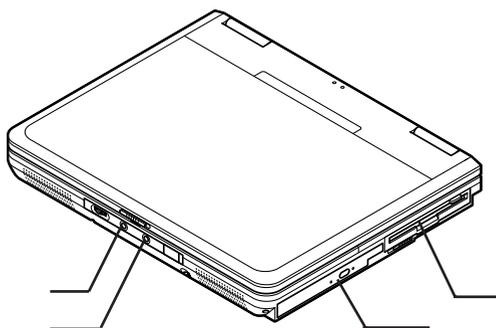
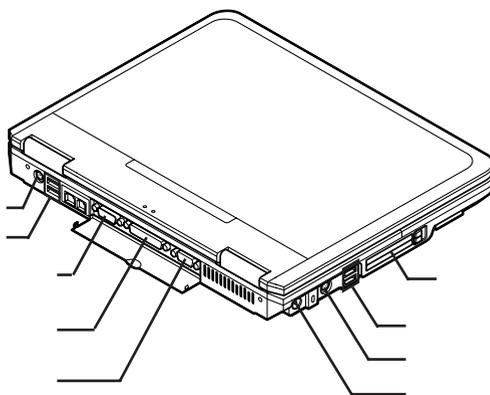
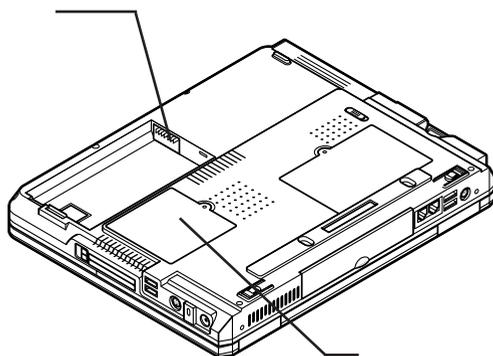
接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器を接続できます。

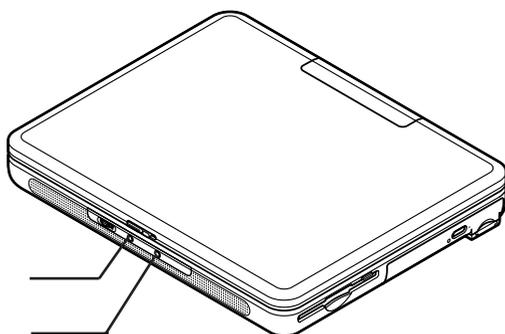
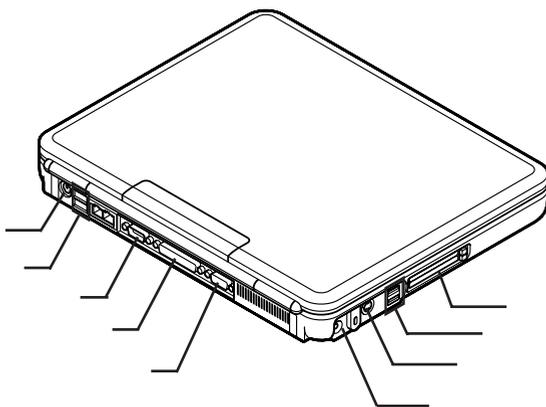
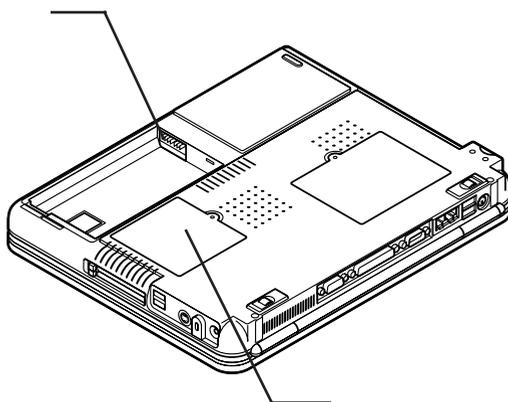
本体に接続できる周辺機器一覧

本機のそれぞれのコネクタや端子に接続できる周辺機器について説明します。

◎ オールインワンノート（Dシリーズ）の場合

◆ 本体前面／右側面

◆ 本体背面／左側面

◆ 本体底面

◎ オールインワンノート（Rシリーズ）の場合

◆ 本体前面／右側面

◆ 本体背面／左側面

◆ 本体底面

名称	接続できる周辺機器
①USBコネクタ	USBマウス、USBキーボード、USBテンキーボード、USBカメラ、携帯電話、PHS端末など
②マウス/テンキーボード用コネクタ	マウス、テンキーボードなど
③外部マイクロフォン端子	マイクロフォンなど
④ヘッドフォン/オーディオ出力端子	ヘッドフォン、オーディオ入力のあるAV機器
⑤PCカードスロット	PCカード、SCSIインターフェイスカードなど(SCSIインターフェイスカードを使うと、MOドライブやハードディスクを接続できます)
⑥外部ディスプレイコネクタ	外部ディスプレイなど
⑦DCコネクタ	ACアダプタ
⑧パラレルコネクタ	プリンタなど
⑨シリアルコネクタ	ターミナルアダプタなど
⑩メモリスロット	増設RAMボード
⑪バッテリスロット	バッテリパック
⑫VersaBay IVb	セカンドハードディスクなど
⑬S映像出力端子	テレビなど
⑭MultiBay-b	フロッピーディスクドライブ、セカンドバッテリパックなど

周辺機器の利用

プリンタや外部ディスプレイなど、本機に接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。本機には、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています。

周辺機器利用上の注意

◎ 周辺機器の取り付け／取り外し時の注意

・周辺機器の取り付け／取り外しをする際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。
・本機がスタンバイ状態（サスペンド）または休止状態（ハイバネーション）の場合は、周辺機器の取り付けや取り外しは行わないでください。このような場合は、いったん復帰させてデータを保存し、電源を切ってから取り付けや取り外しを行ってください。
・別売の周辺機器を取り付けるときには、その周辺機器が本機に対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよくお読みになり使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元／発売元などに上記の事項を確認してください。
・周辺機器の取り付けや取り外しは、取扱説明書にしたがって正しく行ってください。
・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認のうえ用意してください。
・周辺機器を使用する際は、使用する周辺機器の取扱説明書をご覧ください。

◎ リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。このような場合は「デバイス マネージャ」でリソースが競合しないように設定を変更してください。

参照 **リソースの競合について→『活用ガイド　ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」の「周辺機器」**

◎ 周辺機器を使えるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバを本機にセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、本機と周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、ドライバと呼ぶこともあります。

チェック!!

デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、本機の動作が不正になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルにしたがって、再度デバイスドライバを正しく組み込んでください。

デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。

- **「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合**

  機器を本機に接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、機器が使用可能な状態になります。

メモ

本機には、プラグ&プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

- **「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合**

  機器を本機に接続したあと、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、本機やドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

周辺機器の取り外しと再接続

周辺機器の中でも、USB対応機器、PCカード、コンパクトフラッシュカードなどは、本機の電源を入れたまま取り付け、取り外しができます。
ただし、画面右下の通知領域(タスクトレイ)にまたはが表示されている周辺機器は、正しい手順で取り外しを行わないと、本機が正常に動作しなくなることがあります。取り外しを行う場合は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

1 画面右下の通知領域(タスクトレイ)にあるまたはをダブルクリックする

「ハードウェアの安全な取り外し」または「ハードウェアの取り外し」ウィンドウが表示されます。
またはが表示されていない場合は、以降の手順は必要ありません。

2 取り外したい周辺機器名、PCカード名またはコンパクトフラッシュカード名をクリックして、「停止」ボタンをクリックする

周辺機器名、PCカード名やコンパクトフラッシュカード名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。

3 「ハードウェア デバイスの停止」ウィンドウで取り外したい周辺機器名、PCカード名やコンパクトフラッシュカード名をクリックして「OK」ボタンをクリックする

画面右下の通知領域(タスクトレイ)に安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
Windows XPをお使いの場合は手順5へ進んでください。
Windows 2000／Windows Meの場合は手順4へ進んでください。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの安全な取り外し」または「ハードウェアの取り外し」ウィンドウを閉じる

これで周辺機器、PCカードまたはコンパクトフラッシュカード名を取り外すことができます。

同じ周辺機器を再接続する場合は、ドライバなどを再インストールする必要はありません。ただし、メッセージが表示されたり、画面が少しの間止まったように見えることがあります。メッセージが表示された場合はメッセージにしたがってください。画面が止まったように見える場合も機器の故障ではありません。しばらく待てば使用できます。

メモリ

オプションの増設RAMボードを取り付けることで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

メモリ容量について

本機に使用できる増設RAMボードの種類と型名は次のとおりです。

メモリ容量	型番
128Mバイト	PK-UG-M035
256Mバイト	PK-UG-M036
512Mバイト	PK-UG-M037

メモリの取り付け方と取り外し方

チェック!!

- 増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- 増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

◎ 増設RAMボードの取り付け方

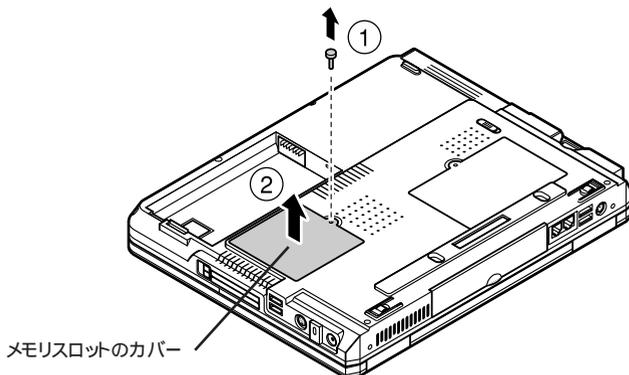
1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す

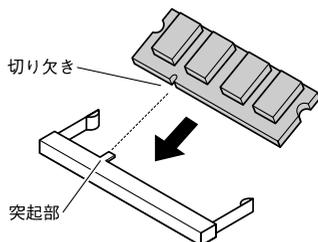
4 バッテリパックを本機から取り外す

参照 バッテリパックの取り外しについて→「PART1 本体各部の構成」の「バッテリ」の「バッテリパックの交換」の「バッテリパックの交換のしかた」(p.34)

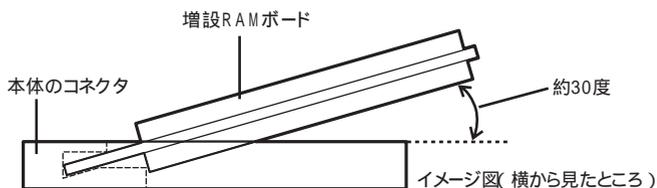
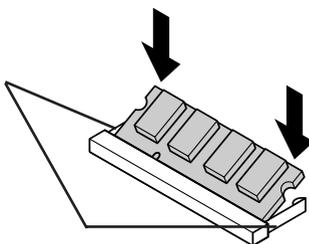
5 図のネジをプラスドライバで取り外し、メモリスロットのカバーを取り外す

イラストはオールインワンノート(Dシリーズ)のものです。

6 増設RAMボードの切り欠き部分を本機のコネクタの突起部に合わせ、本機コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する

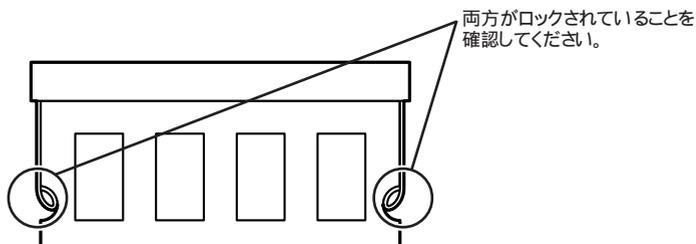
チェック!!

- 増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。
- 増設RAMボードを手に持つ際は、増設RAMボードの両端を持つようにしてください。

実物はイラストと多少異なる場合があります。

✓チェック!!

挿入するときに、固いことがありますが、奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

7 カチッと音がする位置まで増設RAMボードを本機のコネクタに強く倒し込む

実物はイラストと多少異なる場合があります。

✓チェック!!

増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認してください。

8 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける

9 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

メモ

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ(RAM)の確認」にしたがって、増設が正しく行われたかどうか確認してください。

◎ 増設したメモリ(RAM)の確認

増設が正常に行われ、メモリが本機に認識されているかどうかを確認します。

1 次の操作を行う

- **Windows XPの場合**
  「スタート」ボタン→「コントロール　パネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「システム」をクリックする
- **Windows 2000／Windows Meの場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール　パネル」をクリックし、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「全般」タブで右下に表示されている内容を確認する

「＊＊＊KB　RAM」または「＊＊＊MB　RAM」と表示されています。＊＊＊KBまたは＊＊＊MBが総メモリ容量です。

メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。
・増設RAMボードが正しく取り付けられているか
・本機で使用できる増設RAMボードを取り付けているか

チェック!!

- **システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。**
- **メモリを増設したあとに休止状態の機能を使用する場合は、増設したメモリ容量分のハードディスクの空き容量が必要です。**
  『活用ガイド　ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」の「省電力機能」を参照し、ハードディスクの容量を確認してください。

◎ 増設RAMボードの取り外し方

1 「増設RAMボードの取り付け方」(p.141)の手順1〜5にしたがって、メモリスロットのカバーを取り外す

2 コネクタの両端部分を左右に押し広げる

増設RAMボードが図のように起き上がります。

実物はイラストと多少異なる場合があります。

- 増設RAMボードの基盤は薄いため、破損しないよう十分に注意してください。
- 増設RAMボード上の部品やハンダ付け面には、手を触れないよう注意してください。引き抜くときは、両端面をつかんで引き抜いてください。

3 そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く

4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける

5 バッテリパックを取り付ける

マウス

マウスを使用する

本機では、添付の光センサーUSBマウス(光センサーUSBマウス添付のモデルの場合)やUSBマウス(USBマウス添付のモデルの場合)、PS/2マウス(PS/2マウス添付のモデルの場合)が使用できます。また、マウスが添付されていないモデルをお使いの場合でも、別売のUSBマウス、PS/2マウス、シリアルマウスなどを使用することができます。
マウスを使用する場合はマウスドライバの設定が必要です。また、マウスを使用するための設定を行ったあと、NXパッドを使用する場合も設定が必要です。

マウスの設定方法

チェック!!

- **Windows XPモデル/Windows 2000モデルの場合は、コンピュータの管理者権限(Administrator権限)を持つユーザーアカウントでログオンしてください。**
- **マウスドライバの変更を行うとき、一時的にマウスやNXパッドなどのポインティングデバイスが使用できなくなる場合があります。その場合は次のようにキーボードを使って本機を再起動してください。**

■キーボードでの再起動

1. **Windowsキー( )を押す**
2. **カーソル移動キー(【↑】【↓】【→】【←】)で「終了オプション」ボタン(または「Windowsの終了」、「シャットダウン」)を選択し、【Enter】を押す**
3. **カーソル移動キーで「再起動」ボタン(または「再起動」、「再起動する」)を選択し、【Enter】を押す**

◎ USBマウスを使用する

本機でUSBマウスを使用する場合は、次の手順で設定を行ってください。

チェック!!

- **本機は、購入時にはNXパッドドライバはインストールされていません。NXパッドドライバのインストールについては、「PART1　本体の構成各部」の「NXパッド」の「NXパッドドライバをインストールする」(p.58)をご覧ください。**
- **マウスドライバの変更を行うときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。**

●Windows XPの場合

1 「デバイス マネージャ」を開き、「マウスとそのほかのポインティング デバイス」の左の+をクリックする

2 「NX PAD」をダブルクリックする

「NX PADのプロパティ」が表示されます。

3 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「ハードウェアの更新ウィザード」が表示されます。

4 「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

5 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

6 「モデル」欄から「標準 PS/2 ポート マウス」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

チェック!!

- 「モデル」欄に「標準 PS/2 ポート マウス」が表示されていない場合は、「互換性のあるハードウェアを表示」の☑をクリックして☐にし、「製造元」欄から「(標準マウス)」を選択し、「モデル」欄から「標準 PS/2 ポート マウス」を選択してください。
- 「モデル」欄に「標準 PS/2 ポート マウス」が複数表示されている場合は、一番上の「標準 PS/2 ポート マウス」を選択してください。
- Windows XP との互換性を警告するようなメッセージが表示された場合は、「続行」ボタンをクリックしてください。
- 「デバイスのインストールの確認」ウィンドウが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

必要なファイルがコピーされます。
「ハードウェアの更新ウィザードの完了」と表示されます。

7 「完了」ボタンをクリックする

8 「閉じる」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」が表示されます。

9 「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。

これで設定は完了です。再起動後、USBマウスを接続してください。

チェック!!

USBマウスを使用する際、NXパッドでの操作を無効にすることができます。詳しくは「PART3 システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」の「設定項目一覧」(p.180)をご覧ください。

参照 マウスドライバのインストール方法→各機器のマニュアル

●Windows 2000／Windows Meの場合

1 「デバイス マネージャ」を開き、次の項目の左の[+]をクリックする

- **Windows 2000の場合**
  「マウスとそのほかのポインティング デバイス」
- **Windows Meの場合**
  「マウス」

2 「NX PAD」をダブルクリックする

「NX PAD プロパティ」または「NX PADのプロパティ」が表示されます。

3 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「デバイス ドライバの更新ウィザード」または「デバイス ドライバのアップグレード ウィザード」が表示されます。

4 次の操作を行う

- **Windows 2000の場合**
  「次へ」ボタンをクリックする
- **Windows Meの場合**
  「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

5 次の項目の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

- **Windows 2000の場合**
  「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」
- **Windows Meの場合**
  「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」

6 「モデル」欄から「標準 PS/2 ポート マウス」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

チェック!!

- **「モデル」欄に「標準 PS/2 ポート マウス」が表示されていない場合は、「すべてのハードウェアを表示」または「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」の○をクリックして◉にし、「製造元」欄から「(標準マウス)」を選択し、「モデル」欄から「標準 PS/2 ポート マウス」を選択してください。**
- **「ドライバ更新の警告」または「ドライバの更新警告」が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。**

7 「次へ」ボタンをクリックする

必要なファイルがコピーされます。
「デバイスのインストールの確認」が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

8 次の操作を行う

- **Windows 2000の場合**
  「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックし、手順9に進んでください
- **Windows Meの場合**
  「ハードウェア デバイス用に選択したドライバがインストールました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックし、手順11に進んでください

チェック!!

ポインタが動かなくなった場合は、【Enter】を押してください。

9 「閉じる」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」が表示されます。

10 「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。
Windows 2000をお使いの場合は、これで設定は完了です。
再起動後、USBマウスを接続してください。

チェック!!

ポインタが動かなくなった場合は、【Enter】を押してください。

11 再起動のメッセージが表示された場合は、「いいえ」ボタンをクリックする

チェック!!

ここで「コントロール パネル」が前面に表示された場合は、【Alt】+【Tab】を押して「標準 PS/2ポート マウスのプロパティ」を選択してください。

12 「標準 PS/2 ポート マウスのプロパティ」の「閉じる」ボタンをクリックする

13 「システムのプロパティ」の「閉じる」ボタンをクリックする

14 Windowsを再起動する

「システム設定の変更」が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックします。

Windowsが再起動します。

再起動後、USBマウスを接続してください。

チェック!!

- **Windows Meモデルの場合、「マウスのプロパティ」で「ポインタの速度」の設定を変更すると、USBマウスを動かしても、マウスポインタが正常に動作しない場合があります。この場合は、次の手順でポインタの速度を標準設定に戻してください。**

  1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「マウス」アイコンをダブルクリックする

  「マウスのプロパティ」が表示されます。

  2 「ポインタ オプション」タブをクリックする

  3 「ポインタの速度」を左から5番目の設定にする

- **USBマウスを使用する際、NXパッドでの操作を無効にすることができます。詳しくは「PART3 システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」の「設定項目一覧」(p.180)をご覧ください。**

参照 マウスドライバのインストール方法→各機器のマニュアル

◎ シリアルマウスを使用する

本機でシリアルマウスを使用する場合は、次の手順で設定を行ってください。

チェック!!

接続するときは、必ず本機の電源を切ってから接続してください。

●Windows XPの場合

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックする

本機の電源が切れます。

2 シリアルマウスを本機のシリアルコネクタに接続する

参照 シリアルコネクタについて→「PART1 本体の構成各部」の「各部の名称」(p.16)

シリアルマウスに専用のドライバが添付されている場合は、マウスを接続したあと、マウスのマニュアルにしたがってドライバの変更を行ってください。

チェック!!

シリアルマウスを使用する際、NXパッドでの操作を無効にすることができます。詳しくは「PART3 システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」の「設定項目一覧」(p.180)をご覧ください。

●Windows 2000の場合

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックする

本機の電源が切れます。

2 シリアルマウスを本機のシリアルコネクタに接続する

参照 シリアルコネクタについて→「PART1 本体の構成各部」の「各部の名称」(p.16)

3 **本機の電源をオンにし、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックし、「ハードウェアの追加と削除」アイコンをダブルクリックする**

「ハードウェアの追加と削除ウィザード」が表示されます。

4 **「次へ」ボタンをクリックする**

5 **「次へ」ボタンをクリックする**

「新しいハードウェアの検出」が表示されます。

チェック!!

ハードウェアの検出には数分かかる場合があります。

6 **検出されたシリアルマウスを選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

「ハードウェアの追加と削除ウィザードの完了」が表示されます。

7 **「完了」ボタンをクリックする**

チェック!!

- **シリアルマウスが動作しない場合は、Windowsを再起動してください。**
- **シリアルマウスを使用する際、NXパッドでの操作を無効にすることができます。詳しくは「PART3　システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」の「設定項目一覧」(p.180)をご覧ください。**

●Windows Meの場合

1 **「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックする**

本機の電源が切れます。

2 **シリアルマウスを本機のシリアルコネクタに接続する**

参照 **シリアルコネクタについて→「PART1 本体の構成各部」の「各部の名称」(p.16)**

3 **本機の電源をオンにし、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックする**

「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

4 **「次へ」ボタンをクリックする**

5 **「次へ」ボタンをクリックする**

6 **「デバイスは一覧にない」の◯をクリックして⦿にし、「次へ」ボタンをクリックする**

7 **「はい(通常はこちらを選択してください)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

8 **「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検出します。」とメッセージが表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする**

チェック!!

ハードウェアの検出には数分かかる場合があります。

9 **ハードウェアの検出が完了したら「詳細」ボタンをクリックし、「シリアルマウス」が認識されたことを確認する**

10 **「完了」ボタンをクリックする**

チェック!!

- **シリアルマウスが動作しない場合は、Windowsを再起動してください。**
- **シリアルマウスを使用する際、NXパッドでの操作を無効にすることができます。詳しくは「PART3　システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」の「設定項目一覧」(p.180)をご覧ください。**

◎ PS/2互換マウスを使用する

本機でPS/2互換マウスを使用する場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 本機の電源を切る

2 マウス／テンキーボード用コネクタ（⌨/🖱）にPS/2互換マウスを接続する

マウスに専用のドライバが添付されている場合は、マウスのマニュアルにしたがってドライバの変更を行ってください。

参照 マウス／テンキーボード用コネクタについて→「PART1 本体の構成各部」の「各部の名称」（p.16）

NXパッドを使用する設定に戻す

NXパッドを使用するには、NXパッドドライバをインストールしてください。

参照 NXパッドドライバのインストールについて→「PART1 本体の構成各部」の「NXパッド」の「NXパッドドライバをインストールする」（p.58）

他社製のマウスドライバを使用する場合の注意

他社製のマウスには、独自のマウスドライバが添付されているものがあります。他社製のマウスドライバのインストールまたはアンインストールは次の手順で行ってください。

チェック!!

マウスドライバを変更するときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

◎ 他社製のマウスドライバをインストールする

1 「USBマウスを使用する」（p.147）の手順を行い、マウスドライバを「標準 PS/2 ポート マウス」に設定する

2 他社製のマウスドライバをインストールする

参照 マウスドライバのインストール方法→マウスのマニュアル

◎ 他社製のマウスドライバをアンインストールする

1 他社製のマウスドライバをアンインストールする

参照 マウスドライバのアンインストール方法→マウスのマニュアル

2 「USBマウスを使用する」(p.147)の手順を行い、マウスドライバを「標準 PS/2ポート マウス」に設定する

3 「PART1　本体の構成各部」の「NXパッド」の「NXパッドドライバをインストールする」(p.58)の手順を行い、NXパッドを使用する設定に戻す

外部ディスプレイ

CRTディスプレイの接続

◎ CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

チェック!!

お使いになるCRTディスプレイによっては、下の表に記載されている走査周波数や解像度に対応していない場合があります。CRTディスプレイをご使用の際は、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

別売のCRT　ディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

表示解像度（ドット）	水平走査周波数（KHz）	垂直走査周波数（Hz）	表示色		
			256色※	65,536色	1,677万色
640×480※	31.5	60	○	○	○
	37.5	75	○	○	○
	43.3	85	○	○	○
800×600	37.9	60	○	○	○
	46.9	75	○	○	○
	53.7	85	○	○	○
1,024×768	48.4	60	○	○	○
	60.0	75	○	○	○
	68.7	85	○	○	○
1,280×1,024	64.0	60	○	○	○
	80.0	75	○	○	○
	91.1	85	○	○	○
1,600×1,200	75.0	60	○	○	○
	93.8	75	○	○	○

○：表示可能
※：Windows XPでは表示不可

◎ CRTディスプレイの接続

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **ディスプレイ用ケーブルを本機の外部CRT用コネクタ(▭)に差し込んで、ネジを回して固定する**

参照 外部CRT用コネクタの位置について→「PART1　本体の構成各部」の「各部の名称」(p.16)

3 **CRTディスプレイの電源ケーブルを、電源コネクタに差し込む**
詳しくはCRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

プロジェクタの接続

本機の外部ディスプレイ用コネクタ(▭)には、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。別売のプロジェクタの接続のしかたは、プロジェクタのマニュアルをご覧ください。また、使用する場合はプロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度などを確認してください。

テレビの接続

S映像入力端子を持つテレビを使う場合は、市販のSビデオケーブルを本機のS映像出力端子(Ⓢ)に接続し、テレビと接続します。

参照
・S映像出力端子の位置について→「PART1　本体の構成各部」の「各部の名称」(p.16)

・テレビで表示できる解像度と表示色について→「PART1　本体の構成各部」の「液晶ディスプレイ」の「表示できる解像度と表示色」(p.78)

表示するディスプレイを変更する

別売のCRTディスプレイなどを接続した場合、コントロール パネルまたはキーボードを使って画面の出力先を切り替えることができます。

チェック!!

動画再生のソフトウェアを起動中は、画面の切り替えを行わないでください。画面の切り替えを行った場合は、動画再生のソフトウェアを再起動してください。

◎ コントロール パネルで切り替える

コントロール パネルで画面の出力先を切り替えることができます。

●VA16F/DG、VA16F/DF、VA13F/DF、VA13F/DXの場合

1 次の操作を行う

- **Windows XPの場合**
  「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「デスクトップの表示とテーマ」→「画面」をクリックする
- **Windows 2000の場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンまたは「詳細」ボタンをクリックする

3 「Intel(R) Extreme Graphics」タブをクリックし、「グラフィックのプロパティ」ボタンをクリックする

4 「PCモニタ」「ノートブック」「テレビ」から表示したいデバイスのアイコンをクリックする

5 表示したいデバイスのアイコンに赤いチェックマークが付いているのを確認し、「OK」ボタンをクリックする

設定の保存を確認するメッセージが表示されます。

6 **「OK」ボタンをクリックする**

7 **「OK」ボタンをクリックする**

●VA18X/DF、VA18X/DX、およびオールインワンノート(Rシリーズ)の場合

1 **次の操作を行う**

- **Windows XPの場合**
  「スタート」ボタン→「コントロール　パネル」→「デスクトップの表示とテーマ」→「画面」をクリックする
- **Windows 2000／Windows Meの場合**
  「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール　パネル」をクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 **「設定」タブをクリックし、「詳細設定」または「詳細」ボタンをクリックする**

3 **「ATI画面」タブをクリックする**

「モニタ」「パネル」(「テレビ」)(「FPD」)の接続状態が表示されます。

4 **「モニタ」「パネル」(「テレビ」)(「FPD」)で、表示するデバイスのをクリックしてにする**

複数のをクリックすることで同時表示することができます。

5 **「OK」ボタンをクリックする**

設定を保存するかを確認するメッセージが表示されます。

6 **「はい」ボタンをクリックする**

7 **「OK」ボタンをクリックする**

> **チェック!!**
> **DVD VIDEOディスク再生は「プライマリ」に設定されているデバイスでのみ表示可能となります。**

◎ キーボードを使って切り替える

【Fn】を押したまま【F3】を押すと、キーを押すごとに画面の出力先が切り替わります。

ディスプレイに合わせて本機の設定をする

別売のCRTディスプレイを使用したときに、表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合には、次の操作を行ってください。

●Windows XPの場合

1 「スタート」ボタン→「コントロール　パネル」→「デスクトップの表示とテーマ」→「画面」をクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンをクリックする

3 「モニタ」タブをクリックし、「既定のモニタ」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする

4 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「ハードウェアの更新ウィザード」が表示されます。

5 「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

6 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」の○をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

7 「互換性のあるハードウェアを表示」の☑をクリックして□にする

8 「製造元」と「モデル」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」欄で「(標準モニタの種類)」を選択し、「モデル」欄で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。

9 「次へ」ボタンをクリックし、再度「次へ」ボタンをクリックする

10 「完了」ボタンをクリックする

11 「閉じる」ボタンをクリックする

12 「OK」ボタンをクリックする

13 「OK」ボタンをクリックする

●Windows 2000／Windows Meの場合

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロール パネル」をクリックし、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

3 次の操作を行う

- **Windows 2000の場合**

  「モニタ」タブをクリックし、「プラグアンドプレイモニタ」または「既定のモニタ」を選択し、手順4 に進んでください。

- **Windows Meの場合**

  「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする

  「デバイス ドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。手順6 に進んでください。

4 「プロパティ」ボタンをクリックする

5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「デバイス ドライバのアップグレード ウィザード」ウィンドウが表示されます。

6 次の操作を行う

- **Windows 2000の場合**

  「次へ」ボタンをクリックする

・**Windows Meの場合**
「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」の◯をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

7 次の項目の◯をクリックして◉にし、「次へ」ボタンをクリックする

・**Windows 2000の場合**
「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」

・**Windows Meの場合**
「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」

8 次の項目の◯をクリックして◉にする

・**Windows 2000の場合**
「このデバイス クラスのハードウェアをすべて表示」

・**Windows Meの場合**
「すべてのハードウェアを表示」

9 「製造元」と「モデル」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」欄で「(標準モニタの種類)」を選択し、「モデル」欄で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。

10 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする

11 「完了」ボタンをクリックする

12 「閉じる」ボタンをクリックする

13 「OK 」ボタンをクリックする

Windows 2000をお使いの場合は、手順14 に進んでください。
Windows Meをお使いの場合は、これでディスプレイの設定が完了しました。

14 「OK」ボタンをクリックする

Windows 2000をお使いの場合、これでディスプレイの設定が完了しました。

PCカード

使用上の注意

◎ PCカードスロットについて

・使用できるPCカードについては、「VersaPro/VersaPro R電子マニュアル」の「機能仕様一覧」をご覧ください。
・PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。

◎ PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。カードまたはスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。
・高温多湿あるいは低温の場所に放置しない
・濡らさない
・重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしない
・ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えない
・PCカードの端子部分に金属などを差し込まない

PCカード使用時の注意

・Windows Meでは、ATAカードをセットしていると、カードをセットしていないときよりもスタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかります。
・Windows MeでマルチファンクションカードとATAカードを同時にセットして使用する場合は、上側のスロット(スロット1)にマルチファンクションカードを、下側のスロット(スロット0)にATAカードをセットしてください。
・Windows MeでCardBus対応PCカードのドライバをインストール中に、「例外エラー」が発生する場合があります。この場合、Windowsを再起動すると、正常にインストールを完了することがあります。
・CardBus対応PCカードとATAカードなどの通常のPCカード(PCMCIA2.1/JEIDA4.2)を同時にご使用中に、Windowsの動作がおかしくなる場合があります。
その場合は、カードをセットするスロット(ソケット)を入れ替えてください。

PCカードのセットのしかたと取り出し方

◎ PCカードをセットする／取り出すときの注意

・PCカードをセットする／取り出す際は、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。
・PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。まちがった向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
・本機がスタンバイ状態（サスペンド）または休止状態（ハイバネーション）の場合は、セットしたり取り出したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。
・アプリケーションを使用中は、セットしたり取り出したりしないでください。

◎ PCカードのセットのしかた

1 差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、スロットに水平に静かに差し込む

参照 **PCカードスロットの位置について→「PART1　本体の構成各部」の「各部の名称」(p.16)**

チェック!!

PCカードスロットにカードをセットすると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります（表示される内容は、使用するメディアによって異なります）。このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをクリックしてください。どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上の☒または☒をクリックしてください。

◎ PCカードの取り出し方

1 「周辺機器の接続と設定」の「周辺機器の取り外しと再接続」（p.140）の手順1～5を行う

2 イジェクトボタンを押す

ボタンが手前に飛び出します。

3 もう一度イジェクトボタンを押す

4 PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く

チェック!!

Windows 2000／Windows Meをお使いの場合、上記の手順以外の方法でPCカードを取り出したときに「デバイスの取り外しの警告」または「予期しないPCカードの取り外し」ウィンドウが表示される場合があります。このような場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。

PCカードの割り込みレベルの設定

PCカードによっては、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルと「PART4　付録」の「割り込みレベルとDMAチャネル」(p.188)をご覧になり、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みレベルが重なる場合は、『活用ガイド　ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」の「周辺機器」の「別売の周辺機器を取り付けたが動作しない。別売の周辺機器を取り付けたらパソコンが起動しなくなった。他の機能が使えなくなった 」をご覧になり、重ならないように設定を変更してください。

VersaBay IVb
オールインワンノート(Dシリーズ)のみ

VersaBay IVbでは、購入時に取り付けられているVersaBay IVb用機器を取り外し、別売のVersaBay IVb用オプション機器を取り付けて使用することができます。

VersaBay IVbで使用できる機器

オールインワンノート(Dシリーズ)では、VersaBay IVbには次のような機器を取り付けて使用することができます。

・セカンドハードディスク(20Gバイト)※1
・セカンドハードディスク(30Gバイト)※2
・セカンドハードディスク(40Gバイト)(PC-VP-BU18)
・CD-ROMドライブ(PC-VP-BU15)
・CD-R/RWドライブ(PC-VP-BU16)
・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ(PC-VP-BU17)
・DVDマルチドライブ(PC-VP-WU22)

※1: 購入時にセカンドハードディスク(20Gバイト)、セカンドハードディスク(20Gバイト、StandbyDisk付き)を選択した場合のみ添付。別売はしておりません。
※2: 購入時にセカンドハードディスク(30Gバイト)、セカンドハードディスク(30Gバイト、StandbyDisk付き)を選択した場合のみ添付。別売はしておりません。

メモ
あらかじめ取り付けられている機器を取り外し、別売の拡張ベイカバー(VersaBay IVb用)(PC-VP-BS02)を取り付けると、本体の質量を軽くすることができます。

VersaBay IVbの機器を交換する

◎ 電源が入っている状態で機器を交換する

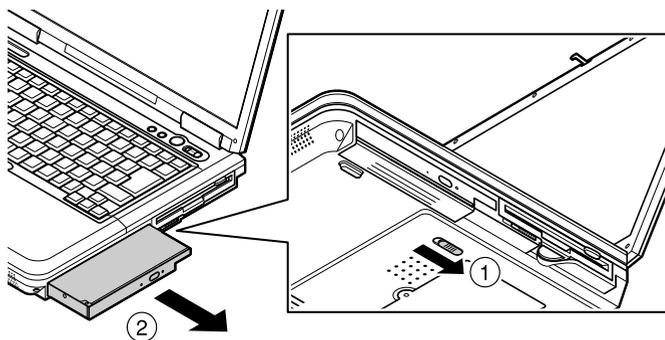
電源が入っている状態で機器の交換をするときは、「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」を使用します。

チェック!!

- スタンバイ状態または休止状態での機器の交換はできません。
- 電源が入っている状態で機器を交換するときは、液晶ディスプレイは開いたままで行ってください。液晶ディスプレイを閉じると、省電力機能の設定によってはスタンバイ状態や休止状態になることがあり、正しく復帰できなくなる場合があります。
- Windows 2000をお使いの場合、セカンドハードディスクは、いったん「ハードウェアの安全な取り外し」を使って取り外した後、再度取り付けを行うと、Windowsを再起動するまでセカンドハードディスクの転送モードがPIOモードになります。
- ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にしたセカンドハードディスクは、本機の電源が切れている状態で交換を行ってください。スタンバイ状態または休止状態中の交換はできません。

1 **「周辺機器の接続と設定」の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.140)の手順1〜4を行う**

2 **本体の右側面を少し持ち上げる**

3 **本体底面にあるVersaBay IVbアンロック(①)を、図のように矢印の方向にスライドさせたままの状態で機器を引き抜く(②)**

4 **取り付ける機器をカチッと音がするまで差し込む**

機器を交換した後は、持ち上げていた本体を静かに下ろしてください。

VersaBay IVbに機器を取り付ける場合は、本体の右側面を高く持ち上げたりせずに、水平に近い状態にして機器を押し込んでください。本体の右側面を上にして、立てた状態で機器を落として取り付けたりすると、本体や機器の故障の原因となる場合があります。

◎ 電源が切れている状態で機器を交換する

チェック!!

- **スタンバイ状態や休止状態のときに、VersaBay IVbの機器を交換することはできません。**
- **Windows XPでスタンバイ状態または休止状態から復帰後、「新しいデバイスが見つかりました」というメッセージが表示される場合があります。その場合は、ウィンドウ右上の×をクリックしてください。デバイスはそのまま使用できます。**
- **Windows 2000でスタンバイ状態または休止状態から復帰後、「デバイスの取り外しの警告」ウィンドウが表示される場合があります。その場合は「OK」ボタンをクリックしてください。警告が発生したデバイスは、そのまま使用できます。**

電源が切れている状態で機器を交換する場合は、Windowsでの設定は必要ありません。「電源が入っている状態で機器を交換する」の手順2～4にしたがって機器を交換してください。

メモ

電源が切れている状態でVersaBay IVbから機器を取り外す場合は、液晶ディスプレイを閉じて本体を裏返した状態で取り外すこともできます。

MultiBay-b

オールインワンノート（Dシリーズ）のみ

MultiBay-b では、購入時に取り付けられているMultiBay-b用機器を取り外して、別売のMultiBay-b用オプション機器を取り付けて使用することができます。

MultiBay-bで使用できる機器

オールインワンノート（Dシリーズ）のMultiBay-bには次のような機器を取り付けて使用することができます。

・セカンドバッテリパック（PC-VP-WP52）

・フロッピーディスクドライブ（フロッピーディスクモデルのみ添付）

メモ

あらかじめ取り付けられている機器を取り外し、別売の拡張ベイカバー（MultiBay-b用）（PC-VP-WS12）を取り付けることで、本体の質量を軽くすることができます。

MultiBay-bの機器を交換する

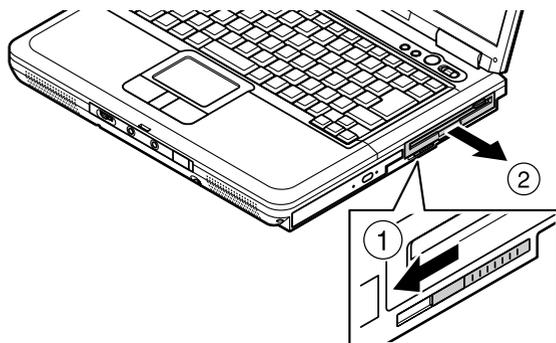
◎ 電源が入っている状態で機器を交換する

電源が入っている状態で機器の交換をするときは、「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」を使用します。

チェック!!

- **スタンバイ状態または休止状態での機器の交換はできません。**
- **電源が入っている状態で機器を交換するときは、液晶ディスプレイは開いたままで行ってください。液晶ディスプレイを閉じると、省電力機能の設定によってはスタンバイ状態や休止状態になることがあり、正しく復帰できなくなる場合があります。**
- **MultiBay-bからフロッピーディスクドライブを取り外している場合でも、「マイ コンピュータ」や「ハードウェアの安全な取り外し」に「3.5インチFD」または「標準フロッピーディスクコントローラ」が表示される場合があります。**

1 **「周辺機器の接続と設定」の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.140)の手順1〜4を行う**

2 **本体右側面にあるMultiBay-bアンロック(①)を、図のように矢印の方向にスライドさせたままの状態で機器を引き抜く(②)**

3 **取り付ける機器をカチッと音がするまで差し込む**

チェック!!

MultiBay-bに機器を取り付ける場合は、本体の右側面を高く持ち上げたりせずに、水平に近い状態にして機器を押し込んでください。本体の右側面を上にして、立てた状態で機器を落として取り付けたりすると、本体や機器の故障の原因となる場合があります。

◎ 電源が切れている状態で機器を交換する

チェック!!

スタンバイ状態や休止状態の時に、MultiBay-bの機器を交換することはできません。

電源が切れている状態で機器の交換をする場合は、Windowsでの設定は必要ありません。「電源が入っている状態で機器を交換する」の手順2〜3にしたがって機器を交換してください。

USBコネクタ

USB対応機器は、一般の周辺機器と異なり、本機の電源を入れた状態のまま、接続したり取り外すことができます。

USBとは

USBとはUniversal Serial Bus の頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。
接続できるおもなUSB対応機器として、マウス、プリンタ、デジタルカメラ、携帯電話やPHSなどがあります。

メモ

・USB対応機器の、本機での動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧いただくか、各機器の発売元にお問い合わせください。なお、NEC製のUSB対応機器の情報は、NECの企業向けパソコン関連総合サイト「NEC8番街」をご覧ください。
　http://nec8.com/
　→「サポート情報」→「商品情報検索」
・接続する機器によっては、接続ケーブルが必要な場合があります。

USBコネクタに接続する

◎ 接続する前に

チェック!!

Windows XPまたはWindows 2000をお使いの場合、USB2.0対応機器を使用するためにはBIOSセットアップユーティリティでの設定が必要です。必ず「USB2.0を利用する」をご覧になり設定を行ってください。

機器によっては、接続する前や接続したあとにドライバのインストールや、スイッチなどの設定が必要な場合がありますので、接続するUSB対応機器のマニュアルを読んでおき、ドライバなどのインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意してください。

メモ

・接続してすぐ使うことができるUSB対応機器がありますが、そのままではいくつかの機能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。
・USB対応機器は、本機の電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。

◎ 接続するときの注意

・USB対応機器の抜き差しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
・USBコネクタにプラグをすばやく差したり斜めに差したりすると、信号が読みとれずに不明なデバイスとして認識されることがありますので、その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、もう一度正しく接続しなおしてください。
・はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。
・スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中のときは、USB対応機器を抜き差ししないでください。
・USB対応機器を接続した状態では、スタンバイ状態に移行できない場合があります。スタンバイ状態に移行する前にUSB対応機器を外してください。
・USBマウス使用時にNXパッドを無効にしたい場合は、BIOSセットアップユーティリティの「拡張(Advanced)」メニューの「NXパッド&PS2/マウス(PS/2 Mouse)」の設定を「使用しない(Disabled)」にしてください。
・外付けUSBハブ経由でUSB対応機器を使用する場合は、USBハブを本機に接続してからUSB対応機器を接続するようにしてください。USBハブにUSB対応機器を接続した状態でUSBハブを本機に接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。
・USB機器の有無にかかわらず「デバイス　マネージャ」ウィンドウにある「USB(Universal Serial Bus)コントローラ」の記述は削除、無効にしないでください。
・Windows Meをお使いの場合、「デバイス マネージャ」の「ユニバーサルシリアルバス コントローラ」に表示されるドライバに緑の「?」が表示されますが、USB対応機器は問題なく使用することができます。

◎ USB2.0を利用する

チェック!!

- **Windows XP／Windows 2000をお使いの場合は、必ず次の手順を行ってください。**
- **Windows Meを使用している場合は、USB2.0は利用できません。**

本機のUSBコネクタは、USB2.0に対応しています。USB2.0に対応している周辺機器を取り付けることで、USB2.0の転送速度を利用することができます。USB2.0に対応している周辺機器には、外付けのハードディスクドライブやCD-R/RWドライブなどがあります。

■ USB2.0を利用するための準備

本機でUSB2.0を利用するためには、BIOSセットアップユーティリティでの設定が必要です。次の手順で設定を行ってください。

1 本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。

参照 **BIOSセットアップユーティリティについて→「PART3　システムの設定」の「BIOSセットアップユーティリティの使い方」(p.178)**

2 「詳細(Advanced)」メニューの「USB動作モード(USB Operation Mode)」を選択する

3 「2.0モード(2.0 Mode)」を選択する

4 【F10】を押す

「セットアップ確認」ウィンドウが表示されます。

5 「はい(Yes)」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

BIOSセットアップユーティリティが終了し、Windowsが自動的に再起動します。

これで、USB2.0を利用するための準備は完了です。

■ **USB2.0を利用する場合の注意**

・USB2.0の転送速度を出すにはUSB2.0対応の機器を接続する必要があります。また、USB2.0の機器をUSB1.1規格のハブで利用した場合はUSB1.1の転送速度に制限されます。

・本機でWindows 2000をお使いの場合、スタンバイ状態または休止状態から復帰後、接続しているUSBキーボード/USBマウスが動作するまでに時間がかかることがあります。

・本機でWindows 2000をお使いのときに、USB対応機器を接続したままの状態でスタンバイ状態または休止状態にした場合、スタンバイ状態または休止状態から復帰後に「デバイスの取り外しの警告」が表示されることがあります。
この場合は次の手順を行い、スタンバイ状態または休止状態にする前にUSB対応機器を取り外してください。

1 **USB対応機器が使用中でないことを確認し、タスクトレイの「取り外し」アイコンをクリックする**

2 **表示されたUSB対応機器を選択し、「停止」ボタンをクリックする**
表示されるUSB対応機器の例:
・NEC USB Floppy

3 **「ハードウェアの取り外し」ウィンドウが表示されたら、「OK」ボタンをクリックする**

4 **停止させたUSB対応機器を本体から取り外す**

再度USB対応機器を使用する場合は、スタンバイ状態、または休止状態から復帰後にUSB対応機器を再接続してください。

・本機でWindows 2000を使用し、スタンバイ状態または休止状態から復帰させた場合、USB接続機器(キーボード、マウス、プリンタ等)が動作しないことがあります。この場合は一度USB対応機器を抜き差ししてください。

チェック!!

印刷中にプリンタが停止し、「印刷キュー」に印刷中のドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントを一度キャンセルし、プリンタに接続しているUSBケーブルを抜き差ししてから再度印刷してください。
なお、印刷中ドキュメントのキャンセルには時間がかかる場合があります。

◎ USBコネクタに機器を取り付ける

1 USBコネクタ( )にプラグを差し込む

USBコネクタが複数ある場合は、どのコネクタに接続してもかまいません。プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

接続したUSB対応機器が正しく本機に認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

◎ USBコネクタから機器を取り外す

USB対応機器によっては、機器を接続すると画面右下の通知領域(タスクトレイ)にまたはが表示されます。このような機器の取り外しは、またはをダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」または「ハードウェアの取り外し」ウィンドウで行います。正しく取り外しを行わないと、本機が正常に動作しなくなることがありますので、「周辺機器の取り外しと再接続」をご覧になり、正しい手順で取り外しを行ってください。

参照 USBコネクタから機器を取り外すには→「周辺機器の取り外しと再接続」

◎ 別売の外付けUSBキーボードの接続

別売の外付けUSBキーボードは、USBコネクタに取り付けます。 別売の外付けUSBキーボードにUSBコネクタがある場合は、別売のUSB機器を取り付けることができます。

チェック!!

セーフモードで起動した場合やBIOSセットアップユーティリティでは、外付けUSBキーボードは使用できません。

メモ

外付けUSBキーボードの設定は、本機のキーボードと同じようにWindowsで設定することができます。

PART

3

システムの設定

BIOSセットアップユーティリティについて説明します。BIOSセットアップユーティリティは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップユーティリティの使い方」を読んだ後に、目的にあわせてお読みください。

この章の内容

BIOSセットアップユーティリティの使い方

BIOSセットアップユーティリティは、本機の使用環境を設定するためのものです。

起動と終了

◎ 起動のしかた

1 本機の電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。

チェック!!

BIOSセットアップユーティリティが表示されない場合は、【F2】を押す間隔を変えてください。

◎ 終了のしかた

◆ 変更を保存して終了する

1 【F10】を押す

セットアップ確認の画面が表示されます。
終了を中止したいときは【Esc】を押してください。

2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。

メモ

メニューバーの「終了」で「変更を保存して終了する」を選んでBIOSセットアップユーティリティを終了することもできます。

◆変更を保存せず終了する

1 キーボードの【←】【→】でメニューバーの「終了」を選ぶ
メニューが表示されます。

2 キーボードの【↓】で「変更を保存せずに終了する」を選ぶ
設定値を変更せずにBIOSセットアップユーティリティが終了します。

BIOSセットアップユーティリティの使い方

◎ 日本語表示に切り替える

1 BIOSセットアップユーティリティを起動する

2 【↑】または【↓】を押して「Language」を選び、【Enter】を押す

3 【↑】または【↓】を押して「日本語(JP)」を選び、【Enter】を押す

4 【F10】を押す
確認の画面が表示されます

5 「はい」になっていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。
以降、BIOSセットアップユーティリティが日本語で表示されるようになります。

◎ BIOSセットアップユーティリティの基本操作

・操作はキーボードで行います。
・【←】【→】でメニューバーのカーソルを選択し、【↑】【↓】で設定項目を選択します。設定内容の値は【F5】【F6】で変更するか、【Enter】でポップメニューを表示して変更します。
・設定内容(例:システム時刻の時、分、秒)のカーソル移動は【Tab】または【Enter】で選択します。時刻、日付の値は数字キーで入力できます。
・▶印がついた設定項目は【Enter】でサブメニューを表示し、【Esc】で元の画面に戻ります。

Windows XPをお使いの場合、「詳細」メニューの「USB動作モード」は必ず「2.0モード」に設定して使用してください。

設定項目一覧

ここではBIOSセットアップユーティリティでどのような設定ができるかを説明しています。表中の反転部分は、購入時の設定です。

◎「メイン」メニュー

チェック!!

「内蔵HDD／VersaBay」の設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合があるので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目	設定内容	説　明
システム時刻	―	現在の時刻を「時:分:秒」(24時間形式)で設定します。
システム日付	―	日付を「年／月／日」(西暦)で設定します。「言語」を「English(US)」に設定している場合は、「日／月／年」で入力します。
言語	English(US) 日本語(JP)	BIOSセットアップユーティリティで使用する言語を設定します。標準では「English(US)」に設定されています。
フロッピィディスクA	使用しない 1.44/1.25 MB 3.5"	フロッピーディスクドライブのモードを選びます。「1.44/1.25 MB 3.5"」の場合、フロッピーディスクドライブが使用できます。「使用しない」の場合、フロッピーディスクドライブは使用できません。
内蔵HDD／内蔵CD/DVD※1	―	現在接続されているIDEデバイスが表示されます。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すと設定画面が表示されます。【Esc】を押すとメイン画面に戻ります。

設定項目		設定内容	説　明
内蔵HDD／内蔵CD/DVD※1	タイプ	**自動** ユーザ CD/DVD なし	BIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。設定は変更しないでください。
	32ビットI/O	**使用しない** 使用する	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。
システムメモリ		—	搭載されているシステムメモリ容量を表示します。
拡張メモリ		—	搭載されている拡張メモリを表示します。
CPUタイプ		—	CPUタイプを表示します。
CPU速度		—	CPU速度を表示します。
BIOSバージョン		—	BIOSのバージョンを表示します。

※1: オールインワンノート(Dシリーズ)では「内蔵CD/DVD」は「VersaBay」と表示されます。

◎「詳細」メニュー

設定項目	設定内容	説　明
起動時のNum-Lock	オン **オフ**	起動時にNum Lockをオンにするかどうかを設定します。
NXパッド&PS/2マウス	使用しない **自動**	「使用しない」に設定すると、NXパッドとPS/2マウスが動作しなくなり、IRQ12を開放します。「自動」に設定すると、外部マウスが優先されます。
LCDパネルの拡張表示	**オン** オフ	LCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。「オン」に設定すると、LCDパネルの最大表示サイズ以下の表示画面では拡大されて表示されます。
ビデオメモリサイズ※1	8MB **16MB** 32MB 64MB※2 128MB※2	AGPビデオデバイスが使用するビデオメモリサイズを設定します。設定により使用可能な拡張メモリサイズも増減します。
ハイバネーション警告表示	表示 **非表示**	「表示」に設定すると、ハイバネーションの警告に関するメッセージが表示されます。本機では「非表示」で使用してください。
セットアップ情報画面	**使用しない** 使用する	起動時にシステム設定状況を表示するかどうかを設定します。

設定項目	設定内容	説　明
サイレントブート	自己診断画面 **ロゴ画面** 非表示※3	ブート時の画面を設定します。
USB動作モード※4	**1.1モード** 2.0モード	オプションを使用して、USB動作モードを設定します。
リモート電源制御	使用する **使用しない**	リモート電源制御を行うかどうかを設定します。「使用する」に設定すると、LANによって復帰します。
Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ※5	使用しない **使用する**	「使用する」に設定すると、AC駆動の場合は自動的に最高性能で動作します。バッテリ駆動の場合はバッテリ残量に応じて最適な性能で動作します。「使用しない」に設定すると、Intel(R)SpeedStep(TM)テクノロジが使用できなくなります。
周辺機器設定	―	各周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルをあわせて【Enter】を押すと、周辺機器設定を行うことができます。

※1：VA16F/DG、VA16F/DF、VA13F/DF、VA13F/DXでは、この項目は表示されません。
※2：メモリ容量が128MBの場合は、この項目は表示されません。
※3：BIOSセットアップユーティリティを起動する場合は、電源を入れた後、1秒おきに【F2】を押すことを何度かくりかえしてください。
※4：Windows XPをお使いの場合、必ず「2.0モード」で使用してください。
※5：VA18X/DF、VA18X/DX、VA18X/RF、VA18X/RXでは、この項目は表示されません。

◎ 周辺機器設定

設定項目	設定内容	説　明
シリアルポートA	使用しない 使用する **自動**	「自動」に設定すると、BIOSが自動的にシリアルポートの設定を行います。「使用する」に設定すると、ユーザがシリアルポートのI/Oベースアドレスを設定できます。「使用しない」に設定すると、シリアルポートは使用できません。
I/Oベースアドレス	**3F8** 2F8 3E8 2E8	「シリアルポートA」を「使用する」に設定すると表示されます。シリアルポートのI/Oベースアドレスを設定します。
赤外線ポート	**使用しない** 使用する 自動	「使用しない」に設定すると、赤外線ポートは使用できません。「使用する」に設定すると、ユーザが赤外線ポートのI/Oベースアドレスを設定できます。「自動」に設定すると、BIOSが自動的に赤外線ポートの設定を行います。

設定項目	設定内容	説　明
モード	IrDA **FIR**	「赤外線ポート」を「使用する」または「自動」に設定すると表示されます。「赤外線」ポートのモードを設定できます。
I/0ベースアドレス	3F8 **2F8** 3E8 2E8	「赤外線ポート」を「使用する」に設定すると表示されます。赤外線ポートのI/0ベースアドレスを設定することができます。「自動」に設定すると、BIOSが自動的にパラレルポートの設定を行います。
パラレルポート	使用しない 使用する **自動**	「使用する」に設定すると、ユーザがパラレルポートのI/0ベースアドレスを設定できます。「使用しない」に設定すると、パラレルポートは使用できません。
モード	**双方向** EPP ECP	「パラレルポート」を「使用する」または「自動」に設定すると表示されます。パラレルポートのモードを設定します。
I/0ベースアドレス	**378** 278 3BC	「パラレルポート」を「使用する」に設定すると表示されます。パラレルポートのI/0ベースアドレスを設定します。
フロッピィコントローラ	使用しない **使用する**	設定は変更しないで「使用する」のまま使用してください。
セカンダリIDEチャネル	**使用する** 使用しない	オプションを指定して、CD/DVDまたは2ndHDD※1の設定を行います。

※1: オールインワンノート（Dシリーズ）のみ

◎「セキュリティ」メニュー

参照 パスワードの設定→「PART1 本体の構成各部」の「セキュリティ機能」(p.120)

設定項目	設定内容	説　明
スーパバイザパスワード設定	—	スーパバイザパスワードの設定または変更を行います。【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。
ユーザパスワード設定	—	ユーザパスワードの設定または変更を行います。 スーパバイザパスワードを設定していないとユーザパスワードの設定はできません。 【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。
ＨＤＤパスワードの設定※1	—	【Enter】を押すとハードディスクのパスワード設定画面が表示されます。

※1:オールインワンノート(Rシリーズ)では、この項目は表示されません。

■ スーパバイザパスワード／ユーザパスワードの設定

設定項目	設定内容	説　明
起動時のパスワード	**使用しない** 使用する	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。
ハードディスク起動セクタ	**通常動作** 書込み禁止	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。
ディスクアクセス※1	**スーパバイザ** ユーザ	「スーパバイザ」に設定すると、ユーザパスワードで起動した状態ではディスクドライブに対してアクセスできなくなります。

※1:スーパバイザパスワードを設定していないと「ディスクアクセス」は設定できません。

■ HDDパスワードの設定(オールインワンノート(Dシリーズ)のみ)

設定項目	設定内容	説　明
内蔵HDDパスワードの設定	使用する 使用しない	ハードディスクのセキュリティを有効にするかどうかを設定します。ハードディスクのパスワードが設定されていないと「内蔵HDDパスワードの設定」の設定を変更することはできません。
2ndHDDパスワードの設定	使用する 使用しない	セカンドハードディスクを取り付けた場合のみ表示されます。セカンドハードディスクのセキュリティを有効にするかどうかを設定します。

チェック!!

ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータが消えてしまい、ハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないよう十分に注意してください。

◎「起動」メニュー

設定項目	設定内容	説　明
Networkブート	使用しない 使用する	「使用する」に設定すると、ネットワークから本機を起動することができるようになります。購入時は「使用しない」に設定されています。
起動順位	―	本機を起動するとき、上から表示されている順にOSを検索します。 OSが存在しないなど起動に失敗した場合は、次のデバイスから起動します。デバイス名の左に+の表示があるデバイスにカーソルをあわせて【Enter】を押すと展開表示されます。 起動するデバイスの順番を変更するには、【↑】【↓】を使用して変更したいデバイスにカーソルをあわせて【F5】で上に、【F6】で下に移動します。

PART

4

付録

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

割り込みレベル・DMAチャネル

本機で使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャネル」などがあります。

割り込みレベルとDMAチャネルについて

リソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。リソースが複数の機器に割り当てられている状態(リソースの競合)では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいますので、競合しないように設定してください。

◎ 割り込みレベル

「割り込みレベル(IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。本機では、購入時には次のように割り当てられています。

●VA16F/DG、VA16F/DF、VA13F/DF、VA13F/DXの場合

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	10	USBホストコントローラ
1	キーボード		アクセラレータ
2	割り込みコントローラ		内蔵FAXモデム※2
3	(空き)※1		サウンド
4	通信ポート		CardBusコントローラ
5	SMBusコントローラ		内蔵LANインターフェイス
6	フロッピーディスクコントローラ		ワイヤレスモジュール※3
7	(空き)	11	(空き)
8	システムクロック	12	NXパッド
9	ACPI用システム割り込み	13	数値データプロセッサ
		14	プライマリIDEコントローラ
		15	セカンダリIDEコントローラ

※1:赤外線通信機能使用時には赤外線通信ポートに割り当てられます。
※2:FAXモデムモデルのみ。
※3:ワイヤレスLAN(無線LAN)モデルのみ。

●VA18X/DF、VA18X/DXの場合

IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	(空き)※1
4	通信ポート
5	内蔵FAXモデム※2※3
6	フロッピーディスクコントローラ
7	(空き)
8	システムクロック
9	ACPI用システム割り込み
10	USBホストコントローラ アクセラレータ
11	USBホストコントローラ サウンド CardBusコントローラ 内蔵FAXモデム※2※4 内蔵LANインタフェース ワイヤレスモジュール※5
12	NXパッド
13	数値データプロセッサ
14	プライマリIDEコントローラ
15	セカンダリIDEコントローラ

※1:赤外線通信機能使用時には赤外線通信ポートに割り当てられます。
※2:FAXモデムモデルのみ。
※3:Windows XPの場合。
※4:Windows 2000の場合。
※5:ワイヤレスLAN(無線LAN)モデルのみ。

●オールインワンノート(Rシリーズ)の場合

■Windows XP/Windows 2000使用時

IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	(空き)※1
4	通信ポート
5	内蔵インターフェイス※3 サウンド※3
6	フロッピーディスクコントローラ
7	(空き)
8	システムクロック
9	ACPI用システム割り込み
10	内蔵FAXモデム※2※3
11	内蔵FAXモデム※2※4 USBホストコントローラ アクセラレータ 内蔵LANインタフェース※4 サウンド※4 CardBusコントローラ ワイヤレスモジュール※5
12	NXパッド
13	数値データプロセッサ
14	プライマリIDEコントローラ
15	セカンダリIDEコントローラ

※1:赤外線通信機能使用時には赤外線通信ポートに割り当てられます。
※2:FAXモデムモデルのみ。
※3:Windows XPの場合。
※4:Windows 2000の場合。
※5:ワイヤレスLAN(無線LAN)モデルのみ。

■Windows Me使用時

IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	(空き)※3
4	通信ポート
5	内蔵LANインターフェイス サウンド
6	フロッピーディスクコントローラ
7	ECPプリンタポート
8	システムクロック
9	ACPI用システム割り込み
10	内蔵FAXモデム※1
11	USBホストコントローラ アクセラレータ CardBusコントローラ ワイヤレスモジュール※2
12	NXパッド
13	数値データプロセッサ
14	プライマリIDEコントローラ
15	セカンダリIDEコントローラ

※1:FAXモデムモデルのみ。
※2:ワイヤレスLAN(無線LAN)モデルのみ。
※3:赤外線通信機能使用時には赤外線通信ポートに割り当てられます。

◎DMAチャネル

「DMAチャネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。本機では、購入時には次のように割り当てられています。

●VA16F/DG、VA16F/DF、VA13F/DF、VA13F/DXの場合

DMA	インターフェイス		
	デフォルト	プリンタポートをECPで使用する場合	さらにIRを使用する場合
#0	(空き)		
#1	(空き)		IR
#2	フロッピーディスクコントローラ		
#3	(空き)	ECP	
#4	DMAコントローラ		

●VA18X/DF、VA18X/DXの場合

DMA	インターフェイス		
	デフォルト	プリンタポートをECPで使用する場合	さらにIRを使用する場合
#0	(空き)	ECP	
#1	(空き)		
#2	フロッピーディスクコントローラ		
#3	(空き)		IR
#4	DMAコントローラ		

●オールインワンノート（Rシリーズ）の場合

DMA	インターフェイス		
	デフォルト	プリンタポートをECPで使用する場合	さらにIRを使用する場合
#0	（空き）		IR
#1	（空き）	ECP	
#2	フロッピーディスクコントローラ		
#3	（空き）		
#4	DMAコントローラ		

4
付録

お手入れについて

お手入れをはじめる前に

⚠注意

感電注意

● お手入れの前には、必ず本機や周辺機器の電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてください。
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電の原因となることがあります。

チェック!!

- **お手入れにはシンナー、ベンジンなど揮発性有機溶剤や化学雑巾は使用しないでください。外装を傷めたり、故障の原因となることがあります。**
- **水やぬるま湯を本機に直接かけないでください。傷みや故障の原因となることがあります。**

◎ 準備するもの

汚れが軽い場合は、やわらかい素材の乾いたきれいな布を用意してください。汚れがひどい場合は、水かぬるま湯を含ませて堅くしぼったきれいな布を用意してください。

メモ

0A機器用クリーニングキットも汚れをふき取るのに便利です。
0A機器用クリーニングキットについては、ご購入元、NECフィールディングなどにお問い合わせください。

お手入れのしかた

■ 本体／NXパッド／キーボード

用意した布でふいてください。
キーボードのすきまにゴミが入ったときは、専用のクリーナーなどでゴミをとってください。
ゴミがとれないときは、ご購入元、NECフィールディングなどにお問い合わせください。

■ 液晶ディスプレイ

やわらかい素材の乾いたきれいな布でふいてください。
水やぬるま湯は使わないでください。

■ フロッピーディスクドライブ

別売のクリーニングディスクを使い、ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

■ 電源コード／ACアダプタ

長期間にわたって接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。
定期的にほこりをふき取るようにしてください。

参照 **NECのお問い合わせ先について→『NEC PC あんしんサポートガイド』**

4
付録

索　引

索 引

英字

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

索引

活用ガイド
ハードウェア編

PC98-NX SERIES

VersaPro

オールインワンノート
(Dシリーズ/Rシリーズ)

初版　2003年5月
NEC
P
853-810602-062-A